
目 次

巻頭言 年報序文	片山 一朗
皮膚科	1
2014年 教室員紹介業績	4
原著（英文・和文）.....	27
総説（和文）.....	31
監修・編集・著書	33
特別講演	35
座長（国際学会・国内学会）.....	37
学会発表（国際学会・国内学会・研究会）.....	43
報告書	49
受賞	51
その他	52
皮膚・毛髪再生医学寄附講座教室員紹介	54
再生誘導医学寄附講座教室員紹介	63
関連病院施設紹介	65
関連病院業績	89

年報序文

大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学皮膚科 教授
片 山 一 朗



スーパーローテートが開始され、私の大阪大学教授としての在職期間と同様、はや10年以上が経過した。研修医の大学離れ、医局離れ、そして大学院への進学者や海外留学希望者の減少が毎年この時期、基礎、臨床、地域を問わず、教授の間で話題になる。その中でスーパーローテートシステム開始と平行して行われた大学院制度改革にともない、多くの基礎、臨床の教室が講座名称を変更し、特に基礎では何をやっている教室かが全く分からなくなった。確かにアメリカのように大統領がかわるとホワイトハウスのスタッフがすべて入れ替わるのと同様、大学でも教授がかわると、場合により開学以来蓄積されてきた多くの知的財産や貴重な医学資料、機器がすべて処分され、その時点で、その教室の歴史に幕が下ろされる。「スクラップ アンド ビルド」により新たな研究分野を創出するのは短期の結果が要求される科学の分野では重要かもしれないが、知的財産、歴史・文化を継承して行く場合、大学の不毛化を加速させる危惧が常にある。大阪大学総長である平野俊夫先生が医学部長の頃、「大阪大学医学部の基礎教室がシャッター通り化している」との危惧を述べられ、大きく研究改革の方向に舵を切られ、最近では以前よりは活気が戻りつつあるが、新たな専門医制度の開始により、大学院への進学がさらに減少する事が予測される。ヨーロッパではどこに行っても新市街と旧市街が混在し、アメリカ型の量販店と伝統を引き継いだ職人が集まる商店街がうまく共存し、大切なその国の歴史、文化を後世に伝えている。翻って今の日本では日本の伝統ある職人芸が減び、つい最近まで、そこ、ここにあった、地域の商店街が次々と消えていきつつある。

2014年は大阪大学皮膚科の皆さん方、自身の皮膚科学を真摯に追求され、臨床、研究に大きな成果を挙げられた。特に金田眞理先生は長年、診療されてきた結節性硬化症の症例を取り纏められ、素晴らしい臨床研究として2013年にPLoS Oneに発表され、その後も厚労科研で結節性硬化症の皮膚病変に対するラパマイシンの医師主導治験で大型の研究費を獲得され、今年も多汗症や神経線維腫への応用で、引き続き研究費を獲得されている。このような、ご自身の臨床的な視点からの応用研究は私が目指す究極の目標であり、世界に誇れる成果である。また中国から日本に來られ、大阪大学の皮膚科大学院に進まれた楊伶俐先生は強皮症やアトピー性皮膚炎の真皮結合組織のリモデリングにかかわる新たな分子機構を、寺尾美香先生は皮膚のステロイドホルモン産生機構に関わる研究をあいっついで報告され、この分野で世界をリードされている。2010年から私も厚労研究班班長として白斑のガイドライン策定、病因論の研究、新規治療法の確立などに取り組んできたが一昨年から化粧品による白斑の病態研究にも取り組み、皆さんの協力である程度の成果が挙げられ、今年からの厚生労働省の研究へとつなげる事ができた。スタッフと若い先生の連携とその成果を見ると、大阪大学皮膚科に脈々と受け継がれてきた歴史、伝統に根ざした教室の財産を基盤としてそこに新しい視点からの研究手法が導入され、次の時代を切り開いて行く大きな成果が得られつつある。先に述べたように、一度途絶えた伝統を復興させるのは至難の業である。大学というアカデミアでもその危機感を共有し、次の世代を育てていくことが我々の大きな役割である。昨年12月に千里で開催した第39回日本研究皮膚科学会はメインテーマを「Global Tuning of Innovative Dermatology」とし、大きな成功をおさめた。協力頂いた教室員、同門の先生には心よりお礼を申し上げるとともに、ここ千里が丘から伝統に根ざした次の時代の扉を拓き、あらたな歴史を創り出す研究が生まれる事を願い、2014年の年報の序とさせていただきます。

教室構成 (2014 年 4 月現在)

名 誉 教 授	佐野榮春	吉川邦彦			
教 授	片山一朗				
准 教 授	室田浩之				
講 師	金田眞理	種村 篤			
助 教	谷 守	小豆澤宏明	山岡俊文	田中 文	清原英司
医 員	村上有香子	荒瀬規子	角村由紀子		
特 任 助 教	林 美沙				
研 修 医	山本 笑	出口彩香	宇都宮綾乃		
大学院(博士)	西岡めぐみ	越智沙織	田原真由子	田上尚子	山賀康右
	神谷 智	加藤健一	小野慧美	進藤翔子	小紫雄貴
	山田瑞穂	木嶋晶子			
大学院(修士)	油谷美寿季				
特任研究員(常勤)	寺尾美香				
特 任 研 究 員	田中まり	楊 伶俐	楊 飛		
技 官	西田健樹				
事 務 補 佐 員	二上知子	光山久実子	杉山良子	杉浦舞子	荒木富子
	滕 蘭婷				
技 術 補 佐 員	延吉絵里子	藤井由美子	松村智加	楊 麗萍	

非 常 勤 講 師	西岡 清	浅田秀夫			
招 聘 教 員	片岡葉子	土居敏明	東山真里	調 裕次	福山國太郎
	衣笠哲雄	羽白 誠	園田早苗	佐野栄紀	吉良正浩
	樽谷勝仁				
臨 床 教 授	東山真里	田所丈嗣	調 裕次	園田早苗	吉良正浩
臨 床 准 教 授	横見明典				
学 部 内 講 師	谷 守	小豆澤宏明	山岡俊文	田中 文	

医 局 長	小豆澤宏明
病 棟 医 長	清原英司
外 来 医 長	谷 守

皮膚・毛髪再生医学寄附講座

教 授	板見 智	
准 教 授	乾 重樹	
助 教	野口史人	
技 術 補 佐 員	吉川裕子	中村美幸

再生誘導医学寄附講座

教 授	玉井克人
-----	------

皮膚科

1. スタッフ

科長（兼）教授 片山 一朗
准教授 1 名，講師 2 名，助教 5 名，特任助教（常勤）1 名，医員 3 名，特任研究員（常勤）1 名，特任研究員（非常勤）3 名，大学院生 12 名，臨床登録医 5 名，技術職員 1 名，技術補佐員 4 名，事務補佐員 3 名，寄附講座教授 2 名，寄附講座准教授 1 名，寄附講座助教 1 名，技術補佐員 2 名

2. 診療内容

皮膚科全般を対象としているが、特にアトピー性皮膚炎，膠原病，薬疹，自己免疫水疱症などのアレルギー性疾患を中心に菌状息肉症，皮膚潰瘍，乾癬，脱毛症，白斑などの疾患や結節性硬化症，先天性角化異常症及び先天性表皮水疱症などの遺伝性皮膚疾患に対応し，きめ細やか，かつ専門的・先進的医療を提供している。

アトピー性皮膚炎の場合，専門外来での外来診療のみならず，皮疹悪化の原因の究明と患者の教育のために短期間の入院治療も行っている。また，関連病院間で病診連携を開始し，当科は大阪を中心としたアトピー性皮膚炎の拠点病院となっている。

膠原病の中でも特に強皮症，シェーグレン症候群の病態解明とその治療，その他の膠原病の診断とステロイドや免疫抑制剤を用いた治療を行っている。

尋常性乾癬と尋常性白斑の治療で，近年 Nallow-band UVB 療法という波長 311nm の光線を選択的に当てられる装置による光線療法が従来の UVA,UVB を用いた光線療法と比べて有効であるという報告があり，当科でも現在この Nallow-band UVB を半身に照射できる装置と波長 308nm のエキシマランプを用いた治療を行っているとともに，尋常性乾癬の難治例には生物製剤や免疫抑制剤による治療，尋常性白斑の治療としてビタミン D3 療法や吸引水疱蓋による皮膚移植，ミニグラフトも行っている。

菌状息肉症，皮膚リンパ腫の場合，そのステージに応じて治療を行っており，初期のステージでは上述の Nallow-band UVB 療法を含んだ光線療法を外来で行っており，ステージが進んでくると入院の上光線療法と化学療法を組み合わせで行っており，治療成績の向上に役立っている。さらに，臨床治験も多く，積極的に行っている。

円形脱毛症の治療として 外来で DPCP を用いた感作療法を行っている。また FACS を用いた in vitro

のアレルギー検査も行っている。

皮膚悪性腫瘍の場合，外科的治療，放射線療法，化学療法など一連の治療を，包括的集学的に行っており，進行期症例も臨床研究，治験含めて扱っている。

薬疹の場合は入院の上その原因究明を行い，薬疹カードを発行している。

尋常性天疱瘡や水疱性類天疱瘡などの水疱症の治療は，重症の場合，入院の上ステロイド大量内服療法，パルス療法，免疫抑制剤による治療，血漿交換療法，ガンマグロブリン大量療法などを症例にあわせて行っている。

各種皮膚潰瘍の診断及び植皮術等を含めた治療を行っている。

遺伝性皮膚疾患，特に先天性表皮水疱症，結節性硬化症においては他大学と共同でその原因遺伝子の検索を行っている。

これら専門疾患に対する臨床研究の詳細に及びスタッフの紹介については，随時皮膚科ホームページに掲載している。

※現在，皮膚科ホームページの改訂を随時行っており，学会レポ，医局員によるコラムなどを新たに掲載している。また関連研究会議日程もアップデートしている。

3. 診療体制

1) 外来診療スケジュール

	月	火	水	木	金
1 診 (初診)	初診	初診	初診	初診	初診
3 診	再診	再診	専門 薬疹 水疱症	専門 乾癬	再診
4 診	再診	専門 乾癬	再診	再診	専門 遺伝病
5 診	専門 リンパ腫	再診	専門 膠原病	専門 乾癬・腫瘍	専門 乾癬
6 診		再診	再診	専門 遺伝病	専門 乾癬
7 診	再診		専門 乾癬		専門 フットケア
午後	専門 アトピー	専門 膠原病 パッチ テスト	専門 脱毛症 回診 検討会	専門 遺伝病 特殊外来 ※褥瘡	専門 腫瘍

※褥瘡は院内のみ

2) 検査スケジュール

パッチテスト（火曜）

光線テスト（随時）

皮膚生検（随時）
 サーモグラフィー（随時）
 発汗テスト（月曜）
 下肢静脈エコー（金曜）
 腫瘍，関節エコー（随時）

3) 病棟体制

・病棟スケジュール（平成 26 年）

	月	火	水
	皮膚科勉強会 病棟カンファ レンス	手術	教授回診 病棟カンファレンス 医局会
	木	金	
	病棟業務	病棟業務	

- ・病棟は西 8 階で定床は 12 床，東 8 階で 7 床，合計で 19 床である。
- ・病棟医長 1 名，副病棟医長・皮膚外科手術担当 1 名，病棟担当医 5～6 名，スーパーローテート 1～2 名で診療に当たっている。

4. 診療実績

1) 外来診療実績

外来患者数（平成 26 年）	
初診	1,486 名
再診	24,839 名
外来患者延べ数	26,325 名

2) 入院診療実績

入院患者数（平成 26 年）	
新入院	286 名
退院	286 名
入院患者延べ数	5,513 名

主要疾患入院患者数（平成 26 年）

	総患者数
皮膚悪性腫瘍	93
皮膚良性腫瘍	12
アトピー性皮膚炎，湿疹群	32
膠原病	12
乾癬	4
皮膚潰瘍，血管性病変	18
尋常性白斑	22
薬剤，金属，食物アレルギー，蕁麻疹	15
遺伝性疾患	4
薬疹，中毒疹	7
重症薬疹	6
感染症	11

自己免疫性水疱症	12
リンパ腫	21
発汗異常	9
円形脱毛症	3

3) 検査手術件数（外来＋入院）

	件数
パッチテスト	115
病理組織検査	1,461
手術	230
蛍光抗体法 免疫染色法	405

5. その他

〔認定施設〕

日本皮膚科学会認定専門医研修施設

日本アレルギー学会認定教育施設

〔専門医数〕

皮膚科専門医	19 名
日本アレルギー学会指導医	3 名
日本アレルギー学会専門医	4 名
がん治療認定医	3 名
臨床遺伝専門医	1 名
形成外科専門医	1 名

〔臨床研究〕

尋常性乾癬に対する活性型ビタミン D₃ 外用剤とステロイド外用剤併用による有用性に関する臨床的検討

アンケートを用いた感染患者に対する QOL 評価と治療満足度調査

慢性蕁麻疹に対する抗ヒスタミン薬のかゆみに対する効果と QOL による評価アトピー性皮膚炎を持つ人たちへのよりよい治療を探る ― 満足度を指標として

結節性硬化症・尋常性白斑およびその他の先天性白斑に対するラパマイシン外用療法の開発のための臨床試験

関節エコーを評価指標とした関節性乾癬の早期検出に関する検討

皮膚疾患のホメオスタシスに関する免疫組織学的評価

アトピー性皮膚炎におけるネコ抗原特異的 IgE 保有者の実態調査

結節性硬化症の皮膚病変に対するラパマイシンの局所外用療法の開発

皮膚悪性腫瘍に対する抗癌剤治療における悪心・嘔吐の調査とアプレピタントによる悪心・嘔吐の改善効果の検討

尋常性白斑に対する 308-MEL 治療におけるビタミン D₃ 外用剤の併用効果の確認

アレルギー性皮膚疾患でみられる症状、生理機能異常が QOL に与える影響

アトピー性皮膚炎におけるネオオーラルの至適投与方法および至適投与患者の探索

アトピー性皮膚炎および乾癬の病態と生活習慣病因子の関連

慢性蕁麻疹における血小板の活性化と病勢マーカーへの応用へ向けた症例集積研究

アトピー性皮膚炎に対する抗炎症外用薬によるプロアクティブ療法における有用性に関する比較試験

慢性蕁麻疹患者に対する十味敗毒湯の併用効果—ランダム化比較試験による検討—

アレルギー疾患の経年変化とその背景因子の横断的調査

乾癬でみられる症状が生活の質および労働能率に与える影響

ヒスタミンが発汗に与える影響

結節性痒疹治療における保湿薬併用の有用性に関する臨床研究

ドライスキンに対するコレステロールエステル製剤外用の有用性を検討するランダム化比較試験

フラボノイド摂取によるアレルギー疾患に対する補完代替療法—酵素処理イソケルシトリンのアトピー性皮膚炎に対する治療効果のランダム化比較試験

食物アレルギー（口腔アレルギー症候群）に対するアンケート調査

皮膚疾患の病態とその治療における汗の質の関与に関する検討

結節性硬化症に伴う顔面皮膚病変に対する OSD-001 の安全性と有効量を推定する投与量ごとにプラセボ対象二重盲検無作為化並行群配置とする群増量試験（第Ⅰ / Ⅱ層相）

結節性硬化症皮膚病変に対するラパマイシン外用剤の安全性と有効性の検討

治療府のない難治性多汗症に対するラパマイシン外用薬の有効性を検討するパイロット試験

健常人の発汗に対するラパマイシン外用薬の安全性と用量依存性の発汗抑制効果を検討する第Ⅰ相試験

神経線維腫症Ⅰ型の治療法のない巨大なびまん性神経線維腫に対するラパマイシン外用薬の安全生徒有効性探索のためのパイロット試験

酒皸に対するラパマイシン局所外用療法の開発に関する臨床試験

結節性硬化症患者の症状、治療および転帰に関するデータを収集する国際共同介入試験

アルツハイマー病に対する新規治療薬開発

結節性硬化症、レックリングハウゼン病をはじめとする皮膚科の遺伝病の病因、病態解明および新しい治療法の開発を目指す研究

ホームページアドレス

<http://derma.med.osaka-u.ac.jp>

教室員紹介

大阪大学大学院医学系研究科内科系臨床医学専攻 情報統合医学講座皮膚科学教室

氏 名 片山 一郎

役 職 教授

学会関係役員

東京医科歯科大学非常勤講師

日本研究皮膚科学会評議員 (1990～)

日本アレルギー学会評議員 (1994～)

日本アレルギー学会試験委員 (2001～2005)

日本皮膚科学会代議員 (1996～)

日本乾癬学会評議員 (1996～)

アトピー性皮膚炎治療研究会世話人 (1996～)

皮膚科膠原病研究会世話人 (1996～)

日本研究皮膚科学会理事 (1997～2002, 2003～2008)

日本悪性腫瘍学会評議員 (1997～)

日本結合組織学会評議員 (2002～)

日本皮膚アレルギー学会理事 (2002～)

日本接触皮膚炎学会理事 (2004～)

日本アレルギー協会関西支部幹事 (2004～)

Environmental Dermatology: Editor in Chief (2004～)

J Dermatological Science Editorial Board (2004～)

日本皮膚アレルギー学会雑誌 編集長 (2004～)

日本皮膚科学会大阪地方会運営委員 (2004～)

日本皮膚科学会大阪地方会会長 (2005～)

日本アレルギー学会雑誌委員 (2005～2007)

日本アレルギー学会学術委員 (2005～2007)

日本アレルギー学会アトピー性皮膚炎 GL 専門部会ワーキンググループ委員 (2005～2007)

日本アレルギー学会アトピー性皮膚炎 GL 専門部会ワーキンググループ委員長 (2008～)

日本皮膚科学会理事 (2006～)

日本アレルギー協会理事 (2006～2008)

日本アレルギー協会研修委員 (2006～2008)

日本臨床皮膚科学会近畿支部理事 (2006～)

日本発汗学会理事 (2006～2012)

日本色素細胞学会理事 (2011～2017)

日本アレルギー学会理事 (2007～2009)

日本アレルギー学会常務理事 (2010～2017)

日本研究皮膚科学会監事 (2011～2013)

日本アレルギー学会学術賞選考委員 (2012～2013)

日本医師会 学術企画委員 (2012～2016)

日本接触皮膚炎学会・皮膚アレルギー学会理事長 (2013～2017)

皮膚・脈管膠原病代表世話人 (2013～)

International federation of society of Itch (IFSI) Board Member (2013～2017)

県 , 国 行政 日本学術振興会：科学研究員会専門委員 (2010～2011)

医道審議会委員 (2007～2009)

労働者健康福祉機構 業績評価委員 (2009～2012)

JAICA タイ国研修講師 (2014.11.29～12.5)

大学設置・学校法人審議会大学設置分科会専門委員 (2015.4.1～10.31)



大学，病院の 運 営 委 員	病院運営委員会委員	
	産学協同問題委員会委員	
医 学 部	先進医療審査会委員	
	病院機能評価受審対策ワーキング委員（2010～）	
	大阪大学医師会副会長（2010～）	
	感覚・皮膚・運動系科長（2010.4.1～2012.3.31）	
	医学部附属病院評価委員会（2010.4.1～2012.3.31）	
	医学部倫理委員会委員	H16.10.9～ H21.10.8
	医学部倫理委員会小委員会委員長	2009～
	中期目標ワーキング委員	H16. 8.1
	編入試験委員	H16.4～8
	医学科教育センター委員会委員	H17.4.1～ H21.3.31
	国際交流委員会委員	H17.4.1～ H19.3.31
	共同研究実習センター運営委員会委員	H17.4.1～ H21.3.31
	後期試験委員	H17.4～8
	付属図書館生命科学分館運営委員	（H18 年 4 月～22 年 3 月）
	サイバーメディア運営委員	（H18.4.1～ H22.3.31）
	後期試験面接委員	H22～23
	前期試験連絡委員	H21～24
省 庁 研 究 班 「 厚 労 省 」	癌特異的アポトーシスを誘導する革新的分子標的薬による難治性皮膚癌に対する治療薬の医師主導臨床治験による実用化開発班 班長（H24.4.1～ H27.3.31）	
	結節性硬化症の皮膚病変に対する有効で安全性の高い治療薬の開発と実用化班 班員（H24.4.1～ H27.3.31）	
	アトピー性皮膚炎の難治性皮膚病変の病態解析と病態に基づいたピンポイントな新規治療の開発班 班員（H24.4.1～ H27.3.31）	
	表皮水疱症に対する間葉系幹細胞移植再生医療の実用化研究班 班員（H24.4.1～ H27.3.31）	
	重症薬疹の病態解明および発症予測，重症度予測マーカーの検索班 班員（H24.4.1～ H27.3.31）	
	生命予後に関わる重篤な食物アレルギーの実態調査・新規治療法の開発および治療指針の策定班 班員（H24.4.1～ H27.3.31）	
	薬事申請を目指した，治療法の無い難治性多汗症に対する新規ラパマイシン外用薬の有効性を検討する医師主導治験班 班員（H26.12.17～ H29.3.31）	
	Erdheim-Chester 病に関する調査研究班 班員（H26.4.1～ H28.3.31）	
	表皮水疱症に対する新たな医薬品の実用化研究班 班員（H26.4.1～ H29.3.31）	
外 来 関 係	初診	週 1 回 1 月～12 月（ポリクリ 4～7 月）
	膠原病外来	週 1 回 1 月～12 月
	アトピー性皮膚炎外来	週 1 回 1 月～12 月
病 棟 関 係 学 生 講 義 業 績	教授回診	週 1 回
	皮膚科学	2 時間
	英文論文（含む著書，総説，他）	33 件
	邦文論文	5 件
	邦文総説	9 件
	邦文著書	7 件
	特別講演	17 件
	ラジオ等	
博 士 論 文 審 査	形成外科 市堀涼子	Objective assessment of facial skin aging and the associated environmental factors in Japanese monozygotic twins. J Cosmetic Dermatology (in press)
	形成外科 谷川智子	(+)-Catechin protects dermal fibroblasts against oxidative stress-induced

apoptosis.

Tanigawa T, Kanazawa S, Ichibori R, Fujiwara T, Magome T, Shingaki K, Miyata S, Hata Y, Tomita K, Matsuda K, Kubo T, Tohyama M, Yano K, Hosokawa K.

BMC Complement Altern Med. 2014 Apr 8;14:133.

形成外科 藤原貴史 L-arginine stimulates fibroblast proliferation through the GPRC6A-ERK1/2 and PI3K/Akt pathway.

Fujiwara T, Kanazawa S, Ichibori R, Tanigawa T, Magome T, Shingaki K, Miyata S, Tohyama M, Hosokawa K.

PLoS One. 2014 Mar 20;9(3):e92168.

論文査読

日本医師会雑誌 2件

J Dermatol 1件

J Dermatol Science 1件

J Eur Acad Dermatol Venerol 3件

J Invest Dermatol 1件

PCMR 1件

BMC Complementary and Alternative Medicine manuscript 1件

開催学会, セミナー, 研究会

2014.1.11 第10回 大阪皮膚アレルギーネットワーク (ODAN)

1. 檜澤孝之 (ひざわ皮膚科クリニック 院長):「乳幼児の楽しいアレルギー検査「これってアレルギーですか?」ときかれたときに」
2. 中村敏明 (医療法人亮友会 なかむら皮膚科 理事長):「アトピー性皮膚炎における病診連携～開業医の立場から～」
3. 片岡葉子 (大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 皮膚科 主任部長):「アトピー性皮膚炎は皮膚科専門医ネットワークで治したいー Osaka Dermato-Eczema Network 構築のためのコンセンサスー」

2014.1.23 第7回 関西皮膚科 Biologics 研究会

1. 橋本典子 (大阪大学 皮膚科):「生物学的製剤投与中に発症した壊死性筋膜炎の1例」
2. 三木田直哉 (和歌山医科大学 皮膚科):「TNF- α 阻害薬使用中に抗核抗体の上昇を認め、二次無効となった尋常性乾癬の1例」
3. 飯塚 一 (旭川医科大学 皮膚科学講座 教授):「全身性炎症としての乾癬」

2014.1.27 Meet the expert in Osaka

John Koo, MD (Professor of Clinical Dermatology UCSF School of Medicine):「Topical therapy in the management of psoriasis-AUSA perspective on the management of psoriasis and the evolvement of relevant topical therapies」

2014.2.8 近畿 MMC 研究会

1. 小林修三 (湘南鎌倉総合病院副院長 腎臓病総合医療センター長 日本フットケア学会 理事長):「CKD・DMにおける下肢閉塞性動脈硬化症～早期発見と治療戦略」
2. 石川 治 (群馬大学大学院医学系研究科 皮膚科学 教授):「膠原病及び類縁疾患—最近の話題—」

2014.3.7 第8回 京阪神バイオメディクス研究会

1. 濱野芳匡 (大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器・免疫アレルギー内科学):「非特異的間質性肺炎における抗 MX1 抗体の同定」
2. 吉藤 元 (京都大学大学院医学研究科 内科学講座臨床免疫学 助教):「高安動脈炎の発症感受性 HLA」
3. 坂口志文 (大阪大学免疫学フロンティア研究センター 実験免疫学 教授):「制御性 T 細胞による免疫応答制御」

2014.3.8 第10回 大阪大学皮膚科臨床検討会

1. 山岡俊文 (大阪大学大学院医学系研究科 皮膚科学講座):「免疫抑制

- 薬の内服でコントロールしえた livedo racemosa の 2 例」
2. 竹原友貴（住友病院 皮膚科）：「血管炎を疑った片側下肢の再発性単純ヘルペスウイルス -2 型感染症の 1 例」
 3. 福山國太郎（関西労災病院 皮膚科 部長）：「結節性類天疱瘡の一例」
 4. 音山和宣（音山医院 院長 東京医科歯科大学 臨床教授）：「三下野郎の皮膚科学」
 5. 西岡 清（東京医科歯科大学 名誉教授）：「賞味期限切れのアトピー性皮膚炎」
- 2014.3.13 第 5 回 大阪乾癬バイオフィォーラム
1. 多田弥生（帝京大学医学部皮膚科学講座 准教授）：「全身性疾患としての乾癬」
 2. 東山真里（日本生命済生会付属日生病院 皮膚科 部長）：「アダリムマブのメタボリック関連症候群への有用性は？」
 3. 中込大樹（独立行政法人国立病院機構下志津病院 リウマチ科）：「皮膚科医による乾癬性関節炎診療～関節エコーを含めて～」
- 2014.4.3 第 27 回 皮膚科糖尿病循環障害研究会
1. 小川晋司（大阪市立大学 皮膚科）：「難治性下腿潰瘍の一例」
 2. 山岡俊文（大阪大学 皮膚科）：「皮膚潰瘍を合併した膠原病疾患における血清 HMGB1 の推移」
 3. 東 幸仁（広島大学 原爆放射線医学研究所 ゲノム障害医学研究センター再生医科学部門 教授）：「我が国における PAD 診療のトピックス：PAD 治療の最前線—運動療法，抗血小板療法から血管再生治療まで—」
- 2014.4.5 第 12 回 関西皮膚疾患懇話会
1. 加藤則人（京都府立医科大学大学院医学研究科 皮膚科学 教授）：「アトピー性皮膚炎の外用治療・アップデート」
 2. 片山一郎（大阪大学大学院医学系研究科 情報統合医学 皮膚科学 教授）：「皮膚でのステロイド産生系と炎症性皮膚疾患での意義：あらたな Homeostatic regulator」
- 2014.4.10 第 10 回 皮膚免疫疾患研究会
1. 片山一郎（大阪大学大学院医学系研究科 情報統合医学 皮膚科学 教授）：「尋常性白斑の新しい病因論と IL-17：ステロイドから分子標的薬へ」
 2. 岩倉洋一郎（東京理科大学 生命医科学研究所 実験動物学研究部門 教授）：「自己免疫，および感染防御に於ける IL-17 の役割」
- 2014.4.18 第 12 回 なにわ皮膚腫瘍勉強会
1. 花岡佑真，松井佐起，福山國太郎（関西労災病院 皮膚科）：「鼻背に生じた有茎性皮膚腫瘍」
 2. 大山綾子（大阪市立大学大学院 医学研究科 皮膚病態学）：「ボーエン病と診断していた臀部のエクリン汗孔癌」
 3. 小川和彦（大阪大学大学院医学系研究科 放射線治療学 教授）：「皮膚悪性腫瘍に対する放射線治療」
- 2014.5.16 第 9 回 皮膚疾患 Update
1. 平川聡史（浜松医科大学 皮膚科学講座 准教授）：「ありふれた皮膚病：血管透過性との関わり」
 2. 青山裕美（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 皮膚科学 准教授）：「基本のステロイド治療からリツキサンまで—リスク&ベネフィットを考慮した疾患マネジメント—」
- 2014.5.17 第 9 回 北摂皮膚科病診連携の会
1. 福山國太郎（労働者健康福祉機構 関西労災病院 皮膚科 部長）：

- 「労働者健康福祉機構 関西労災病院のご紹介」
2. 谷 守 (大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学講座 助教):「大阪大学医学部附属病院に御紹介いただいた症例について」
 3. 森脇真一 (大阪医科大学医学部 感覚器機能形態医学講座 皮膚科学教授):「臨床医に必要な光線過敏症の知識～診断から患者ケアまで～」
- 2014.6.5 第6回 近畿ヘルペス感染症研究会
1. 谷 守 (大阪大学大学院医学系研究科 皮膚科学 助教):「MTX 投与中に見られた皮膚の異型ヘルペスの3例」
 2. 澤田明久 (大阪府立母子保健総合医療センター 血液・腫瘍科 副部長):「慢性活動性 EB ウイルス感染症:治療の進歩 25 年史」
 3. 羽田敦子 (田附興風会北野病院 小児科・感染症科 部長):「糖尿病患者における带状疱疹予防」
 4. 桧垣史郎 (近畿大学医学部堺病院 眼科 准教授):「マウスヘルペス性角膜炎における抗ヘルペスウイルス薬」
 5. 萩森伸一 (大阪医科大学 耳鼻咽喉科学教室 准教授):「末梢性顔面神経麻痺におけるヘルペスウイルスの関与」
 6. 石川 淳 (大阪府立成人病センター 血液・化学療法科 主任部長):「血液疾患とヘルペス感染症あれこれ」
 7. 森 康子 (神戸大学大学院医学研究科 臨床ウイルス学 教授):「ヒトヘルペスウイルス 6 の感染機構」
 8. 浅田秀夫 (奈良県立医科大学 皮膚科学 教授):「皮膚科領域のヘルペス感染症」
- 2014.6.21 第20回 ギンナン皮膚科談話会
- 神戸直智 (千葉大学大学院医学研究院 皮膚科学 准教授):「蕁麻疹とは何か?—クリオピリン関連周期性症候群から見えてきたもの—」
- 2014.6.27 第6回 関西皮膚自己免疫疾患懇談会
1. 大日輝記 (京都大学大学院医学研究科皮膚生命科学講座皮膚科学分野 講師):「生体防御の階層と皮膚疾患」
 2. 西江 渉 (北海道大学大学院医学研究科 皮膚科学分野 講師):「水疱性類天疱瘡:最近の知見」
- 2014.7.19 2014 乾癬学術フォーラム in 大阪
1. 東山真里 (日本生命済生会付属日生病院 皮膚科 部長):「外用療法は乾癬治療の第一報～なれど, トータルケアも重要～」
 2. 根本 治 (札幌皮膚科クリニック 院長):「乾癬治療の将来 外用療法の位置づけ」
- 2014.7.24 皮膚科学術講演会
1. 室田浩之 (大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学 皮膚科学講座 准教授):「アトピー性皮膚炎の痒みと向き合う:そのメカニズムと対策」
 2. 高森建二 (順天堂大学 大学院医学研究科 皮膚科学):「内科疾患における皮膚搔痒」
- 2014.8.21 学術講演会
1. 谷口裕子 (国家公務員共済組合連合会 九段坂病院 皮膚科部長):「疥癬治療薬スミシリンローションの展望～ペルメトリンクリームの使用成績から考える～」
 2. 石井則久 (国立感染研究所ハンセン病研究センター センター長):「新たな疥癬診療の夜明け」
- 2014.8.23 第6回 センターリサーチセミナー
1. 上野真紀子¹, 西村栄美², 横関博雄¹ (東京医科歯科大学大学院 皮膚

- 科学分野¹, 東京医科歯科大学難治疾患研究所 幹細胞医学分野²):
「毛周期における色素幹細胞の放射線感受性の変化」
2. 大橋威信, 山本俊幸 (福島県立医科大学 皮膚科学講座): 「ブレオマイシン誘導性強皮症モデルマウスにおける LPA 阻害薬の効果についての検討〜第 2 報〜」
 3. 大湖健太郎, 中島喜美子, 佐野栄紀 (高知大学医学部 皮膚科学教室): 「IL-36 シグナルを介した表皮細胞―樹状細胞間クロストークによる乾癬発症機序の解明」
 4. 宮下和也, 浅田秀夫 (奈良県立医科大学 皮膚科学講座): 「薬剤性過敏症症候群における腎障害発症機序の研究」
 5. 西岡めぐみ, 片山一朗 (大阪大学大学院医学系研究科 皮膚科学): 「ロドデノール誘発性脱色素斑における T 細胞の解析」
 6. 山本俊幸 (福島県立医科大学 皮膚科学講座 教授): 「創傷治癒遅延モデルの作成と, 臨床応用に向けた試み」
- 2014.8.28 乾癬治療病診連携の会
1. 林 美沙 (大阪大学医学部 皮膚科学講座 特任助教): 「当院での関節症性乾癬に対する超音波検査」
 2. 谷 守 (大阪大学医学部 皮膚科学講座 助教): 「北摂エリアにおける乾癬治療の標準化に向けて〜どのような患者に生物学的製剤を使用するか〜」
- 2014.9.11 第 8 回 関西皮膚科 Biologics 研究会
1. 山岡俊文 (大阪大学 皮膚科 助教): 「血中 IL-6 の上昇を伴った IgA 血管炎を合併した SAPHO 症候群の 1 例」
 2. 山崎文和 (関西医科大学 皮膚科 講師): 「Infliximab 使用中に関節症性乾癬様皮疹を来したが, 継続使用が可能であったクローン病の 1 例」
 3. 山本俊幸 (福島県立医科大学医学部 皮膚科学講座 教授): 「関節症性乾癬の今日的な考え方と展望」
- 2014.10.2 第 9 回 大阪免疫・皮膚アンチエイジング研究会
1. 田原真由子 (大阪大学大学院医学系研究科 皮膚科学): 「高齢者紅皮症の臨床的検討」
 2. 岡橋一憲 (近畿大学医学部 皮膚科学教室): 「尋常性乾癬に合併した水疱性類天疱瘡の 1 例」
 3. 菅原弘二 (大阪市立大学大学院 医学研究科 皮膚病態学): 「円形脱毛症に対する内服ステロイド療法について」
 4. 中川浩一 (大阪府済生会富田林病院 皮膚科 部長): 「Sweet 病様皮疹を繰り返しているうちに MDS が見つかった 1 例」
 5. 川合眞一 (東邦大学医学部医学科内科学講座 膠原病学分野 教授): 「ステロイドの使い方〜その歴史から最近の話題まで〜」
- 2014.10.10 第 13 回 なにわ皮膚腫瘍勉強会
1. 柳下早希 (大阪市立大学 皮膚科): 「内眼角部の青黒色腫瘍」
 2. 花岡佑真 (関西労災病院 皮膚科): 「腹部の黒色有茎性結節」
 3. 清水奈美 (済生会富田林病院 皮膚科): 「Mucinous carcinoma の一例」
 4. 田中 文 (大阪大学 皮膚科): 「Bowen 病に生じた Microcystic adnexal carcinoma」
 5. 三木田直哉 (和歌山県立医科大学 皮膚科): 「皮下組織・筋肉に多発転移を生じた右足 clear cell sarcoma の一例」
 6. 宮川 史 (奈良県立医科大学 皮膚科): 「CD8 陽性末梢性 T 細胞リンパ腫」
 7. 長野 徹 (神戸市立医療センター中央市民病院): 「線維肉腫様変化を

- 伴った隆起性皮膚線維肉腫の1例」
- 2014.10.11 学術講演会
1. 樽谷勝仁（公立学校共済組合 近畿中央病院 皮膚科 部長）：「乾癬治療における外用療法の位置づけ」
 2. 戸倉新樹（浜松医科大学 皮膚科学 教授）：「乾癬治療におけるビタミン D₃ とステロイド配合剤を考える」
- 2014.10.16 第8回 関西 P&D アトピー性皮膚炎治療フォーラム 【PANDAK Forum】
～アトピー性皮膚炎治療の発展をめざして～
1. 檜澤孝之（ひざわ皮膚科クリニック 院長）：「乳幼児アトピー性皮膚炎プロアクティブ療法の実際」
 2. 木村彰宏（神戸医療生活協同組合 いたやどクリニック 院長）：「二重アレルギー曝露仮説から学ぶもの」
 3. 福富友馬（国立病院機構相模原病院臨床研究センター 診断・治療薬開発研究室長）：「花粉アレルギーと口腔アレルギー症候群」
- 2014.10.30 北摂乾癬研究会
1. 梅澤慶紀（東京慈恵医科大学 皮膚科学講座 准教授）：「アルゴリズムに基づいた乾癬治療選択」
 2. 谷 守¹, 兪明寿²（大阪大学医学部 皮膚科学講座¹, 大阪医科大学皮膚科学教室²）：「～大学病院での取り組み～」
 3. 奥山隆平（信州大学医学部 皮膚科学教室 教授）：「日々の乾癬診療の実際と新しい展開」
- 2014.10.30 第11回 中之島フットケアフォーラム
1. 楊 伶俐（大阪大学大学院医学系研究科 皮膚科学 特任研究員）：「潰瘍を伴う網状皮斑の病態：温度と末梢循環障害」
 2. 泉 有紀（独立行政法人 国立病院機構 京都医療センター WHO 糖尿病協力センター 米国足病医）：「フット・バイオメカニクスと糖尿病足病変」
- 2014.11.6 Hot Topics in Dermatology
1. 土肥孝彰（マルホ株式会社 研究部）：「基礎研究からみたヒルドイドの保湿作用メカニズムと安全性」
 2. 長谷川 捻（福井大学医学部感覚運動医学講座皮膚科学 教授）：「皮膚症状から見えてくる膠原病診療」
 3. 中村元信（産業医科大学医学部皮膚科学教室 教授）：「さまざまな脱毛症ーアトピー性皮膚炎との合併例も含めー」
- 2014.11.15 第35回 近畿アトピー性皮膚炎談話会
1. 森田裕司（古座川町国保 明神診療所）：「ニュースステーション報道秘話」
 2. 佐藤美津子¹, 佐藤健二²（¹佐藤小児科, ²阪南中央病院 皮膚科）：「アトピー性皮膚炎治療における脱保湿の経験」
 3. 錦戸知喜（大阪府立母子保健総合医療センター 呼吸器・アレルギー科）：「ステロイド忌避により著明な高カリウム血症, 脳萎縮, 発達遅滞をきたした乳児重症アトピー性皮膚炎の一例」
 4. 藤川詩織¹, 山本菜穂, 山本 学², 青木麻子³, 新宅治夫¹（¹大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学, ²大阪市立大学大学院医学研究科 眼科学, ³大阪市立大学大学院医学研究科 皮膚学）：「アトピー性皮膚炎に対し脱ステロイド治療を行い, 白内障・網膜剥離を来した一例」
 5. 岸田寛子, 吉岡詠理子, 片岡葉子（大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 皮膚科）：「血清 TARC 値を治療指標とした厳密な proactive 療法によって略治した成人重症アトピー性皮膚炎の22例」

6. 玉置昭治（尼崎医療生協病院 皮膚科）：「脱ステロイド軟膏療法の推移—1970年代 酒さ様皮膚炎 1990年代 アトピー性皮膚炎 2014年 酒さ様皮膚炎—」
 7. 水谷 仁（国立大学法人三重大学大学院医学系研究科 皮膚科学 教授）：「アトピー性皮膚炎診療：理論と治療への私考」
- 2014.12.4 第10回大阪スキンケア研究会
1. 橋本 淳（大阪南医療センター 免疫疾患センター 部長）：「RA フットキュア〜ケアからキュアへ〜」
 2. 西岡 清（東京医科歯科大学 名誉教授）：「アトピー性皮膚炎・拾い話」
- 2014.12.12-14 日本研究皮膚科学会 第39回年次学術大会・総会
Akira Sizuo (Laboratory of Host Defense, WPI Immunology Frontier Research Center, Osaka University) : “a ribonuclease involved in the inflammatory and immune responses”
- 2014.12.18 学術講演会
1. 谷 守（大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座皮膚科学 助教）：「乾癬患者に対するネオオーラル治療中の腫瘍発生に関する留意」
 2. 東山眞里（公益財団法人日本生命済生会付属日生病院 皮膚科 部長）：「乾癬におけるネオオーラル療法によるB型肝炎の再活性化—投与前スクリーニングと治療」
- 2014.12.20 第21回ギンナン皮膚科談話会
藤原作平（大分大学医学部皮膚科学教室 教授）：「私の経験した水疱症」

氏 名
職 名
専 門 医 資 格

室田 浩之
准教授

省 庁 研 究 費

日本皮膚科学会専門医,
日本アレルギー学会認定専門医・認定指導医
1. 文部科学研究費基盤研究C（主任）, 2. 厚生労働科学研究費助成金・ピンポイントなアトピー性皮膚炎新規治療の開発(分担)

受 賞 等
学会関係役員

日本研究皮膚科学会評議員, 日本アレルギー学会代議員, 日本アレルギー学会国際交流委員, 日本皮膚アレルギー接触皮膚炎学会評議員, 日本発汗学会評議員, 第39回日本研究皮膚科学会事務局局長, 8th World Congress on Itch, secretary in general, 日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎診療ガイドライン改訂委員, 日本皮膚科学会限局性多汗症診療ガイドライン改訂委員, 日本皮膚科学会慢性痒疹・汎発性皮膚そう痒症診療ガイドライン改訂委員, 廃棄物取り扱い委員, 動物実験施設利用世話人会, 毒劇物管理者, 安全衛生管理委員, 液体窒素委員会

大学, 病院の運営委員

医 局 内 委 員

研究室責任者

外 来 関 係

アトピー性皮膚炎専門外来, 新患外来, 膠原病外来, 一般外来

受け持ち入院患者

手 術 数

学 生 講 義


歯学部1回/年, 医学部2回/年
学会発表: 海外 1件 国内 10件 (全件セミナーあるいはシンポジウム)
論文発表: 英文 20件 (うち1st 2件, corresponding 5件)
和文 21件 (内, 教科書の分担執筆 5)

論 文 査 読


J Allergy Clin Immunol 2件, J Dermatol Sci 8件, J Invest Dermatol 2件, J Dermatol 7件, JAAD 5件, PLoS One 2件, Exp Dermatol 2件,



研 究 テ ー マ	Br J Dermatol 4 件, Eur J Rheum 1 件, Allergol Int 2 件, JEADV 1 件, 日皮会誌 3 件, JEDCA 2 件, 発汗学 1 件
	1) 発汗のメカニズムと汗の質的評価：松井佐起先生が中心となって立ち上げてきた実験系と、汗の質的な評価を小野慧美先生に行っていただいています。軸索反射発汗試験と自律神経評価は田原真由子先生、進藤翔子先生に評価していただいております。
一 言	2) 痒みの新しいメカニズム：皮膚と脳の関係に関する研究を行っています。
	3) OAS, PFAS における果実および花粉の交叉性、出現時期に関する調査を小野慧美先生、北場 俊先生が行っています。
	4) アレルギー疾患の疫学調査：田原真由子先生を中心とし、保健センター瀧原圭子教授との共同研究で学生のアレルギー有診断率、アレルギーの有症率、悪化因子実態調査を行っています。
	5) 表皮バリアとタイトジャンクション：山賀康右先生と勉強させていただいています。
	6) microbiome と皮膚：進藤翔子先生に開始していただきました。北場先生の協力も得、再び肥満細胞に向き合っております。
	多くの皆様の日頃からの御支援、御指導、御厚情に深謝いたしますとともに、厚く御礼申し上げます。2014 年、科学研究のあり方を問う新聞記事に「科学者になるには自然を恋人としなければならない。自然はやはりその恋人にのみ真実を打ち明けるものである」という物理学者、寺田寅彦先生の言葉が紹介されており、感銘を受けました。自然現象を注視し、自分と対峙しながら精進してまいる所存です。

氏 名	金 田 眞 理	
職 名	講師	
専 門 医 資 格	皮膚科専門医、臨床遺伝専門医、がん治療認定医	
省 庁 研 究 費	1) 平成 26 年文部科研基盤 C 精神神経病変と色素異常症発症に共通の mTOR を介したオートファジー機構の解明（代表） 2) 平成 26 年度厚生労働省科研補助金 結節性硬化症の皮膚病変に対する有効で安全性の高い治療薬の開発と実用化（代表） 3) 平成 26 年度厚生労働省科研委託費 薬事申請を目指した治療法のない難治性多汗症の新規ラパマイシン外用薬の有効性を検討する医師主導治験（代表） 4) 平成 26 年度厚生労働省科研 表皮水泡症に対する間葉系幹細胞移植再生医療の実用化研究（分担）	
受 賞 等	大阪大学総長顕彰	
学 会 関 係 役 員	日本結節性硬化症学会理事 日本研究皮膚科学会評議委員 日本皮膚科学会大阪地方会運営委員	
大 学, 病 院 の 運 営 委 員	1) 遺伝子診療部運営委員 2) 臨床治験事務センター運営委員会 3) 大阪地方会庶務 4) 臨床試験部運営部会 5) 臨床研究倫理審査委員会	
医 局 内 委 員	遺伝病外来（木午前、午後、金午前）、遺伝子診療部外来（月、火 午後、不定期）	
外 来 関 係		
受け持ち入院患者		
手 術 数	レーザーを含めて 20 例	
学 生 講 義	医学部学生講義 2、歯学部学生講義 1、医学修士 1	
業 績	学会発表：海外 2 件 国内 9 件 論文発表：英文 9 件（1st 1 corresponding 7） 和文 4 件	

論文査読	JAMA Dermatol 1, BJD 1, Neuropsychiatric Disease and Treatment 1, Journal of Cellular and Molecular Medicine. 1, American Journal of Clinical Dermatology 1, Journal of Dermatology 2, Pediatric dermatology 1, Neuropsychiatric Disease and Treatment 1
研究テーマ	結節性硬化症は mTOR の上流にある hamartin, tuberin の異常の結果、全身に過誤種や白斑、自閉症や癲癇などが起こる疾患である。これら神経症状と皮膚症状を引き起こす共通の病態として、アポトーシスやオートファジーを介した、mTOR 機能の解明を目指している。さらに、この mTOR の阻害剤の皮膚科の遺伝病・神経皮膚症候群への臨床応用に向けての臨床研究も進めている。
一言	結節性硬化症の外用療法を行っております。ラパマイシン外用剤の承認を目指して医師主導治験を施行中です。 結節性硬化症は全身に症状が出る疾患で、他科との共同診察が不可欠である。そこで、大阪大学では TSC ボードを開催し、横の連携を持った患者さんの診察加療に力を入れております。

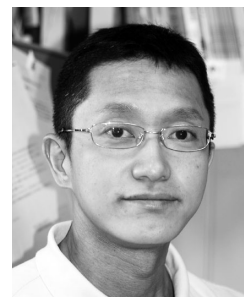
氏名	種村 篤	
職名	助教（1月～6月）⇒講師（7月～）	
専門医資格	皮膚科専門医、がん治療認定医	
省庁研究費	厚生労働省科学研究費補助金：がん対策推進総合研究事業（がん、分担）	
受賞等	日本色素細胞学会評議委員	
学会関係役員	感染制御部運営委員、集中治療部運営委員、輸血部運営委員、リスクマネジメント委員、臨床検査部運営委員、材料部運営委員、卒後研修委員	
大学、病院の運営委員		
医局内委員	医局長（～6月末）	
外来関係	初診外来、皮膚固形腫瘍外来、白斑外来（月曜午前・金曜午前午後）	
受け持ち入院患者	指導医として関与	
手術数	火曜日全日、局・全麻計年間 200 件以上	
学生講義	歯学部講義 1、医学部講義 1	
業績	学会発表：海外 3 件（11th Meeting of German-Japanese Society of Dermatology, 3rd Eastern Asia Dermatology Congress 2 演題）国内 6 件（第 113 回皮膚科学会総会 2 演題、第 30 回日本皮膚悪性腫瘍学会、第 41 回皮膚かたち研究学会学術大会、第 44 回皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会・学術大会） 論文発表：英文 12 件 和文 1 件	
論文査読	Journal of Dermatology 10 件、Archive of Dermatological Research 1 件、Dermatology 1 件、Journal of Cellular and Molecular Medicine 1 件、JEADV 1 件、Allergology International 1 件	
研究テーマ	・尋常性白斑と誘導される炎症性サイトカイン、末梢血リンパ球分画のダイナミックな変化の意義に関する研究 ・皮膚悪性腫瘍における抗腫瘍免疫の網羅的解析 ・HVJ-E により誘導される腫瘍免疫解析およびその臨床意義の研究	
一言	1) HVJ-E 投与による悪性黒色腫治療（第 1 相治験）が始まりました。是非、皮膚転移を有する患者さんをご紹介下さい 2) 尋常性白斑患者に対し病因および遺伝的背景を基にしたテーラーメイド治療の確立を目指しております（日本人の汎発型白斑に HLA-A0201 が関連していることが証明されました；PCMR 2015 Epub ahead of print） 3) 日皮会特別委員会委員として、ロドデノール誘発性脱色素斑の病態解明を行ってお	

ります

4) 大阪大学皮膚科皮膚悪性腫瘍研修コース要項を作成しました。皮膚悪性腫瘍外科をよりメジャーな地位にできればと願っております

氏 名
職 名
専 門 医 資 格
省 庁 研 究 費
受 賞 等
学 会 関 係 役 員

谷 守
助教
皮膚科専門医



医 局 内 委 員
外 来 関 係
受け持ち入院患者
手 術 数
学 生 講 義
業 績

外来医長, 病歴管理委員, 保険管理委員, 薬事委員, 疼痛医療センター委員, 医薬品安全管理委員,

初診, 再診

20 件

歯学部講義 1, 医学部講義 1

学会発表: 海外 1 件 国内 0 件

論文発表: 英文 0 件 和文 0 件

論 文 査 読
研 究 テ ー マ
一

皮膚リンパ腫, 乾癬の治療における, 生物学的製剤の役割と医療経済との関係
治療の変わりゆく変遷と伝統的な医療の融合を目指したい。

氏 名
職 名
専 門 医 資 格
省 庁 研 究 費

小豆澤 宏明

助教

皮膚科専門医

科学研究費助成事業 基盤研究 C (薬疹モデルマウス, 代表)

厚生労働省科学研究費補助金: 難病克服研究事業 (重症多形滲出性紅斑の調査研究, 分担)

厚生労働省科学研究費補助金: 創薬基盤推進 (重症薬疹のバイオマーカー探索, 分担)

厚生労働省科学研究費補助金: 難治性疾患実用化研究事業 (重症薬疹における特異的細胞死誘導受容体をターゲットにした新規治療薬開発 分担)

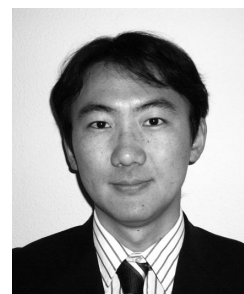
総長奨励賞

日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会評議委員, 日本研究皮膚科学会評議委員

診療局長 診療研修委員会, RI 取り扱い責任者

医局長

薬疹水疱症外来, 初診, 一般外来



受 賞 等
学 会 関 係 役 員
大学, 病院の運営委員
医 局 内 委 員
外 来 関 係
受け持ち入院患者
手 術 数
学 生 講 義
業 績

歯学部講義 1, 医学部講義 1

学会発表: 海外 1 件 国内 5 件

論文発表: 英文 3 件 和文 2 件

論 文 査 読
研 究 テ ー マ

Journal of Dermatology 3 件, Allergology International 1 件,
Current Immunology Reviews 1 件

重症薬疹の発症メカニズムの研究, マイクロニードルを用いたワクチンデバイスの研究,

一 言 ケラチンを発現する B 細胞様細胞の機能解析
重症薬疹の発症メカニズムについて、臨床研究、基礎研究をしています。

氏 名 清原 英司
職 名 助教
専門医資格 皮膚科専門医

省 庁 研 究 費
受 賞 等
学会関係役員

病棟医長、クリニカルパス委員会、DPC 委員会、診療体制検討委員会、リスクマネージャー

医 局 内 委 員

病棟医長

外 来 関 係

受け持ち入院患者

病棟医長として管理

手 術 数

学 生 講 義

業 績

学会発表：海外 0 件 国内 2 件

論文発表：英文 3 件 和文 0 件

論 文 査 読

Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology 1 件

研 究 テ ー マ

悪性黒色腫への新規免疫療法、皮膚悪性リンパ腫のガングリオシド解析

一 言

新たにリンパ腫外来をさせて頂き、メラノーマで得た知識を還元できればと考えております。また、強力な病棟スタッフと共に病棟医長として貢献したいと思います。

氏 名 山岡 俊文
職 名 助教

専門医資格 皮膚科専門医

省 庁 研 究 費

科学研究費助成事業：若手研究 B

受 賞 等

学会関係役員

皮膚脈管・膠原病研究会事務局

大学、病院の運営委員

病棟医長、リスクマネージメント委員、輸血部運営委員

医 局 内 委 員

外 来 関 係

膠原病外来、乾癬外来、腫瘍外来

受け持ち入院患者

多数

手 術 数

20 例

学 生 講 義

歯学部講義 1, 医学部講義 1

業 績

学会発表：海外 1 件 国内 0 件

論文発表：海外 6 件 国内 0 件

論 文 査 読

Journal of Dermatology 1 件

研 究 テ ー マ

乾癬の病態解析、非侵襲的な爪乾癬早期病変の診断と治療介入研究、皮膚筋炎患者における新たな病勢マーカーの検索、皮膚潰瘍の新たなバイオマーカーの検索

一 言

鑑別疾患を常に意識しながら診察にあたっております。



氏 名 田中 文
職 名 助教

専門医資格
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学、病院の運営委員

皮膚科専門医 形成外科専門医

感染制御部運営委員，集中治療部運営委員，手術部運営委員，放射線部運営委員，放射線治療部運営委員，共同研グルンド会

医局内委員
外来関係
受け持ち入院患者
手術数
学生講義
業績

一般外来

3～4人 / 週

2人 / 週

学会発表：海外 1件 国内 1件

論文発表：英文 1件 和文 0件

論文査読
研究テーマ
一言

皮膚外科，悪性腫瘍

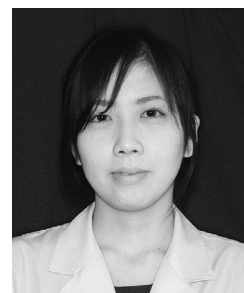
患者さんに真摯に向き合い，日々精進したいと思います。

氏名
職名
専門医資格
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学、病院の運営委員

林 美沙

特任助教

治療材料小委員会，特別医療小委員会，高度救命救急センター運営委員，総合診療部運営委員，病理部運営委員，治験審査委員



医局内委員
外来関係
受け持ち入院患者
手術数
学生講義
業績

膠原病外来，一般外来，乾癬外来

3～5名

歯学部講義 1

学会発表：海外 0件 国内 3件

論文発表：英文 2件 和文 0件

論文査読
研究テーマ
一言

乾癬における爪周囲，DIP関節部の関節エコーの有用性の検討
関節エコーが少しでも有用であればと思います，日々精進しています。

氏名
職名
専門医資格
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学、病院の運営委員
医局内委員
外来関係
受け持ち入院患者

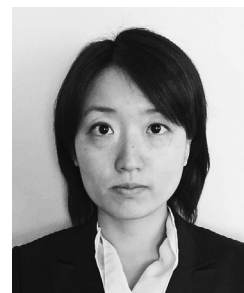
吉岡 華子（3月まで）

助教

臨床検査部運営委員，材料部運営委員，医療情報部運営委員

アトピー外来（月曜午後），一般再診（火曜午前）

指導医として関与



手術数
学生講義
業績
論文査読
研究テーマ

アトピー性皮膚炎，無汗性外胚葉形成不全
臨床力が上がるよう努力して参ります。

氏名
職名
専門医資格
省庁研究費
受賞等

荒瀬 規子
特任研究員

科学研究費助成事業 挑戦的萌芽研究（代表）
JEDCA 最優秀論文賞（一般病院における手湿疹患者の労働生産性，生活の質，医療費
に関する検討，2014 年 11 月 22 日，仙台国際センター）

学会関係役員
大学，病院の運営委員
医局内委員
外来関係
受け持ち入院患者
手術数
学生講義
業績

一般外来

学会発表：海外 0 件 国内 4 件
論文発表：英文 1 件 和文 2 件

論文査読
研究テーマ

自己免疫疾患，アレルギー疾患，腫瘍関連疾患
種々の自己免疫疾患，アレルギー疾患の発症メカニズムについて，臨床研究，基礎研究
をしております。

氏名
職名
専門医資格
省庁研究費
受賞等

寺尾 美香
特任研究員

皮膚科専門医

科学研究費助成事業 若手研究 A
2014 年 LYDIA O'LEARY MEMORIAL FOUNDATION

学会関係役員
大学，病院の運営委員
医局内委員
外来関係
受け持ち入院患者
手術数
学生講義
業績

火曜日 4 診

紫外線と皮膚

学会発表：海外 1 件 国内 1 件
論文発表：英文 6 件 和文 0 件

論文査読

Journal of Dermatology 数件，Journal of Dermatological Science 1 件，
Journal of Investigative Dermatology 1 件，British Journal of Dermatology 1 件，
Clinical Medicine 1 件

研究テーマ

皮膚内分泌学：皮膚局所におけるコルチゾール産生と活性化の研究，表皮角化細胞にお
けるビタミン D の役割，皮膚における糖鎖の役割の研究

一言 Dermatoendocrinology の分野を開拓，研究したいと思います。

氏名 北場 俊
職名 特任研究員（2014 年 11 月～）
専門医資格 皮膚科専門医
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学，病院の運営委員
医局内委員
外来関係
受け持ち入院患者
手術数
学生講義
業績
論文査読
研究テーマ Journal of Dermatology 1 件
口腔アレルギー症候群の疫学的研究
一言 よろしくお願い致します。

氏名 田中 まり
職名 特任研究員（非常勤）
専門医資格 皮膚科専門医
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学，病院の運営委員
医局内委員
外来関係
受け持ち入院患者
手術数
学生講義
業績
論文査読
研究テーマ
一言
(日本皮膚科学会中部支部 M&M ワーキンググループ委員)
一般再診外来（木曜午前），専門外来（木曜午後 遺伝病外来）
CO2 レーザー（神経線維腫症 1 型・結節性硬化症，他鼻瘤，表皮母斑等に対し）約 80 件，
エタノール注入術 4 件（木曜午後）
学会発表：海外 0 件 国内 1 件
論文発表：英文 2 件 和文 0 件
結節性硬化症，白斑等に対する，ラパマイシン外用剤の治療及び作用機序
1) 2015 年は，金田先生のもと，神経線維腫症 1 型や多汗症，酒さ等に対するラパマイシン外用剤臨床研究を進めていく予定です。希望される患者さんがおられましたら，まずは金田先生に御連絡下さい。
2) 木曜午前，これまでの一般外来とともに漢方外来も併せて行う予定です。（あくまでも西洋医学の皮膚科治療を基本とし，漢方を加えて治療する方針です。）

氏名 楊 伶俐
職名 特任研究員

専門医資格
省庁研究費

科学研究費助成事業 若手研究 B（皮膚のメラニン合成，分解系におけるオートファジーの役割の解明，代表）

受賞等
学会関係役員
大学，病院の運営委員
医局内委員
外来関係
受け持ち入院患者
手術数
学生講義
業績

学会発表：海外 2 件 国内 1 件
論文発表：英文 5 件 和文 0 件

論文査読
研究テーマ

皮膚色素細胞に関する研究

氏名
職名
専門医資格
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学，病院の運営委員
医局内委員
外来関係
受け持ち入院患者
手術数
学生講義
業績
論文査読
研究テーマ

楊 飛
特任研究員

学会発表：海外 1 件 国内 1 件
論文発表：英文 1 件 和文 0 件

結節性硬化症における皮膚病変の病態解明と治療薬の開発

氏名
職名
専門医資格
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学，病院の運営委員
医局内委員
外来関係
受け持ち入院患者

村上 有香子
シニア

厚生労働省科学研究費補助金：難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）
Erdheim-Chester 病に関する調査研究

パッチテスト外来（火曜日），一般外来（水曜日）
4 名

手術数 黄色腫切除 2 例
 学生講義
 業績
 学会発表：海外 0 件 国内 0 件
 論文発表：英文 1 件 和文 0 件
 論文査読
 研究テーマ Schwannomatosis, ECD などの Histiocytosis, BHD, Lowe syndrome, M2 macrophage, contact dermatitis
 一言 今年は論文博士を目指して頑張ります。(50 の手習い)

氏名 西岡 めぐみ
 職名 大学院生
 専門医資格 皮膚科専門医
 省庁研究費
 受賞等
 学会関係役員
 大学、病院の運営委員
 医局内委員
 外来関係 処置係
 受け持ち入院患者
 手術数
 学生講義
 業績
 学会発表：海外 1 件 国内 2 件
 論文発表：英文 3 件 和文 1 件
 論文査読
 研究テーマ ロドデノール誘発性脱色素斑，尋常性白斑，メラノーマ
 一言 臨床を一から学びたいです

氏名 越智 沙織
 職名 大学院 博士課程 4 年
 専門医資格 皮膚科専門医
 省庁研究費
 受賞等 加齢皮膚医学研究基金：ロート賞
 学会関係役員
 大学、病院の運営委員
 医局内委員
 外来関係 乾癬・一般外来
 受け持ち入院患者
 手術数
 学生講義
 業績
 学会発表：海外 0 件 国内 3 件
 論文発表：英文 7 件 和文 1 件
 論文査読
 研究テーマ ケラチノサイトにおけるコルチゾール再活性化酵素（11 β -HSD1）の役割について
 一言 今年で大学院は卒業となります。これまで教えていただいたことを生かし、臨床・研究ともに研鑽し、皮膚科医として成長したいと思います。

氏名	田上 尚子
職名	大学院生
専門医資格	皮膚科専門医
省庁研究費	
受賞等	
学会関係役員	
大学, 病院の運営委員	
医局内委員	
外来関係	一般外来
受け持ち入院患者	
手術数	
学生講義	
業績	学会発表：海外 2 件 国内 1 件 論文発表：英文 0 件 和文 0 件
論文査読	
研究テーマ	メラノーマにおける SOCS-1 による遺伝子治療
一言	これからご指導のほどどうぞよろしくお願い致します。

氏名	田原 真由子
職名	大学院生
専門医資格	
省庁研究費	
受賞等	
学会関係役員	
大学, 病院の運営委員	
医局内委員	
外来関係	
受け持ち入院患者	
手術数	
学生講義	
業績	学会発表：海外 0 件 国内 1 件 論文発表：英文 0 件 和文 1 件
論文査読	
研究テーマ	・思春期アトピー性皮膚炎の背景因子に対するコホート研究 ・アトピー性皮膚炎, 痒疹に対するエキシマ光線療法の治療効果に関して ・高齢者紅皮症に関して ・痒みに関して
一言	臨床や研究など様々なことを通して大学院生活を満喫しています。

氏名	小野 慧美
職名	大学院生
専門医資格	
省庁研究費	
受賞等	

学会関係役員

大学, 病院の運営委員

医局内委員

外来関係

受け持ち入院患者

手術数

学生講義

業績

論文査読

研究テーマ

ー

言

アトピー外来

学会発表：海外 1 件 国内 6 件

論文発表：英文 1 件 和文 1 件

口腔アレルギー症候群, 汗

口腔アレルギー症候群とアトピー性皮膚炎の汗に関する研究をしています。

氏 名

職 名

専門医資格

省庁研究費

受賞等

学会関係役員

大学, 病院の運営委員

医局内委員

外来関係

受け持ち入院患者

手術数

学生講義

業績

論文査読

研究テーマ

ー

言

加藤 健一

大学院生

処置係（水曜日）

学会発表：海外 0 件 国内 1 件

論文発表：英文 1 件 和文 0 件

マウスにおける薬剤特異的 T 細胞のスクリーニング

片山先生, 小豆澤先生の下, 重症薬疹の研究をしています。

氏 名

職 名

専門医資格

省庁研究費

受賞等

学会関係役員

大学, 病院の運営委員

医局内委員

外来関係

受け持ち入院患者

手術数

学生講義

業績

論文査読

研究テーマ

ー

言

神谷 智

大学院生

処置外来（木曜日）

BLM 遺伝子の発現制御による両アレル変異導入法

一言 ヒト iPS 細胞を用いて、BLM 遺伝子の発現を可逆的に制御して両アレルの遺伝子に変異を導入し、疾患遺伝子を探す方法を確立しようとしています。

氏 名 山賀 康右

職 名 大学院生

専門医資格

省庁研究費

受賞等

学会関係役員

大学、病院の運営委員

医局内委員

外来関係

受け持ち入院患者

手術数

学生講義

業績

学会発表：海外 1 件 国内 2 件

論文発表：英文 0 件 和文 0 件

論文査読

研究テーマ

一言

皮膚におけるタイトジャンクションの意義について研究しております。

先生方にタイトジャンクションに注目して頂けるよう、日々努力致します。

氏 名 小紫 雄貴

職 名 大学院生

専門医資格

省庁研究費

受賞等

学会関係役員

大学、病院の運営委員

医局内委員

外来関係

受け持ち入院患者

手術数

学生講義

業績

処置係（月曜）

学会発表：海外 0 件 国内 2 件（臨床皮膚科医会、皮膚悪性腫瘍学会）

論文発表：英文 0 件 和文 0 件

論文査読

研究テーマ

一言

内在性間葉系幹細胞を用いた難治性皮膚疾患の治療についての研究、強皮症モデルマウスを用いての抗線維化治療の研究

大学院に進学し約 1 年が経ちましたが、まだまだ未熟ですので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します

氏 名 進藤 翔子

職 名 大学院生

専門医資格

省 庁 研 究 費
受 賞 等
学 会 関 係 役 員
大 学 , 病 院 の 運 営 委 員
医 局 内 委 員
外 来 関 係
受 け 持 ち 入 院 患 者
手 術 数
学 生 講 義
業 績
論 文 査 読
研 究 テ ー マ
一 言

処置係, アトピー外来お手伝い

口唇炎の成因に関する研究

これから頑張っていきますので, よろしく願いいたします.

氏 名
職 名
専 門 医 資 格
省 庁 研 究 費
受 賞 等
学 会 関 係 役 員
大 学 , 病 院 の 運 営 委 員
医 局 内 委 員
外 来 関 係
受 け 持 ち 入 院 患 者
手 術 数
学 生 講 義
業 績
論 文 査 読
研 究 テ ー マ
一 言

東 典子 (3 月まで)

医員

後期研修医として主治医, 担当医を務めた

種村 Dr., 田中文 Dr. 執刀の手術に助手として参加

学会発表: 海外 0 件 国内 2 件

論文発表: 英文 1 件 和文 0 件

今後ともご指導, ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます.

氏 名
職 名
専 門 医 資 格
省 庁 研 究 費
受 賞 等
学 会 関 係 役 員
大 学 , 病 院 の 運 営 委 員
医 局 内 委 員
外 来 関 係
受 け 持 ち 入 院 患 者
手 術 数
学 生 講 義
業 績
論 文 査 読
研 究 テ ー マ
一 言

廣畑 彩希 (3 月まで)

医員

30 名

12 件

学会発表: 海外 0 件 国内 2 件

論文発表: 英文 0 件 和文 0 件

論文査読
研究テーマ
一言

今後とも御指導・御鞭撻の程よろしくお願い致します。

氏名
職名
専門医資格
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学、病院の運営委員
医局内委員
外来関係
受け持ち入院患者
手術数
学生講義
業績
論文査読
研究テーマ
一言

山本 笑
医員

6.7 人前後
週 1 回程度

学会発表：海外 0 件 国内 3 件
論文発表：英文 0 件 和文 0 件

皮膚科全般にわたり勉強中です。

氏名
職名
専門医資格
省庁研究費
受賞等
学会関係役員
大学、病院の運営委員
医局内委員
外来関係
受け持ち入院患者
手術数
学生講義
業績
論文査読
研究テーマ
一言

出口 彩香
医員

100 人
50 件

皮膚疾患全般
幅広い興味を持っています

氏名
職名
専門医資格
省庁研究費
受賞等

宇都宮 綾乃
医員

学会関係役員

大学, 病院の運営委員

医局内委員

外来関係

受け持ち入院患者

手術数

学生講義

業績

論文査読

研究テーマ

一言

平均 5~6 人

助手として局・全麻計 50 件程度

学会発表：海外 0 件 国内 1 件

論文発表：英文 0 件 和文 0 件

後期研修医として様々な疾患を勉強させて頂いています。今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

氏 名

職 名

専門医資格

省庁研究費

受賞等

学会関係役員

大学, 病院の運営委員

医局内委員

外来関係

受け持ち入院患者

手術数

学生講義

業績

論文査読

研究テーマ

一言

角村 由紀子

医員

火曜 6 診, アトピー外来

5, 6 人程度

学会発表：海外 0 件 国内 1 件

論文発表：英文 0 件 和文 0 件

アトピー性皮膚炎等

アトピー性皮膚炎を中心に少しでも患者さまのお役に立てるよう頑張ります。

大阪大学大学院医学系研究科内科系臨床医学専攻
情報統合医学講座皮膚科学教室

2014年 原著

[英文原著] (アルファベット順)

1. Jin H, **Arase N**, Hirayasu K, Kohyama M, Suenaga T, Saito F, Tanimura K, Matsuoka S, Ebina K, Shi K, Toyama-Sorimachi N, Yasuda S, Horita T, Hiwa R, Takasugi K, Ohmura K, Yoshikawa H, Saito T, Atsumi T, Sasazuki T, Katayama I, Lanier LL, Arase H: Autoantibodies to IgG/HLA class II complexes are associated with rheumatoid arthritis susceptibility. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 2014;111(10):3787-92.
2. **Azukizawa H**, Graft-Versus-Host Disease: A Model of Stevens-Johnson Syndrome and Toxic Epidermal Necrolysis. *Current Immunology Reviews*. 2014;10(1):19-23.
3. **Hashimoto N**, Tanemura A, Yamada M, Itoi S, Katayama I: Hepatitis C-related mixed type vitiligo in a patient with Ivemark syndrome. *J Dermatol*. 2014;41(2):185-6.
4. **Hayashi M**, Tanemura A, Matsuda K, Hosokawa K, Izumi M, Ohara K, Mihm MC, Katayama I: Pigmented epithelioid melanocytoma with lymph node metastasis in a patient with uncontrolled atopic dermatitis. *J Dermatol*. 2014;41(11):1023-5.
5. **Itoi S**, Tanemura A, Hayashi M, Nagata N, Tani M, Katayama I: Transient wheal attack corresponding to the tumor lesions of primary cutaneous diffuse large B cell lymphoma, leg type after successive rituximab treatment. *Case Rep Dermatol*. 2014;6(3):218-21.
6. **Itoi S**, Tanemura A, Tani M, Kitaba S, Terao M, Oiso N, Katayama I: Immunohistochemical Analysis of Interleukin-17 Producing T Helper Cells and Regulatory T Cells Infiltration in Annular Erythema Associated with Sjögren's Syndrome. *Ann Dermatol*. 2014;26(2):203-8.
7. **Itoi S**, Tanemura A, Tsuji C, Kitaba S, Katayama I, Tateishi C, Tsuruta D: A rare case of male bullous lupus erythematosus complicated with subsequent annular hypopigmentation. *Case Rep Dermatol*. 2014;6(1):91-7.
8. **Itoi S**, Tanemura A, Kotobuki Y, Kaneda M, Tsuruta D, Ishii M, Katayama I: Coexistence of Langerhans cells activation and immune cells infiltration in progressive nonsegmental vitiligo. *J Dermatol Sci*. 2014;73(1):83-5.
9. **Katayama I**, Kohno Y, Akiyama K, Aihara M, Kondo N, Saeki H, Shoji S, Yamada H, Nakamura K; Japanese Society of Allergology: Japanese guideline for atopic dermatitis 2014. *Allergol Int*. 2014;63(3):377-98.
10. Igawa K, Kokubu C, Yusa K, Horie K, Yoshimura Y, Yamauchi K, Suemori H, Yokozeki H, Toyoda M, Kiyokawa N, Okita H, Miyagawa Y, Akutsu H, Umezawa A, **Katayama I**, Takeda J: Removal of reprogramming transgenes improves the tissue reconstitution potential of keratinocytes generated from human induced pluripotent stem cells. *Stem Cells Transl Med*. 2014;3(9):992-1001.
11. Imafuku S, Nakayama J, Higa K, Furue M, Takahara M, **Katayama I**, Tani M: One-year follow-up of zoster-associated pain in 764 immunocompetent patients with acute herpes zoster treated with famciclovir (FAMILIAR study). *J Eur Acad Dermatol Venereol*. 2014;28(12):1716-22.
12. **Kato K**, Hanafusa T, Igawa K, Tatsumi M, Takahashi Y, Yamanaka T, Katayama I: A rare case of annular pustular psoriasis associated with pemphigus foliaceus. *Ann. Dermatol*. 2014;26(2):260-1.

13. **Kiyohara E**, Hata K, Lam S, Hoon DS: Circulating tumor cells as prognostic biomarkers in cutaneous melanoma patients. *Methods Mol Biol.* 2014;1102:513-22.
14. Marzese DM, Scolyer RA, Huynh JL, Huang SK, Hirose H, Chong KK, **Kiyohara E**, Wang J, Kawas NP, Donovan NC, Hata K, Wilmott JS, Murali R, Buckland ME, Shivalingam B, Thompson JF, Morton DL, Kelly DE, Hoon DS: Epigenome-wide DNA methylation landscape of melanoma progression to brain metastasis reveals aberrations on homeobox D cluster associated with prognosis. *Hum Mol Genet.* 2014;23(1):226-38.
15. Chiu CG, Nakamura Y, Chong KK, Huang SK, Kawas NP, Triche T, Elashoff D **Kiyohara E**, Irie RF, Morton DL, Hoon DS: Genome-wide characterization of circulating tumor cells identifies novel prognostic genomic alterations in systemic melanoma metastasis. *Clin Chem.* 2014;60(6):873-85.
16. **Murakami Y**, Wataya-Kaneda M, Tanaka M, Takahashi A, Tsujimura A, Inoue K, Nonomura N, Katayama I: Two Japanese cases of birt-hogg-dubé syndrome with pulmonary cysts, fibrofolliculomas, and renal cell carcinomas. *Case Rep Dermatol.* 2014;6(1):20-8.
17. **Murota H**, Itoi S, Terao M, Matsui S, Kawai H, Satou Y, Suda K, Katayama I: Topical cholesterol treatment ameliorates hapten-evoked cutaneous hypersensitivity by sustaining expression of 11 β -HSD1 in epidermis. *Exp Dermatol.* 2014;23(1):68-70.
18. Matsui S, **Murota H**, Ono E, Kikuta J, Ishii M, Katayama I: Olopatadine hydrochloride restores histamine-induced impaired sweating. *J Dermatol Sci.* 2014;74(3):260-1.
19. Suma A, **Murota H**, Kitaba S, Yamaoka T, Kato K, Matsui S, Takahashi A, Yokomi A, Katayama I: Idiopathic pure sudomotor failure responding to oral antihistamine with sweating activities. *Acta Derm Venereol.* 2014;94(6):723-4.
20. Matsui S, **Murota H**, Takahashi A, Yang L, Lee JB, Omiya K, Ohmi M, Kikuta J, Ishii M, Katayama I: Dynamic Analysis of Histamine-Mediated Attenuation of Acetylcholine-Induced Sweating via GSK3 β Activation. *J Invest Dermatol.* 2014;134(2):326-34.
21. Horimukai K, Morita K, Narita M, Kondo M, Kitazawa H, Nozaki M, Shigematsu Y, Yoshida K, Niizeki H, Motomura K, Sago H, Takimoto T, Inoue E, Kamemura N, Kido H, Hisatsune J, Sugai M, **Murota H**, Katayama I, Sasaki T, Amagai M, Morita H, Matsuda A, Matsumoto K, Saito H, Ohya Y: Application of moisturizer to neonates prevents development of atopic dermatitis. *J Allergy Clin Immunol.* 2014;134(4):824-30.
22. Senda S, Igawa K, **Nishioka M**, Murota H, Katayama I: Systemic sclerosis with sarcoidosis: case report and review of the published work. *J Dermatol.* 2014;41(5):421-3.
23. Maeda Y, Nishikawa H, Sugiyama D, Ha D, Hamaguchi M, Saito T, **Nishioka M**, Wing JB, Adeegbe D, Katayama I, Sakaguchi S: Detection of self-reactive CD8⁺ T cells with an anergic phenotype in healthy individuals. *Science.* 2014;346(6216):1536-40.
24. **Tanaka A**, Hayaishi N, Kondo Y, Kurachi K, Tanemura A, Katayama I: Severe gangrene accompanied by varicella-zoster virus-related vasculitis mimicking rheumatoid vasculitis. *Case Reports in Dermatology.* 2014;6(1):103-7.
25. Oiso N, Nomi N, Fukai K, **Tanemura A**, Suzuki T, Katayama I, Wakamatsu K, Muto M, Kawada A: Nevus depigmentosus with pale skin, yellow-brown hair and a light brown iris. *Eur J Dermatol.* 2014;24(3):406-7.
26. Kurata R, Futaki S, Nakano I, **Tanemura A**, Murota H, Katayama I, Sekiguchi K: Isolation and characterization

of sweat gland myoepithelial cells from human skin. *Cell Struct Funct.* 2014;39(2):101-12.

27. **Terao M**, Tani M, Itoi S, Yoshimura T, Hamasaki T, Murota H, Katayama I: 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase 1 specific inhibitor increased dermal collagen content and promotes fibroblast proliferation. *PLoS One.* 2014;9(3):e93051.
28. Tamiya H, **Terao M**, Takiuchi T, Nakahara M, Sasaki Y, Katayama I, Yoshikawa H, Iwai K: IFN- γ or IFN- α ameliorates chronic proliferative dermatitis by inducing expression of linear ubiquitin chain assembly complex. *J Immunol.* 2014;192(8):3793-804.
29. Teng JM, Cowen EW, **Wataya-Kaneda M**, Gosnell ES, Witman PM, Herbert AA, Mlynarczy G, Soltani K, Darling TM: Dermatologic and dental aspects of the 2012 International Tuberous Sclerosis Complex Consensus Statements. *JAMA Dermatol.* 2014;150(10):1095-101.
30. **Yamaga K**, Hanafusa T, Azukizawa H, Tanemura A, Nii T, Nishide M, Narazaki M, Katayama I: Immune reconstitution inflammatory syndrome in a patient with adult-onset Still's disease: graft-versus-host-like skin reaction with possible asymptomatic human herpes virus reactivation during steroid tapering. *Eur J Dermatol.* 2014;24(1):101-3.
31. **Yamaoka T**, Murota H, Tani M, Katayama I: Severe rosacea with prominent Demodex folliculorum in a patient with HIV. *J Dermatol.* 2014;41(2):195-6.
32. **Yamaoka T**, Doi C, Yokomi A, Tanemura A, Murota H, Tani M, Saruban H, Hamaguchi Y, Fujimoto M, Katayama I: Anti-MDA5 antibody-positive dermatomyositis with lethal progressive interstitial lung disease and advanced gastric cancer. *Eur J Dermatol.* 2014;24(4):490-1.
33. Sekiya A, Kodera M, **Yamaoka T**, Iwata Y, Usuda T, Ohzono A, Yasukochi A, Koga H, Ishii N, Hashimoto T: A case of lichen planus pemphigoides with autoantibodies to the NC16a and C-terminal domains of BP180 and to desmoglein-1. *Br J Dermatol.* 2014;171(5):1230-5.
34. Inoue T, **Yamaoka T**, Murota H, Yokomi A, Tanemura A, Igawa K, Tani M, Katayama I: Effective oral psoralen plus ultraviolet a therapy for digital ulcers with revascularization in systemic sclerosis. *Acta Derm Venereol.* 2014;94(2):250-1.
35. **Yang F**, Tanaka M, Wataya-Kaneda M, Yang L, Nakamura A, Matsumoto S, Attia M, Murota H, Katayama I: Topical application of rapamycin ointment ameliorates Dermatophagoides farina body extract-induced atopic dermatitis in NC/Nga mice. *Exp Dermatol.* 2014;23(8):568-72.
36. **Yang L**, Murota H, Serada S, Fujimoto M, Kudo A, Naka T, Katayama I: Histamine contributes to tissue remodeling via periostin expression. *J Invest Dermatol.* 2014;134(8):2105-13.
37. Kotobuki Y, **Yang L**, Serada S, Tanemura A, Yang F, Nomura S, Kudo A, Izuhara K, Murota H, Fujimoto M, Katayama I, Naka T: Periostin accelerates human malignant melanoma progression by modifying the melanoma microenvironment. *Pigment Cell Melanoma Res.* 2014;27(4):630-9.

[和文原著] (五十音順)

1. 荒瀬規子, 金 暉, 荒瀬 尚: 自己免疫疾患の新たな発症メカニズム. *細胞工学* 2014;33(7):762-3.
2. 荒瀬規子, 金 暉, 荒瀬 尚: 自己免疫疾患の新たな発症メカニズム. *感染・炎症・免疫* 2014;44(2):67-9.

3. 小豆澤宏明, 横見明典, 谷 守, 室田浩之, 中山貴寛, 玉木康博, 野口眞三郎, 片山一朗: パクリタキセル投与中にみられた顔面紅斑の2例 Fixed erythrodysaesthesia plaque. Journal of Environmental Dermatology and Cutaneous Allergology 2014;8(2):109-13.
4. 糸井沙織, 梅垣知子, 谷 守, 吉良正浩, 堀内孝彦, 片山一朗: 遺伝性血管性浮腫, Sjogren 症候群を合併した関節症性乾癬にエタネルセプトが奏効した例. 皮膚病診療 2014;36(4):325-8.
5. 小野慧美, 室田浩之, 谷 守, 片山一朗: 診断に苦慮し, ペルメトリン外用が有効であった乳児疥癬の1例. 皮膚の科学 2014;13(1):8-12.
6. 深井和吉, 大磯直毅, 川口正一, 佐藤美保, 堀田喜裕, 種村 篤, 金田眞理, 川上民裕, 他: 眼皮白皮症診断ガイドライン. 日本皮膚科学会雑誌 2014;124(10):1897-1911.
7. 種村 篤, 小紫雄貴, 田中 文, 片山一朗: 血管肉腫を外科的切除する際に行った止血の一工夫. 日本皮膚外科学会雑誌 2014;18(2):1-4.
8. 中野真由子, 種村 篤, 小泉佳奈, 横見明典, 片山一朗, 中西 元, 田中俊宏, 関本貢嗣: 会陰から肛門部に多発した HPV16 感染 Bowen 病の1例. 皮膚の科学 2014;13(4):263-8.
9. 西岡めぐみ, 種村 篤, 西田純幸, 杉山治夫, 片山一朗: BCG-CWS を用いたがんワクチン療法の接種部潰瘍. 皮膚病診療 2014;36(12):1157-60.
10. 室田浩之: 【皮膚科の「医療の質」を考える - QI を知っていますか?】(QI 6a) 血管炎・紫斑 血管炎・血管症診療の医療の質を測る: QI の国際動向と展望. Visual Dermatology 2014;13(10):1120-1.
11. 室田浩之: 発汗能を制御し皮膚恒常性保持能力を回復させる試み. コスメトロジー研究報告 2014; 22:168-71.

2014年 総説

[和文総説]

1. 小豆澤宏明：【重症薬疹の診断と治療 アップデート】重症薬疹の検査. アレルギー・免疫 2014; 21(8):1240-6.
2. 小豆澤宏明：特集 薬物アレルギー疑うべきポイントと対処法 薬物アレルギーの発症機序. 月刊薬事 2014;56(14):45-50.
3. 片山一朗：特集高齢者のアレルギー性皮膚疾患 I. 加齢と Th2 型免疫応答：高齢者のアレルギー疾患～オーバービュー. アレルギー・免疫 2014;21(2):23(231)-33(241).
4. 片山一朗：特集 アレルギー疾患ガイドライン改訂について IV. アトピー性皮膚炎. アレルギー・免疫 2014;21(3):43(427)-51(435).
5. 片山一朗：外用療法：ビタミン D₃ 外用剤. Monthly Book Derma 2014;No.214:21-8.
6. 片山一朗：臨床各科 差分解説 皮膚科 アトピー性皮膚炎の外用療法. 日本医事新報 2014;4693:59.
7. 片山一朗：臨床各科 差分解説 皮膚科 乾癬の新しい病因論と生物製剤 (Biologics). 日本医事新報 2014;4697:59.
8. 片山一朗：臨床各科 差分解説 皮膚科 重症薬疹の診断：最新の動向. 日本医事新報 2014;4702:59.
9. 片山一朗：臨床各科 差分解説 皮膚科 悪性黒色腫治療のパラダイムシフト. 日本医事新報 2014; 4712:56.
10. 片山一朗：特集アレルギー診療最前線 皮膚バリア機能とアレルギー疾患. medical ASAHI 2014;25-8.
11. 片山一朗：これが肉芽腫性口唇炎, 浮腫結合性肉芽腫だ！. 皮膚アレルギー フロンティア 2014; 12(3):59.
12. 金田眞理：結節性硬化症 up date 基礎と臨床. 日本皮膚科学会雑誌 2014;124(13臨):2462-5.
13. 寺尾美香：皮膚のステロイド代謝と皮膚老化：11 β -HSD1 を中心に. アレルギー免疫 2014;21(2):44-53.
14. 室田浩之：【アトピー性皮膚炎治療の最前線】痒み. Derma 2014;11(224):38-44.
15. 室田浩之：夏季のアトピー性皮膚炎悪化対策. 日本医事新報 2014;4715:63.
16. 室田浩之：診療の秘訣 アトピー性皮膚炎の汗対策指導. Modern Physician 2014;34(10):1231.
17. 室田浩之：アトピー性皮膚炎悪化因子の検証 汗と温度に関する最近の知見. 西日本皮膚科 2014; 76(3):189-93.
18. 室田浩之：アトピー性皮膚炎における発汗障害. 皮膚病診療 2014;36(8):700-5.

19. 室田浩之：【知っておきたい汗の必須知識】 汗腺の制御機構 発汗活動とヒスタミン. *Derma* 2014; 07(220):13-8.
20. 室田浩之：【汗とアレルギー】 発汗制御にかかわる新たな分子機構. *皮膚アレルギーフロンティア* 2014;12(2):73-7.
21. 室田浩之：子どもの皮膚 小児の発汗. *日本小児皮膚科学会雑誌* 2014;33(2):177-9.
22. 室田浩之：新・皮膚科セミナー 汗 生理と病態の全て アトピー性皮膚炎における発汗障害. *日本皮膚科学会雑誌* 2014;124(7):1289-93.
23. 松井佐起, 室田浩之, 片山一郎：【アトピー性皮膚炎治療の極意】 アトピー性皮膚炎（AD）における発汗低下機序と抗ヒスタミン剤の役割. *臨床免疫・アレルギー科* 2014;61(6):663-7.
24. 室田浩之：【最近のトピックス 2014 *Clinical Dermatology* 2014】 皮膚疾患の病態 温まるとなぜかゆいのか? *臨床皮膚科* 2014;68(5):47-50.
25. 室田浩之：アトピー性皮膚炎における発汗障害 汗を知り汗に向き合う. *日本小児皮膚科学会雑誌* 2014;33(1):23-7.
26. 室田浩之：【痒疹の粘り強い治療】 内服・全身療法（かゆみ作働薬）. *Monthly Book Derma* 2014;214:41-7.

2014年 監修・編集・著書

[監修・編集]

1. 片山一朗 ゲスト編集：特集 高齢者のアレルギー性皮膚疾患 2014 アレルギー・免疫 2 21(2)
2. 片山一朗 編集企画：痒疹の粘り強い治療 2014 No.214 Monthly Book Derma.
3. 片山一朗 総監修：学ぼう－こどもの皮膚疾患 18 こどものアナフィラキシー No.18
4. 片山一朗 総監修：学ぼう－こどもの皮膚疾患 19 小児アトピー性皮膚炎の鑑別疾患 No.19
5. 片山一朗 監修：高齢者に多い皮膚疾患 マルホ
6. 片山一朗 総監修：学ぼう－こどもの皮膚疾患 20 こどもの白斑－脱色素斑 No.20
7. 片山一朗 総監修：学ぼう－こどもの皮膚疾患 21 冬のスキンケア No.21

[著書]

1. 片山一朗（監修 福井次矢 編集：小松康宏，渡邊裕司）：102 皮膚科・外用ステロイド. Pocket Drugs 2014 医学書院 2014, pp.1007-9.
2. 片山一朗（編集：宮地良樹）：11. ステロイドが必要な蕁麻疹治療の決め手－本当にステロイドが必要な蕁麻疹かを判断する解決法は？ 蕁麻疹・痒疹・皮膚掻痒症. 苦手な外来皮膚疾患 100 の解決法 メディカルレビュー社 2014, pp.58-9.
3. 片山一朗（編集：宮地良樹）：30. ドライアイをみたときの対処法の決め手－シェーグレン症候群を見逃がさない解決法は？ 膠原病・類縁疾患. 苦手な外来皮膚疾患 100 の解決法 メディカルレビュー社 2014, pp.96-7.
4. 片山一朗（監修：前田憲寿）：第8章 神経・内分泌・免疫系と皮膚老化 ファインケミカルシリーズ 美肌科学の最前線 シーエムシー出版 2014, pp.61-71.
5. 片山一朗（編集：大久保公裕）：Ⅲ. アレルギー診療の問診・診断のコツ ③ 皮膚病変. イチから知りたい アレルギー診療－領域を超えた総合対策－ 全日本病院出版会 2014, pp.32-40.
6. 片山一朗（編集：井上智子，稲瀬直彦）：第1章 全身 11 掻痒感（かゆみ）. 緊急度・重症度からみた症状別看護過程＋病態関連図 第2版 医学書院 2014, pp.196-202.
7. 片山一朗（監修：門脇 孝，小室一成，宮地良樹 責任編集：宮地良樹）：4. 接触皮膚炎（かぶれ） XI. 皮膚科疾患 診療ガイドライン UP-TO-DATE 2014-2015 メディカルレビュー社 2014, pp.626-30.
8. 室田浩之（監修：山口 徹，北原光夫 総編集：福井次矢，高木 誠，小室一成）：痒疹・ストロフルス 今日の治療指針 2014 医学書院 2014, p.1097.
9. 室田浩之（編集：加藤則人）：Chapter 2 アトピー性皮膚炎の治療 Q22 アトピー性皮膚炎患者の手や足の湿疹の治療のポイントを教えてください Chapter 5 患者からよく質問され，答えに難渋するもの Q54「痒みをやわらげる方法がありますか？」と聞かれたら… エキスパートが答える！アトピー性皮膚

炎 Q&A55 診断と治療社 2014, pp.55-7, pp.144-7.

2014年 特別講演

[講演会]

1. 小豆澤宏明：重症薬疹の臨床的特徴とその対応. 西成区医師会 大阪 (2014.07.11)
2. 小豆澤宏明：重症薬疹の臨床的特徴とその対応. 国立循環器病センター 大阪 (2014.07.15)
3. 片山一郎：尋常性白斑の新しい病因論と化粧品による白斑. 第28回 皮膚疾患の病態と治療シンポジウム 東京 (2014.01.25)
4. 片山一郎：アレルギー炎症でのヒスタミンの新たな生物作用と抗ヒスタミン薬アドヒアランスの意義. 第77回日本皮膚科学会東京支部学術大会 ランチョンセミナー1 東京 (2014.02.15)
5. 片山一郎：花粉症と皮膚・粘膜のアレルギー. 埼玉アレルギー性鼻炎フォーラム2014 埼玉 (2014.02.20)
6. 片山一郎：アトピー性皮膚炎－最新の病態と今後の治療－. 福岡地区皮膚科医会学術講演会 福岡 (2014.03.10)
7. 片山一郎：皮膚の自然免疫システムからみた生物製剤の新たな展開：乾癬・白斑・強皮症. 第10回 SHEET 連携会 札幌 (2014.03.18)
8. 片山一郎：皮膚でのステロイド産生系と炎症性皮膚疾患での意義：あらたな Homeostatic regulator. 第12回関西皮膚疾患懇話会 大阪 (2014.04.05)
9. 片山一郎：尋常性白斑の新しい病因論と IL-17：ステロイドから分子標的薬へ. 第10回皮膚免疫疾患研究会 大阪 (2014.04.10)
10. 片山一郎：生体の恒常性とアレルギー：長崎医学から学んだこと. 第322回日本皮膚科学会長崎地方会共催セミナー 長崎 (2014.04.12)
11. 片山一郎：肥満細胞と皮膚疾患. 日本皮膚科学会福島地方会第366回例会 ランチョンセミナー 福島 (2014.04.29)
12. 片山一郎：ヒスタミンのアレルギー炎症での新しい役割. 佐世保皮膚科医会学術講演会 長崎 (2014.06.19)
13. 片山一郎：治療に苦慮する Common skin disease：私の外用療法. 第109回日本皮膚科学会静岡地方会 静岡 (2014.06.21)
14. 片山一郎：ヒスタミンのアレルギー炎症での新しい役割. 庄内皮膚科研究会学術講演会 山形 (2014.06.28)
15. 片山一郎：老人性紅皮症と老人性アトピー性皮膚炎の接点. 第10回 富山皮膚粘膜疾患懇話会 富山 (2014.09.06)
16. 片山一郎：白斑の診断と治療：ロドデノールによる皮膚障害. 第61回大阪皮膚科医会例会・学術講演

会 大阪 (2014.09.13)

17. 片山一朗：アトピー性皮膚炎治療の勘どころ. 第3回 Allergy Boot Camp 滋賀 (2014.09.27)
18. 片山一朗：アトピー性皮膚炎－最新の病態と今後の治療：ガイドラインにない外用療法をまじえて 尼崎市皮膚科医会総会・講演会 尼崎 (2014.10.18)
19. 片山一朗：ヒスタミンのアレルギー炎症でのあらたな役割：抗ヒスタミン薬アドヒアランスの意義 第74回臨床アレルギー研究会 東京 (2014.11.01)
20. 片山一朗：アトピー性皮膚炎の外用療法～季節と皮膚症状から考えるスキンケア指導と外用療法の選択～. 平成26年 皮膚の日講演会 大阪 (2014.11.16)
21. 田原真由子, 室田浩之, 片山一朗：アトピー性皮膚炎, 結節性痒疹に対するエキシマライト光線療法の治療効果. 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.06.01)
22. 室田浩之：教育セミナー ーから考えるアトピー性皮膚炎の痒みとその対策. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会 京都 (2014.05.10-11)
23. 室田浩之：教育講演 皮膚アレルギーの汗対策. 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
24. 室田浩之：イブニングセミナー アトピー性皮膚炎 (小児から成人まで). 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
25. 室田浩之：ランチョンセミナー 乾癬のかゆみの特徴：皮膚－脳相関の視点からアトピー性皮膚炎と対比する. 第29回日本乾癬学会学術大会 高知 (2014.09.19-20)
26. 室田浩之：教育講演 専門医試験対策 試験にでる！皮膚の生理機能. 第65回日本皮膚科学会中部支部学術大会 大阪 (2014.10.25-26)
27. 室田浩之：セミナー アトピー性皮膚炎の痒みアップデート：皮膚と脳の対話. 第44回日本皮膚アレルギー接触皮膚炎学会 仙台 (2014.11.22-23)
28. 山岡俊文：免疫抑制薬の内服でコントロールしえた livedo racemosa の2例. 第10回大阪大学皮膚科臨床検討会 大阪 (2014.03.08)
29. 山岡俊文：皮膚潰瘍を合併した膠原病疾患における血清 HMGB1 の推移. 第27回皮膚科糖尿病循環障害研究会 大阪 (2014.04.03)
30. 山岡俊文：皮膚潰瘍を合併した膠原病疾患における血清 HMGB1 の推移. 第322回長崎地方会 長崎 (2014.04.13)
31. 山岡俊文：乾癬治療における病診連携について. 乾癬治療病診連携の会 大阪 (2014.08.28)
32. 山岡俊文：血中 IL-6 の上昇を伴った IgA 血管炎を合併した SAPHO 症候群の1例. 第8回関西皮膚科Biologics研究会 大阪 (2014.09.11)
33. 山岡俊文：Case Discussion. psoriasis skill up meeting 大阪 (2014.10.17)

2014年 座長

[国際学会]

[片山一朗]

1. Jee-Bum LEE (Korea): New Topical & Light-Based Treatment for Actinic Keratoses. EADS 2014 (3rd Eastern Asia Dermatology Congress) Korea (2014.09.25)
2. H-Hwan KIM (Korea): BCC in Asian Skin: The Role of Pigmentation. EADS 2014 (3rd Eastern Asia Dermatology Congress) Korea (2014.09.25)
3. Hang LI (China): AK and Skin Cancer: Experiences in China. EADS 2014 (3rd Eastern Asia Dermatology Congress) Korea (2014.09.25)
4. Kee Yang CHUNG (Korea): Mohs Microscopic Surgery for NMSC: Korean Experience EADS 2014 (3rd Eastern Asia Dermatology Congress) Korea (2014.09.25)
5. Kuniaki OHARA (Japan): Nail Melanoma EADS 2014 (3rd Eastern Asia Dermatology Congress) Korea (2014.09.25)
6. Ki-Hoon SONG (Korea): Current Melanoma Management in Korea EADS 2014 (3rd Eastern Asia Dermatology Congress) Korea (2014.09.25)

[室田浩之]

7. Enji Kawabata (Laboratory of Stem Cell Regulation, National Institute of Biomedical Innovation, Japan): Generation and characterization of mast cell-like cells from pluripotent stem cells. East Asia Allergy Symposium 2014 Morning Lecture The 26th Spring Meeting of Japanese Society of Allergology Kyoto (2014.05.11)

[国内学会]

[片山一朗]

1. 檜澤孝之 (ひざわ皮膚科クリニック 院長): 乳幼児の楽しいアレルギー検査「これってアレルギーですか？」ときかれたときに 第10回大阪皮膚アレルギーネットワーク (ODAN) 大阪 (2014.01.11)
2. 中村敏明 (医療法人亮友会 なかむら皮膚科 理事長): アトピー性皮膚炎における病診連携～開業医の立場から～ 第10回大阪皮膚アレルギーネットワーク (ODAN) 大阪 (2014.01.11)
3. 片岡葉子 (大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 皮膚科 主任部長): アトピー性皮膚炎は皮膚科専門医ネットワークで治したいー Osaka Dermato-Eczema Network 構築のためのコンセンサスー 第10回大阪皮膚アレルギーネットワーク (ODAN) 大阪 (2014.01.11)
4. 飯塚 一 (旭川医科大学 皮膚科学講座 教授): 全身性炎症としての乾癬 第7回関西皮膚科 Biologics 研究会 大阪 (2014.01.23)
5. 上阪 等 (東京医科歯科大学 膠原病・リウマチ内科 教授): 膠原病病態の新しいモデルー seed and soil モデルー 第37回皮膚脈管・膠原病研究会 ランチョンセミナー1 東京 (2014.01.24)
6. John Koo, MD (Professor of Clinical Dermatology UCSF School of Medicine): Topical therapy in the management of psoriasis-AUSA perspective on the management of psoriasis and the involvement of relevant

topical therapies Meet the expert in Osaka 大阪 (2014.01.27)

7. 石川 治 (群馬大学大学院医学系研究科 皮膚科学 教授) : 膠原病及び類縁疾患 - 最近の話題 - 第29回近畿MMC研究会 大阪 (2014.02.08)
8. 山岡俊文 (大阪大学大学院医学系研究科 皮膚科学講座 助教) : 免疫抑制薬の内服でコントロールしえた livedo racemosano 2 例 第10回大阪大学皮膚科臨床検討会 大阪 (2014.03.08)
9. 竹原友貴 (住友病院) : 血管炎を疑った片側下肢の再発性単純ヘルペスウイルス-2型感染症の1例 第10回大阪大学皮膚科臨床検討会 大阪 (2014.03.08)
10. 福山國太郎 (関西労災病院 皮膚科 副部長) : 結節性類天疱瘡の一例 第10回大阪大学皮膚科臨床検討会 大阪 (2014.03.08)
11. 音山和宣 (音山医院 院長) : 三下野郎の皮膚科学 第10回大阪大学皮膚科臨床検討会 大阪 (2014.03.08)
12. 西岡 清 (東京医科歯科大学 名誉教授) : 賞味期限切れのアトピー性皮膚炎 第10回大阪大学皮膚科臨床検討会 大阪 (2014.03.08)
13. 多田弥生 (帝京大学医学部皮膚科学講座 准教授) : 全身性疾患としての乾癬 第5回大阪乾癬バイオフォーラム 大阪 (2014.03.13)
14. 佐伯秀久 (東京慈恵会医科大学 皮膚科学講座 准教授) : ADの診断と治療 第2回小児アトピー性皮膚炎フォーラム 大阪 (2014.03.21)
15. 岩倉洋一郎 (東京理科大学 生命医学科研究所 実験動物学研究部門 教授) : 自己免疫, および感染防御に於ける IL-17 の役割 第10回皮膚免疫疾患研究会 大阪 (2014.04.10)
16. 小川和彦 (大阪大学大学院医学系研究科 放射線治療学 教授) : 皮膚悪性腫瘍に対する放射線治療 第12回 なにわ皮膚腫瘍勉強会 大阪 (2014.04.18)
17. Mark Boguniewicz (Division of Allergy-Immunology, Department of Pediatrics, National Jewish Health and University of Colorado School of Medicine, USA): Atopic dermatitis: new insights and therapeutic implications 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会 京都 (2014.05.09)
18. 森田栄伸 (島根大学医学部 皮膚科 教授) : 経皮感作とアレルギーマーチ 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会 京都 (2014.05.11)
19. 平川聡史 (浜松医科大学 皮膚科学講座 准教授) : ありふれた皮膚病: 血管透過性との関わり 第9回皮膚疾患 Update 大阪 (2014.05.16)
20. 青山裕美 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 皮膚科学 准教授) : 天疱瘡治療: 基本のステロイド治療からリツキサンまで - リスク & ベネフィットを考慮した疾患マネジメント - 第9回皮膚疾患 Update 大阪 (2014.05.16)
21. 森脇真一 (大阪医科大学医学部 感覚器機能形態医学講座 皮膚科学 教授) : 臨床医に必要な光線過敏症の知識 - 診断から患者ケアまで - 第9回北摂皮膚科病診連携の会 大阪 (2014.05.17)
22. 多田弥生 (帝京大学医学部皮膚科 准教授) : シクロスポリンの作用を理解して乾癬治療で上手に使う

う 第113回日本皮膚科学会総会 ランチョンセミナー1 京都 (2014.05.30)

23. 片岡葉子 (大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 皮膚科 主任部長) : 重症アトピー性皮膚炎 : ゴールを見据えた治療戦略とシクロスポリンの位置づけ 第113回日本皮膚科学会総会 ランチョンセミナー1 京都 (2014.05.30)
24. 西澤 綾 (東京医科歯科大学 皮膚科 講師) : 発汗機能, 動態を把握する機器 : アップデート 第113回日本皮膚科学会総会 教育講演3 京都 (2014.05.30)
25. 戸倉新樹 (浜松医科大学 皮膚科学 教授) : コリン性蕁麻疹と発汗異常 第113回日本皮膚科学会総会 教育講演3 京都 (2014.05.30)
26. 塩原哲夫 (杏林大学 医学部皮膚科学教室 教授) : 皮膚のアレルギーに汗は善玉か? 第113回日本皮膚科学会総会 教育講演3 京都 (2014.05.30)
27. 秀 道広 (広島大学医歯薬保健学研究院皮膚科学教室 教授) : 皮膚アレルギーに汗は悪玉? 第113回日本皮膚科学会総会 教育講演3 京都 (2014.05.30)
28. 室田浩之 (大阪大学大学院医学系研究科皮膚科学教室 准教授) : 皮膚アレルギーの汗対策 第113回日本皮膚科学会総会 教育講演3 京都 (2014.05.30)
29. 末廣 豊 (大阪府済生会中津病院小児科, 免疫・アレルギーセンター) : アレルギーマーチ予防における抗ヒスタミン薬の可能性 第113回日本皮膚科学会総会 ランチョンセミナー16 京都 (2014.05.31)
30. 佐藤伸一 (東京大学大学院医学系研究科・医学部皮膚科 教授) : ビタミンDの多彩な作用と乾癬への有効性 第113回日本皮膚科学会総会 イブニングセミナー10 京都 (2014.05.31)
31. 戸倉新樹 (浜松医科大学 皮膚科学 教授) : つかみがたい痒疹を考察する 第113回日本皮膚科学会総会 モーニングセミナー8 京都 (2014.06.01)
32. 加茂敦子 (順天堂大学大学院医学研究科環境医学研究所) : エキシマランプによる痒みの抑制メカニズム 第113回日本皮膚科学会総会 ランチョンセミナー24 京都 (2014.06.01)
33. 田原真由子 (大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学皮膚科学講座) : アトピー性皮膚炎, 結節性痒疹に対するエキシマライト光線療法の治療効果 第113回日本皮膚科学会総会 ランチョンセミナー24 京都 (2014.06.01)
34. 谷 守 (大阪大学大学院医学系研究科 皮膚科学 助教) : MTX投与中に見られた皮膚の異型ヘルペスの3例 第6回近畿ヘルペス感染症研究会 第6回近畿ヘルペス感染症研究会 大阪 (2014.06.05)
35. 澤田明久 (大阪府立母子保健総合医療センター 血液・腫瘍科 副部長) : 慢性活動性EBウイルス感染症 : 治療の進歩 25年史 第6回近畿ヘルペス感染症研究会 大阪 (2014.06.05)
36. 羽田敦子 (田附興風会北野病院 小児科・感染症科 部長) : 糖尿病患者における帯状疱疹予防 第6回近畿ヘルペス感染症研究会 大阪 (2014.06.05)
37. 桧垣史郎 (近畿大学医学部堺病院 眼科 准教授) : マウスヘルペス性角膜炎における抗ヘルペスウイルス薬 第6回近畿ヘルペス感染症研究会 大阪 (2014.06.05)

38. 萩森伸一（大阪医科大学 耳鼻咽喉科学教室 准教授）：末梢性顔面神経麻痺におけるヘルペスウイルスの関与 第6回近畿ヘルペス感染症研究会 大阪（2014.06.05）
39. 石川 淳（大阪府立成人病センター 血液・化学療法科 主任部長）：血液疾患とヘルペス感染症あれこれ 第6回近畿ヘルペス感染症研究会 大阪（2014.06.05）
40. 森 康子（神戸大学大学院医学研究科 臨床ウイルス学 教授）：ヒトヘルペスウイルス6の感染機構 第6回近畿ヘルペス感染症研究会 大阪（2014.06.05）
41. 浅田秀夫（奈良県立医科大学 皮膚科学 教授）：皮膚科領域のヘルペス感染症 第6回近畿ヘルペス感染症研究会 大阪（2014.06.05）
42. 神戸直智（千葉大学大学院医学研究院 皮膚科学 准教授）：蕁麻疹とは何か？－クリオピリン関連周期性症候群から見てきたもの－ 第20回ギンナン皮膚科談話会 大阪（2014.06.21）
43. 西江 渉（北海道大学大学院医学研究科 皮膚科学分野 講師）：水疱性類天疱瘡：最近の知見 第6回関西皮膚自己免疫疾患談話会 大阪（2014.06.27）
44. 松本健治（国立成育医療研究センター研究所）：食物の経皮感作と制御の分子機構 第13回皮膚科EBMフォーラム 東京（2014.07.12）
45. 根本 治（札幌皮膚科クリニック 院長）：乾癬治療の将来 外来療法の位置づけ 2014 乾癬学術フォーラム in 大阪 大阪（2014.07.19）
46. 高森建二（順天堂大学 大学院医学研究科 皮膚科学 特任教授）：内科疾患における皮膚搔痒 皮膚科学学術講演会 大阪（2014.07.24）
47. 中野 創（弘前大学大学院 医学研究科 皮膚科学講座 准教授）：長島型掌蹠角化症の遺伝子診断 第1回 汗と皮膚疾患の研究会 東京（2014.08.02）
48. 大嶋雄一郎（愛知医科大学 皮膚科学講座 講師）：重症原発性腋窩多汗症に対するA型ボツリヌス毒素（BTX-A）局注療法の有効性および患者治療満足度の検討 第1回 汗と皮膚疾患の研究会 東京（2014.08.02）
49. 戸倉新樹（浜松医科大学皮膚科学講座 教授）：減汗性コリン性蕁麻疹と idiopathic pure sudomotor failure（IPSF） 第1回 汗と皮膚疾患の研究会 東京（2014.08.02）
50. 飯塚 一（札幌乾癬研究所 所長）：新生児期から生後1年間にかけての乳幼児の各層機能の経時的変動：大腿部と臀部の解析 第1回 汗と皮膚疾患の研究会 東京（2014.08.02）
51. 谷口裕子（国家公務員共済組合連合会 九段坂病院 皮膚科部長）：疥癬治療薬スミスリンローションの展望～ペルメトリンクリームの使用成績から考える～ 学術講演会 大阪（2014.08.21）
52. 石井則久（国立感染症研究所ハンセン病研究センター センター長）：新たな疥癬診療の夜明け 学術講演会 大阪（2014.08.21）
53. 上野真紀子¹，西村栄美²，横関博雄¹（東京医科歯科大学大学院 皮膚科学分野¹ 東京医科歯科大学難治疾患研究所 幹細胞医学分野²）：毛周期における色素幹細胞の放射線感受性の変化 第6回センターリサーチセミナー 大阪（2014.08.23）

54. 大橋威信, 山本俊幸 (福島県立医科大学 皮膚科学講座): プレオマイシン誘導性強皮症モデルマウスにおける LPA 阻害薬の効果についての検討について～第2報～ 第6回センターリサーチセミナー 大阪 (2014.08.23)
55. 大湖健太郎, 中島喜美子, 佐野栄紀 (高知大学医学部 皮膚科学講座): IL-36 シグナルを介した表皮細胞-樹状細胞間 クロストークによる乾癬発症機序の解明 第6回センターリサーチセミナー 大阪 (2014.08.23)
56. 宮下和也, 浅田秀夫 (奈良県立医科大学 皮膚科学教室): 薬剤性過敏症症候群における腎障害発症機序の研究 第6回センターリサーチセミナー 大阪 (2014.08.23)
57. 西岡めぐみ, 片山一朗 (大阪大学大学院医学系研究科 皮膚科学): ロドデノール誘発性脱色素斑における T 細胞の解析 第6回センターリサーチセミナー 大阪 (2014.08.23)
58. 山本俊幸 (福島県立医科大学 皮膚科学講座 教授): 創傷治癒遅延モデルの作成と, 臨床応用に向けた試み 第6回センターリサーチセミナー 大阪 (2014.08.23)
59. 山岡俊文 (大阪大学大学院医学系研究科 皮膚科学 助教): 血中 IL-6 の上昇を伴った IgA 血管炎を合併した SAPHO 症候群の1例 第8回関西皮膚科 Biologics 研究会 大阪 (2014.09.11)
60. 山崎文和 (関西医科大学 皮膚科 講師): Infliximab 使用中に関節症性乾癬様皮疹を来したが, 継続使用が可能であったクローン病の1例 第8回関西皮膚科 Biologics 研究会 大阪 (2014.09.11)
61. 五十嵐敦之 (NTT 関東病院 皮膚科 部長): 乾癬・アトピー性皮膚炎の最近の話題 アドヒアランスを高めるための皮膚アレルギー治療 UP TO DATE 大阪 (2014.09.13)
62. Philip Mease (Director, Rheumatology Research, Swedish Medical Center Clinical Professor, University of Washington School of Medicine, Seattle, USA): The Future of PsA is in Our Hands NOW 第29回日本乾癬学会学術大会 イブニングセミナー1 高知 (2014.09.19)
63. 川合眞一 (東邦大学医学部医学科内科学講座 膠原病学分野 教授): ステロイドの使い方～その歴史から最近の話題まで～ 第9回大阪免疫・皮膚アンチエイジング研究会 大阪 (2014.10.02)
64. 戸倉新樹 (浜松医科大学 皮膚科学 教授): 乾癬治療におけるビタミン D₃ とステロイド配合剤を考える 学術講演会 大阪 (2014.10.11)
65. 福富友馬 (国立病院機構相模原病院臨床研究センター 診断・治療薬開発研究室長): 花粉アレルギーと口腔アレルギー症候群 第8回 関西 P&D アトピー性皮膚炎治療ファースラム 大阪 (2014.10.16)
66. Uta D^{1,2}, Andoh T¹, Kurashi Y¹, Imoto K^{2,3}, Furue H^{2,3} (¹Department of Applied Pharmacology, Graduate School of Medicine and Pharmaceutical Sciences, University of Toyama, ²Department of Information Physiology, National Institute for Physiological Sciences, ³Department of Physiological Sciences, The Graduate University for Advanced Studies): In vivo spinal excitatory synaptic responses and scratching behaviors evoked by cutaneous 5-HT application. 24th International Symposium of Itch Tokyo (2014.10.18)
67. Kido-Nakahara M^{1,2,3}, Buddenkotte J^{1,2}, Kempkes C^{1,4}, Ikoma A⁴, Cevikbas F⁴, Akiyama T⁵, Nunes F⁶, Seeliger S⁷, Hasdemir B⁸, Mess C², Buhl T^{1,4,9}, Sulk M^{1,4}, Müller Frannk-Ulrich⁶, Metze D², Bunnett Nigle W.¹⁰, Bhargava A⁸, Castens E⁴, Furue M³, Steinhoff M^{1,4} (¹Department of Dermatology and Charles Institute for Translational Dermatology, University College, Dublin, Ireland, ²Department of Dermatology, University Hospital Münster, Münster, Germany, ³Department of Dermatology, Graduate School of Medical Sciences, Kyushu University,

Fukuoka, Japan, ⁴ Department of Dermatology, UCSF, San Francisco, California, USA, ⁵ Department of Neuroscience, UC Davis, USA, ⁶ Institutes of Pharmacology and Toxicology, University of Münster, Münster, Germany, ⁷ Department of Pediatrics III, University of Göttingen, Göttingen Germany, ⁸ Department of Surgery, UCSF, San Francisco, California, USA, ⁹ Department of Dermatology, University of Göttingen, Göttingen Germany, ¹⁰ Department of Pharmacology and Medicine, Monash University, Victoria, Australia.): Neural Peptidase Endothelin-converting Enzyme-1 regulates Endothelin-1-induced Pruritus 24th International Symposium of Itch Tokyo (2014.10.18)

68. 本田まりこ（まりこの皮膚科 院長 / 東京慈恵会医科大学 皮膚科 客員教授）：帯状疱疹治療を考える～腎機能障害と PHN 第 65 回日本皮膚科学会中部支部学術大会ランチョンセミナー 大阪 (2014.10.26)
69. 渡辺大輔（愛知医科大学 医学部 皮膚科学講座 教授）：PHN の治療について考える～抗ウイルス薬、鎮痛補助薬による早期治療介入の意義 第 65 回日本皮膚科学会中部支部学術大会ランチョンセミナー 大阪 (2014.10.26)
70. 楊 伶俐（大阪大学大学院医学系研究科 皮膚科学 特任研究員）：潰瘍を伴う網状皮斑の病態：温度と末梢循環障害 第 11 回 中之島フットケアフォーラム 大阪 (2014.10.30)
71. 奥山隆平（信州大学 医学部 皮膚科学教室 教授）：日々の乾癬診療の実際と新しい展開 北摂乾癬研究会 大阪 (2014.10.30)
72. 中村元信（産業医科大学医学部皮膚科学教室 教授）：さまざまな脱毛症—アトピー性皮膚炎との合併例も含め— Hot Topics in Dermatology 大阪 (2014.11.06)
73. 高森健二（順天堂大学医学部附属浦安病院 皮膚科 特任教授）：アトピー性皮膚炎のかゆみを制御する Mechanisms and management of itch in atopic dermatitis 第 44 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 ランチョンセミナー5 仙台 (2014.11.23)
74. Naotomo Kambe (Associate Professor, Department of Dermatology, Chiba University Graduate School of Medicine): Exacerbating factors beyond filaggrin The39th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology Morning Seminar1 Osaka (2014.12.13)
75. Kiyoshi Nishioka (Professor emeritus, Tokyo Medical and Dental University): Historical background of Atopic dermatitis The39th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology Morning Seminar1 Osaka (2014.12.13)
76. 谷 守（大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座皮膚科学 助教）：乾癬患者に対するネオオーラル治療中の腫瘍発生に関する留意 学術講演会 大阪 (2014.12.18)
77. 東山眞里（公益財団法人日本生命済生会付属日生病院 皮膚科 部長）：乾癬におけるネオオーラル療法による B 型肝炎の再活性化—投与前スクリーニングと治療 学術講演会 大阪 (2014.12.18)
78. 藤原作平（大分大学医学部皮膚科学教室 教授）：私の経験した水疱症 第 21 回ギンナン皮膚科談話会 大阪 (2014.12.20)

[室田浩之]

79. 口演 24「アトピー性皮膚炎 病態と治療」 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会 京都 (2015.05.10)

2014年 学会発表

〔国際学会〕（アルファベット順）

1. Jin H, Arase N, Hirayasu K, Kohyama M, Suenaga T, Saito F, Tanimura K, Matsuoka S, Ebina K, Shi K, Yasuda S, Horita T, Hiwa R, Takasugi K, Ohmura K, Yoshikawa H, Saito T, Atsumi T, Sasazuki T, Katayama I, Lanier L. L, Arase H: Autoantibodies in Rheumatoid Arthritis Specifically Recognize IgG Heavy Chain Complexed with HLA-DR, Which is Strongly Associated with Rheumatoid Arthritis Susceptibility. The 15th Annual European Congress of Rheumatology EULAR 2014, Paris, France (2014.06.11-14)
2. Azukizawa H, Kato K, Katayama I: Analysis of B cell subsets in severe cutaneous adverse reaction. 6th Drug Hypersensitivity Meeting 2014, Bern, Switzerland (2014.04.09-12)
3. Murota H, Tahara M, Katayama I: The impact of psychological stress on adolescent case with atopic dermatitis: questionnaire-based retrospective assessment. 8th George Rajka Symposium on Atopic Dermatitis, Nottingham, UK (2014.05.21-24)
4. Nishioka M, Tanemura A, Tanaka A, Arase N, Teshima K, Nishikawa H, Katayama I, Sakaguchi S: Analysis of Regulatory T Cells Fraction and CCR4-Expressing T Cells and Their Potential Function in Patients with Rhododendrol-Induced Leukoderma International Pigment Cell Conference 2014, Singapore (2014.09.04-07)
5. Ono E, Murota H, Katayama I: Quantitative assessment of sweat in atopic dermatitis: a pilot study. 8th George Rajka International Symposium on Atopic Dermatitis, Nottingham, UK (2014.05.21-23)
6. Tagami (Nagata) N, Serada S, Fujimoto M, Tanemura A, Katayama I, Naka T: Suppressor of cytokine signaling (SOCS)-1 suppresses a proliferation of malignant melanoma cells via the suppression of JAK/STAT and the activation of p53 signaling pathways. The 105th American Association for Cancer Research San Diego, California USA (2014.04.05-09)
7. Tagami (Nagata) N, Serada S, Fujimoto M, Tanemura A, Katayama I, Naka T: Suppressor of cytokine signaling (SOCS)-1 suppresses a proliferation of malignant melanoma cells via the suppression of JAK/STAT and the activation of p53 signaling pathways. The 11th Meeting of the German-Japan Society of Dermatology, Heidelberg (2014.06.11-14)
8. Tanaka A, Hayaishi N, Kondo Y, Kurachi K, Kawaguchi A, Fukunaga M, Tanemura A, Katayama I: Foot gangrene in a patient with immunotactoid glomerulopathy. German-Japanese Society of Dermatology (GJSD), Heidelberg, Germany (2014.06.11-14)
9. Tani M, Yamamoto E, Hirohata A, Hayashi M, Yamaoka T, Kiyohara E, Katayama I: A case of aggressive folliculotropic mycosis Fungoides that was successfully treated with low dose gemcitabine. EADC2014, Jeju, Korea. (2014.09.24-26)
10. Tanemura A, Yang L, Wataya-Kaneda M, Fukai K, Tsuruta D, Katayama I: Immune Pathological and Ultrastructural Alteration in Patients with Rhododendrol Induced-Leukoderma Comparing to Nonsegmental Vitiligo Vulgaris. 11th Meeting of the German-Japanese Society of Dermatology, Heidelberg, Germany (2014.06.11-14)
11. Tanemura A: Recent Advance in Phototherapy of Vitiligo in Japanese Patients. 3rd Eastern Asia Dermatology Congress, JEJU, Korea. (2014.09.24-26)

12. Tanemura A, Tanaka A, Komurasaki Y, Tani M, Wataya-Kaneda M, Katayama I: Introduction of Two Malignant Melanoma Cases Representing Irregular Pigmentation on the Anal Mucosa and Discussion of Surgical Management for Anal Malignancies. 3rd Eastern Asia Dermatology Congress, JEJU, Korea. (2014.09.24-26)
13. Terao M, Itoi S, Murota H, Katayama I: Activation of local cortisol by 11 β -HSD1 in keratinocytes is important in suppressing local inflammation. International Symposium on Atopic Dermatitis/ 8th Georg Rajka Symposium, Nottingham, UK (2014.05.21-23)
14. Yamaga K, Murota H, Kaneko S, Katayama I: Validity assessment of measures for sweating in patients with atopic dermatitis: in point of both promoting sweat-producing activities and rinsing sweat off. 8th Georg Rajka International Symposium on Atopic Dermatitis. East Midlands Conference Centre, University Park, Nottingham, UK. (2014.05.21-23)
15. Yamaoka T, Nagata Y, Tanemura A, Ono E, Tanaka A, Kato K, Yamada M, Katayama I: Color assessment of progressive nonsegmental vitiligo under short-term intravenous methylprednisolone pulse therapy. XXII International Pigment Cell Conference, Singapore (2014.09.04-07)
16. Yang F, Yang L, Tanaka M, Wataya-Kaneda M, Nakamura A, Matsumoto S, Murota H, attia M, Katayama I: Topical application of rapamycin ointment ameliorates Dermatophagoides farina body extract-induced atopic dermatitis in NC/Nga mice. 2014 AAAAI (American Academy of Allergy, Asthma & Immunology), San Diego, CA, USA (2014.02.28-03.04)
17. Yang L, Wataya-Kaneda M, Yang F, Tanemura A, Arase N, Katayama I: 4-(4-hydroxyphenyl)-2-butanol (rhododendrol) activates autophagy-lysosome pathway in melanocytes: a potential mechanism for skin depigmentation disorder. IPCC 2014, XXII International Pigment Cell Conference. Singapore (2014.09.04-07)
18. Yang L, Yang F, Murota H, Katayama I: Periostin-induced downregulation of decorin expression might be involved in skin sclerosis in a mouse model of scleroderma. EADC 2014, 3rd Eastern Asia Dermatology Congress. Jeju, Korea (2014.09.24-26)

[国内学会・研究会] (五十音順)

1. Hirayasu K, Saito F, Nagai H, Shida K, Arase N, Horiguchi Y, Nakamaru Y, Katayama I, Arase H: Immune sensing system for bacterially degraded immunoglobulin via activating receptor DIR. 第13回あわじしま感染症・免疫フォーラム 奈良 (2014.09.23-24)
2. Jin H, Arase N, Matsuoka S, Hirayasu K, Kohayama M, Suenaga T, Nakamaru Y, Iwatani Y, Katayama I, Arase H: MHC class II-restricted recognition of self-antigen/MHC class II complexes by autoantibodies. 第43回日本免疫学会学術集会 京都 (2014.12.10-12)
3. Hiwa R, Ohmura K, Arase N, Jin H, Hirayasu K, Kohayama M, Suenaga T, Matsuoka S, Iwatani H, Atsumi T, Terao C, Mimori T, Arase H: Myeloperoxidase/HLA class II complexes are targets for autoantibodies in microscopic polyangiitis. 第43回日本免疫学会学術集会 京都 (2014.12.10-12)
4. Arase N, Tanemura A, You R, Nishioka M, Jin H, Arase H, Katayama I: Inhibition of melanogenesis by HLA class II molecules. 日本研究皮膚科学会 第39回年次学術大会・総会 大阪 (2014.12.12-14)
5. Itoi S, Terao M, Murota H, Katayama I: The role of 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase 1 in skin inflammation. 日本研究皮膚科学会 第39回年次学術大会・総会 (JSID) 大阪 (2014.12.12-14)
6. Kato K, Azukizawa H, Hanafusa T, Katayama I: In vitro screening of drug-reactive T-cells in mice. 日本研究皮

膚科学会 第 39 回年次学術大会・総会 (JSID) 大阪 (2014.12.12-14)

7. Murota H: Exploring the mechanism of warmth-provoked itch: Artemin causes systemic hypersensitivity to heat via sensitizing the brain. Japan Asia Oceania Forum. The 39th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Osaka (2014.12.14)
8. Murota H: Seminar ;Sweat the unsung hero of healthy skin: an emerging perspective on functional biology and regulatory mechanisms. 39th Annual meeting of Japanese Society of Investigative Dermatology, Osaka (2014.12.11-14)
9. Nishioka M, Tanemura A, Tanaka A, Arase N, Nishikawa H, Katayama I, Sakaguchi S: Analysis of CCR4-Expressing T Cells in Patients with Rhododendrol-Induced Leukoderma. 日本研究皮膚科学会 第 39 回年次学術大会・総会 大阪 (2014.12.12-14)
10. Ono E, Matsumura S, Matsui S, Kitaba S, Murota H, Katayama I: Comprehensive study of oral allergy syndrome: Link between patient clinical course and outcome from ISAC analysis. 日本研究皮膚科学会第 39 回年次学術大会・総会 大阪 (2014.12.12-14)
11. Tagami(Nagata) N, Serada S, Fujimoto M, Tanemura A, Katayama I, Naka T: Suppressor of cytokine signaling-1 (SOCS-1) induces significant preclinical anti-tumor effect in malignant melanoma cells. 日本研究皮膚科学会第 39 回年次学術大会・総会 大阪 (2014.12.12-14)
12. Terao M, Itoi S, Kitaba S, Murota H, Katayama I: Local cortisol activation by 11b-hydroxysteroid dehydrogenase 1 in keratinocytes down regulates skin inflammation. The 39th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Osaka (2014.12.12-13)
13. Matsumura S, Terao M, Murota H, Katayama I: Th2 cytokines enhance TrkA expression and upregulate proliferation and downregulate differentiation of keratinocytes. The 39th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Osaka (2014.12.12-13)
14. Yutani M, Terao M, Kato A, Murota H, Miyoshi E, Katayama I: Oligosaccharide modification by GnT-V augments oxazolone-induced atopic dermatitis-like symptoms. The 39th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Osaka (2014.12.12-13)
15. Tokumasu R, Yamaga K, Yamazaki Y, Murota H, Suzuki K, Tamura A, Kiyonari H, Katayama I, Tsukita S: Dose-dependent role of claudin-1 in epidermal differentiation and inflammation. 日本研究皮膚科学会 第 39 回年次学術大会・総会 大阪 (2014.12.12-14)
16. Yang F, Wataya-Kaneda M, Tanaka M, Yang L, Katayama I: Topical rapamycin treatment is effective in hypopigmented macules of tuberous sclerosis. 日本研究皮膚科学会 第 39 回年次学術大会・総会 大阪 (2014.12.12-14)
17. Yang L, Murota H, Katayama I: Histamine contributes to skin tissue remodeling via periostin expression. JDA 2014, The 113th Annual Meeting of the Japanese Dermatological Association Kyoto (2014.05.31-06.01)
18. Yang L, Wataya-Kaneda M, Yang F, Tsuruta D, Tanemura A, Katayama I: Rhododendrol activates autophagy-lysosome pathway in melanocytes: a potential mechanism for skin depigmentation disorder. JSID 2014, the 39th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology Osaka (2014.12.12-14)

1. 荒瀬規子：ミスフォールド蛋白質-MHC Class II 複合体と自己免疫疾患. 第2回 ケラチノサイトと免疫を勉強する会 東京 (2014.03.29)
2. 荒瀬規子, 種村 篤, 金 暉, 揚 伶俐, 竹岡啓子, 西田 誠, 瀧原圭子, 日高 洋, 岩谷良則, 荒瀬尚, 片山一朗：後天性白斑患者における自己抗体出現パターンの検討. 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
3. 金 暉, 荒瀬規子, 平安恒幸, 香山雅子, 末永忠広, 松岡須美子, 斉藤 隆, Lewis L. Lanier, 荒瀬 尚：MHC クラスII 分子によって細胞外へ輸送された細胞内ミスフォールド蛋白質が自己抗体の標的分子である. 第24回 Kyoto T cell Conference 京都 (2014.05.16-17)
4. 荒瀬規子, 村上有香子, 高橋 彩, 松井佐起, 越智沙織, 山岡俊文, 遠山知子, 田中 文, 片山一朗：一般病院における手湿疹患者の労働生産性, 生活の質, 医療費に関する検討. 第44回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 仙台 (2014.11.21-23)
5. 宇都宮綾乃, 清原英司, 山岡俊文, 室田浩之, 片山一朗：ヘパリン類似物質含有クリームが奏功した難治性痒疹の3例. 第445回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.10.04)
6. 越智沙織, 寺尾美香, 室田浩之, 片山一朗：皮膚炎症における細胞内コルチゾール再活性化酵素(11 β -HSD1)の検討. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会 京都 (2014.05.09-12)
7. 越智沙織, 寺尾美香, 室田浩之, 片山一朗：皮膚炎症における表皮細胞内コルチゾール再活性化酵素(11 β -HSD1)の動態解析. 北海道地方会 北海道 (2014.06.07-08)
8. 小野慧美, 山岡俊文, 片山一朗, 惣田哲次, 高山仁志：強皮症経過中に発症し, 経尿道的電気凝固術(TUC)を要した出血性膀胱炎の1例. 第37回皮膚脈管・膠原病研究会 東京 (2014.01.24)
9. 小野慧美, 室田浩之, 山岡俊文, 片山一朗：アトピー性皮膚炎患者の汗の性質評価. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会 京都 (2014.05.09-11)
10. 小野慧美, 室田浩之, 片山一朗：アトピー性皮膚炎患者における汗の性質評価. 第1回汗と皮膚疾患の研究会 (2014.08.02)
11. 小野慧美, 室田浩之, 山岡俊文, 片山一朗：アトピー性皮膚炎患者の汗の性質評価. 第22回日本発汗学会総会 (2014.09.17-18)
12. 小野慧美, 松村智加, 松井佐起, 北場 俊, 室田浩之, 片山一朗：口腔アレルギー症候群の11例：ImmunoCAP ISAC を用いたアレルゲンコンポーネントの網羅的解析. 第44回日本皮膚アレルギー・接触性皮膚炎学会総会学術大会 仙台 (2014.11.21-23)
13. 野老翔雲¹, 井川 健¹, 戸倉新樹², 宮地良樹³, 片山一朗⁴, 佐藤貴浩⁵, 横関博雄¹ (東京医科歯科大学病院皮膚科¹, 浜松医科大学皮膚科², 京都大学医学部皮膚科³, 大阪大学医学部皮膚科⁴, 防衛医科大学皮膚科⁵)：アトピー性皮膚炎の病型と難治性皮膚病変の関連に関する疫学調査. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会 京都 (2014.05.09-11)
14. 金田眞理：ファブリー病の皮膚症状. ファブリー病患者会 大阪 (2014.04.20)
15. 金田眞理：結節性硬化症 up date. 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
16. 清原英司, 谷 守, 小紫雄貴, 廣畑彩希, 橋本典子, 吉岡華子, 山岡俊文, 片山一朗：炎症性皮膚疾患

- を治療中に発症した毛包向性菌状息肉症の3例. 第30回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 東京 (2014.07.04-05)
17. 清原英司, 小豆澤宏明, 片山一朗: 手掌に繰り返す紅斑と水疱を引き起こしたアセトアミノフェンによる固定薬疹. 第44回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 仙台 (2014.11.21-23)
 18. 小紫雄貴, 橋本典子, 林 美沙, 吉岡華子, 山岡俊文, 小豆澤宏明, 片山一朗: IgE型抗BP180抗体を認めミゾリビンが奏功した難治性水疱性類天疱瘡の1例. 第30回日本臨床皮膚医会総会・臨床学術大会 横浜 (2014.04.26-27)
 19. 小紫雄貴, 種村 篤, 吉岡華子, 田中 文, 谷 守, 片山一朗: 肛門病変を契機に診断した直腸肛門部悪性黒色腫の2例. 第30回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 東京 (2014.07.04-05)
 20. 角村由紀子, 金田眞理, 片山一朗: 伊藤白斑と脱色素性母斑の症例検討. 第65回日本皮膚科学会中部支部学術大会 大阪 (2014.10.25-26)
 21. 田中 文, 出口彩香, 種村 篤, 片山一朗: Bowen病に生じたMicrocystic adnexal carcinoma? 第13回なにわ皮膚症勉強会 大阪 (2014.10.10)
 22. 田中まり, 金田眞理, 阿部優子, 穂積 豊, 鈴木民夫, 片山一朗: Hermansky-Pudlak症候群の1例. 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
 23. 種村 篤, 他: 進行性悪性黒色腫に対するヒトセンダイウイルスベクター (HVJ-E) を用いた医師主導治験. 第441回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.02.15)
 24. 種村 篤: 皮膚悪性腫瘍の臨床と研究の経験. プロでっせ 山形 (2014.05.16)
 25. 種村 篤: 最近の免疫療法の進歩. 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
 26. 種村 篤: 尋常性白斑との鑑別点・鑑別方法. 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
 27. 種村 篤, 他: 進行性悪性黒色腫患者に対するヒトセンダイウイルスベクター (HVJ-E) を用いた医師主導治験. 第30回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 東京 (2014.07.05-06)
 28. 種村 篤: 白斑とサイトカイン. 第44回皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会・学術大会 仙台 (2014.11.21-23)
 29. 田原真由子, 木嶋晶子, 室田浩之, 瀧原圭子, 片山一朗: 思春期のアトピー性皮膚炎悪化因子としてのストレスに関する実態調査. 第26回日本アレルギー学会春季臨床大会 京都 (2014.05.09-11)
 30. 西岡めぐみ, 種村 篤, 片山一朗: ロドデノール誘発性脱色素斑におけるHLA及びT細胞性免疫応答の検討. 第3回 Crosstalk OSAKA 大阪 (2014.03.22)
 31. 橋本典子, 吉岡華子, 田中 文, 山岡俊文, 種村 篤, 小豆澤宏明, 片山一朗, 崎元和子: 生物学的製剤投与中に発症した壊死性筋膜炎の一例. 第37回皮膚脈管・膠原病研究会 東京 (2014.01.24)
 32. 橋本典子, 山岡俊文, 片山一朗, 金倉 譲, 山本佳史, 木島貴志: サルコイドーシス・MALTリンパ腫を併った抗セントロメア抗体陽性シェーグレン症候群の一例. 第442回日本皮膚科学会大阪地方会大阪 (2014.03.29)

33. 林 美沙, 橋本典子, 山岡俊文, 種村 篤, 室田 浩, 片山一朗: 著明な筋酵素上昇を認めた全身性強皮症の一例. 第 208 回大阪症例検討会 大阪 (2014.03.27)
34. 林 美沙, 越智沙織, 山岡俊文, 寺尾美香, 谷 守, 片山一朗: 尋常性乾癬患者における爪乾癬と手指関節炎に対する超音波検査の有用性の検討. 第 113 回日本皮膚科学会学術総会 京都 (2014.05.30-06.01)
35. 林 美沙: 当院での関節症性乾癬に対する超音波検査. 乾癬治療病診連携の会 大阪 (2014.08.28)
36. 林 美沙, 越智沙織, 山岡俊文, 寺尾美香, 谷 守, 片山一朗: 爪乾癬を有する乾癬患者における超音波検査の有用性の検討. 第 29 回日本乾癬学会学術大会 高知 (2014.09.19-20)
37. 林 美沙, 宇都宮綾乃, 山岡俊文, 谷 守, 山本浩一, 木枕 舞, 今村亮一, 猪阪義隆, 片山一朗: シクロスポリン投与中に腎障害が出現し腎盂腫瘍が指摘された紅皮症性乾癬の 1 例. 第 66 回日本皮膚科学会西部支部学術大会 香川 (2014.11.08-09)
38. 廣畑彩希, 山岡俊文, 金井千恵, 種村 篤, 谷 守, 片山一朗 (大阪大学皮膚科), 大塚正恭 (市立池田病院血液内科): 経過中にびまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫を発症した抗 TIF1 抗体陽性の皮膚筋炎の 1 例. 第 37 回皮膚脈管・膠原病研究会 東京 (2014.01.24-25)
39. 廣畑彩希, 田中 文, 山岡俊文, 種村 篤, 片山一朗 (大阪大), 樋上 敦 (兵庫県立塚口): 両肺に結節性病変を合併しステロイド内服が奏功した慢性膿皮症の 1 例. 第 441 回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.02.15)
40. 室田浩之: 発汗と温熱感覚の基礎研究から考えるアトピー性皮膚炎悪化因子対策. 第 77 回日本皮膚科学会東京支部学術大会 東京 (2014.02.15-02.16)
41. 室田浩之: 皮膚科からみた生活指導. PAD フォーラム 大阪 (2014.03.21)
42. 金子 栄¹, 森田栄伸¹, 室田浩之², 片山一朗² (島根大学医学部皮膚科¹ 大阪大学医学部皮膚科²): アトピー性皮膚炎における増悪因子としての汗と汗アレルギー. 第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会 京都 (2014.05.09-11)
43. 山岡俊文, 林 美沙, 越智沙織, 寺尾美香, 谷 守, 片山一朗: アバタセプトにより誘発された乾癬様皮疹の 1 例. 第 29 回日本乾癬学会学術大会 高知 (2014.09.19-20)
44. 山賀康右, 花房崇明, 小豆澤宏明, 片山一朗, 小林真紀, 橋本直哉: ベバシズマブにより誘発された Perforating dermatosis の 1 例 ~微小血管障害との関連について~. 第 44 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 仙台 (2014.11.21-23)
45. 山本 笑, 廣畑彩希, 林 美沙, 谷 守, 片山一朗, 中東恭子: 進行性毛包向性菌状息肉症に低用量ゲムシタビン (GEM) が著効した一例. 第 443 回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.05.24)
46. 山本 笑, 角村由紀子, 清原英司, 山岡俊文, 室田浩之, 片山一朗: UVA 急速減感作療法を施行した日光蕁麻疹: 治療中の血漿ヒスタミン濃度の経時的変化を測定した一例. 第 66 回日本皮膚科学会西部支部学術大会 香川 (2014.11.07-08)
47. 山本 笑, 田中 文, 清原英司, 室田浩之, 金田眞理, 片山一朗: ベーチェット病を契機に出現した巨大多発粉瘤. 第 446 回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.12.06)

48. 楊 飛, 楊 伶俐, 金田真理, 片山一郎: 結節性硬化症における白斑のメカニズムーオートファジーとの関連ー. 第1回関西若手皮膚科医の集い 大阪 (2014.11.01)
49. 楊 飛, 田中まり, 楊 伶俐, 金田真理, 室田浩之, 片山一郎: アトピー性皮膚炎マウスモデルにおけるラパマイシン軟膏の効果の検討. OA会 大阪 (2014.11.15)
50. 楊 伶俐, 室田浩之: 潰瘍を伴う網状皮斑の病態: 温度と末梢循環障害. 第11回中之島フットケアフォーラム 大阪 (2014.10.30)

2014年 報告書

[研究報告書] (五十音順)

1. 片山一朗：アレルギー疾患のダイナミックな変化とその背景因子の横断的解析による医療経済の改善効果に関する調査研究 平成 25 年度厚労科研 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 総括・分担研究報告書 2-11 2014
2. 片山一朗：アレルギー疾患のダイナミックな変化とその背景因子の横断的解析による医療経済の改善効果に関する調査研究 平成 23-25 年度厚労科研 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 総合研究報告書 1-26, 70-84, 126-34, 166-75 2014
3. 片山一朗：癌特異的アポトーシスを誘導する革新的分子標的薬による難治性皮膚癌に対する治療薬の医師主導臨床試験による実用化開発による研究 平成 25 年度 厚生労働科学研究費補助金 難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業 総括・分担研究報告書 7-35 2014
4. 片山一朗, 室田浩之：アトピー性皮膚炎の難治性皮膚病変の病態解析と病態に基づいたピンポイントな新規治療の開発 アトピー性皮膚炎の難治性皮膚病変の病態解析と病態に基づいたピンポイントな新規治療の開発 平成 25 年度 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等克服研究事業（免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業）総括・分担研究報告書 23-6 2014
5. 片山一朗, 室田浩之, 北場 俊, 松井佐起, 小野慧美：口腔アレルギー症候群（花粉－食物アレルギー症候群の診断における各種検査法の有用性に関する検討 平成 25 年度 厚生労働科学研究補助金 難治性疾患等克服研究事業（免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業免疫アレルギー研究分野）研究報告書 第 2 分冊 278-80 2014
6. 片山一朗, 室田浩之：アトピー性皮膚炎の難治性皮膚病変の病態解析と病態に基づいたピンポイントな新規治療の開発 平成 25 年度 厚生労働科学研究補助金 難治性疾患等克服研究事業（免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業免疫アレルギー研究分野）研究報告書 第 2 分冊 373-6 2014
7. 金田真理：結節性硬化症の皮膚病変に対する有効で安全性の高い治療薬の開発と実用化 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 結節性硬化症の皮膚病変に対する有効で安全性の高い治療薬の開発と実用化 平成 25 年度 総括研究報告書 7-16 2014
8. 片山一朗, 金田真理：（色素異常班）結節性硬化症の白斑 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究 平成 25 年度 総括・分担研究報告書 105-12 2014
9. 片山一朗, 金田真理：（色素異常班）結節性硬化症の白斑 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究 平成 24-25 年度 総合研究報告書 142-9 2014
10. 種村 篤：（色素異常班）進行性尋常性白斑に対するステロイドミニパルス療法の治療効果 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究 平成 25 年度 総括・分担研究報告書 90-1 2014
11. 種村 篤：（色素異常班）1) 尋常性白斑病変における細胞浸潤パターンの検討および樹状細胞活性化機序の解明 2) 進行性尋常性白斑に対するステロイドミニパルス療法の治療効果 難治性疾患克服研究

事業 特発性発汗異常症・色素異常症の病態解析と新規治療薬開発に向けた戦略的研究 平成 24-25 年度 総合研究報告書 120-3 2014

12. 種村 篤：癌特異的アポトーシスを誘導する革新的分子標的薬による難治性皮膚癌に対する治療薬の医師主導臨床治験による実用化開発 平成 25 年度厚生労働省科学研究費補助金 難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業 総括・分担研究報告書 39-40 2014
13. 室田浩之：アレルギー疾患のダイナミックな変化とその背景因子の横断的解析による医療経済の改善効果に関する調査研究 平成 25 年度厚労科研 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 総括・分担研究報告書 14-21 2014
14. 室田浩之：アレルギー疾患のダイナミックな変化とその背景因子の横断的解析による医療経済の改善効果に関する調査研究 平成 25 年度厚労科研 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 平成 23-25 年度厚労科研 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業 総合研究報告書 28-37, 86-91, 136-139, 178-184 2014

2014年 受賞

[受賞] (五十音順)

1. 荒瀬規子, 村上有香子, 高橋彩, 松井佐起, 越智沙織, 山岡俊文, 遠山知子, 田中 文, 片山一郎: 一般病院における手湿疹患者の労働生産性, 生活の質, 医療費に関する検討 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 JEDCA 最優秀論文賞 研究部門 (2014.11.22)
2. 小豆澤宏明: 大阪大学 総長奨励賞 (2014.07.08)
3. 糸井沙織: 皮膚炎症・皮膚老化における細胞内コルチゾール再活性化酵素 (11β -HSD1) の役割の検討. 加齢皮膚医学研究会. 「加齢皮膚医学研究基金: ロート賞」 (2014.09.06)
4. 金田眞理: 大阪大学総長顕彰 (2014.07.08)
5. 寺尾美香: 皮膚ストレス応答時の局所コルチゾール産生の意義 2014 年 LYDIA O'LEARY MEMORIAL FOUNDATION (2014.04.15)

2014年 その他

[その他]

1. 片山一朗：座長；Discussion 第2回小児アトピー性皮膚炎フォーラム 大阪 (2014.03.21)
2. 片山一朗：コメンテーター 第3回 Crosstalk Osaka：2014 大阪 (2014.03.22)
3. 片山一朗：世話人 第27回皮膚科糖尿病循環障害研究会 (2014.04.03)
4. 片山一朗：代表世話役人 第12回関西皮膚疾患談話会 (2014.04.05)
5. 片山一朗：当番世話人：第6回関西皮膚自己免疫疾患談話会 (2014.06.27)
6. 片山一朗：ディスカッション 司会 テーマ「乾癬治療における病診連携について」 乾癬治療病診連携の会 大阪 (2014.08.28)
7. 片山一朗：特集＝アレルギー疾患の話題～エビデンスに基づく薬物療法の実際～ アトピー性皮膚炎. MEDICAMENT MEWS 2149;4-5.
8. 片山一朗：24. 表皮特異的セラミド合成酵素ノックアウトマウスは IL-17 産生 $\gamma\delta$ -細胞の増加と乾癬様病変を呈する. 第28回角化症研究会 記録集 2014;121-5.
9. 片山一朗：例会抄録 尋常性白斑 Q & A：新たな病因論と治療法. 神奈川県皮膚科医会会報 2014; 21:62.
10. 片山一朗：鼎談 テーマ：発汗研究の歴史からみえてくるアレルギーの新しい病因論. 皮膚アレルギーフロンティア 2014;12(2):7-14.
11. 片山一朗：特集にあたって 汗とアレルギー 皮膚アレルギーフロンティア 2014;12(2):5.
12. 片山一朗：イブニングセミナー10 Session 1 ビタミン D の多彩な作用と乾癬への有効性 第113回 日本皮膚科学会総会 記録集 2-5.
13. 青木裕美, 伊藤明子, 鈴木加余子, 鈴木民夫, 種村 篤, 錦織千佳子, 伊藤雅章, 片山一朗, 杉浦伸一, 松永佳世子：ロドデノール誘発性脱色素斑症例における一次全国疫学調査結果. 日本皮膚科学会雑誌 124(11):2095-109.
14. 金田眞理：酵素補充療法で軽快しない被角血管腫を有する古典的ファブリー病の1例. ファブリー病症例集 Medical Tribune 2014

教室員紹介 大阪大学大学院医学系研究科 皮膚・毛髪再生医学寄附講座

氏 名
職 名
専 門 医 資 格
省 庁 研 究 費
受 賞 等
学 会 関 係 役 員

板見 智
寄附講座教授
日本皮膚科学会専門医

日本美容皮膚科学会理事，日本臨床毛髪学会顧問，毛髪科学研究
会副代表世話人，表皮細胞研究会世話人，日本研究皮膚科学会評
議員

Experimental Dermatology Editorial Board, F1000Research Editorial
Board



大学，病院の運営委員
医 局 内 委 員
外 来 関 係
受け持ち入院患者
手 術 数
学 生 講 義
業 績

脱毛症外来 1

論 文 査 読

学会発表：海外 0 件 国内 3 件
論文発表：原著：英文 6 件，英文総説 1 件，和文総説 2 件，和文著書 1 件
Plos One 1 件，Journal of Investigative Dermatology 2 件，
Experimental Dermatology 2 件，Journal of Dermatology 2 件
毛の細胞生物学，皮膚幹細胞，皮膚疾患モデルマウス，ステロイドホルモン作用機構
脱毛症外来への年間紹介患者数は年間 300～350 名である。

氏 名
職 名
専 門 医 資 格

乾 重樹
寄附講座准教授
日本皮膚科学会専門医，日本アレルギー学会専門医・指導医，日
本抗加齢医学会専門医，日本褥瘡学会認定師（医師），日本がん
治療認定医機構暫定教育医



省 庁 研 究 費
受 賞 等

乾 重樹，澄川靖之，中島武之，板見 智．毛周期における成長期
誘導因子としてのレプチンの機能とその解析，第 14 回日本抗加
齢医学会総会プレナリー賞，2014/6/6-8，大阪市，大阪府。

Inui S: Trichoscopy for common hair loss diseases: Algorithmic method for diagnosis. J Dermatol
38: 71-75, 2011. JD Award, Most Downloaded Articles in 2013.

学 会 関 係 役 員

日本臨床毛髪学会理事（2008-）日本研究皮膚科学会評議員（2004-）日本皮膚アレルギー・
接触皮膚炎学会評議員（2007-），広報委員（2007-），学術教育委員（2011-），日本美容
皮膚科学会評議員（2009-），日本美容皮膚科学会雑誌 Aesthetic Dermatology 編集委員
（2011-），広告に関する小委員会委員（2011-），日本美容皮膚科学会雑誌利益相反委員
長（2012-），日本褥瘡学会評議員（2010-），日本アレルギー学会代議員（2011/5/15-），
日本抗加齢医学会評議員（2011/5/26-），毛髪科学研究会世話人（2014/11/29-），日本
アレルギー学会専門医制度試験問題作成委員（2013/6/4-）

Editorial-in-Chief, Hair: Therapy & Transplantation（2012-），Editorial-in-Chief, The Open
Allergy Journal（2012-），Senior Editor, Journal of Nanoscience Letters（2014-2015），Senior

大学, 病院の運営委員	Editor, ScienceJet (Nanoscience and Nanotechnology Section) (2015-), Editorial Board, Hair: Therapy & Transplantation (2012-), Editorial Board, The Open Allergy Journal (2008-), Editorial Board, ISRN Dermatology (2010-), Editorial Board, Journal of Cosmetics, Dermatological Sciences and Applications (2011-), Editorial Board, Case Reports in Dermatological Medicine (2011-), Editorial Board, Austin Journal of Dermatology (2014-), Editorial Board, Austin Journal of Nanomedicine & Nanotechnology (2014-), Associated Faculty member of F1000 (Post-publication peer review) (2010-)
医 局 内 委 員	保健医療ネットワーク部委員
外 来 関 係	庶務係
受け持ち入院患者	脱毛症外来, 高度救命センタースキンケア・褥瘡回診
手 術 数	
学 生 講 義	医学部 1, 薬学部 2
業 績	学会発表: 海外 3 件 国内 4 件 論文発表: 英文 7 件 和文 9 件
論 文 査 読	Journal of Dermatology 13 件, Journal of Dermatological Science 5 件, Expert Review of Dermatology 2 件, Exp Dermatol 3 件, J Invest Dermatol 3 件, Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology 1 件, BBRC 2 件, Clin and Exp Dermatol 1 件, Journal of European Academy of Dermatology Venereology 1 件, Acta Dermato-Venereologica 1 件, Int J Mol Med 1 件, J Cosmet Dermatol Sci Appl 5 件, Case Reports in Dermatological Medicine 7 件, ISRN Dermatology 6 件, Saudi Medical Journal 1 件, Clinical, Cosmetic and Investigational Dermatology 2 件, Journal of Biomechanics 1 件, Clinical Interventions in Aging 1 件, MICS PUBLISHING GROUP/ Clinical 2 件, 日本美容皮膚科学会雑誌 3 件
研 究 テ ー マ	毛髪疾患の基礎から臨床のあらゆる面に興味があり, 研究しております.
一 言	お困りの脱毛症症例いつでもご紹介下さい.

氏 名	野口 史人
職 名	寄附講座助教
専 門 医 資 格	皮膚科専門医
省 庁 研 究 費	
受 賞 等	平成 26 年度上原生命科学財団海外留学ポストドクトラルフェローシップ



学会関係役員	
大学, 病院の運営委員	
医 局 内 委 員	
外 来 関 係	脱毛症外来
受け持ち入院患者	
手 術 数	
学 生 講 義	
業 績	学会発表: 海外 0 件 国内 1 件 論文発表: 英文 1 件 和文 0 件
論 文 査 読	Journal of Dermatology 1 件
研 究 テ ー マ	メラノーマ, 創傷治癒
一 言	上原生命科学財団よりフェローシップを頂き, メルボルンのピーターマッカラン癌センターへメラノーマの研究のため留学することになりました. 良い成果が出るように励みたいと思います.

2014年 原著

[英文原著] (アルファベット順)

1. **Inui S**, Hamasaki T, Itami S: Sleep quality in alopecia areata patients: Questionnaire based study. *Int J Dermatol.* 2014;53(1):e39-41.
2. **Inui S** (cofirst author), Sumikawa S, Nakajima T, Itami S: Hair cycle control by leptin as a new anagen inducer. *Exp Dermatol.* 2014;23(1):27-32.
3. **Inui S**, Mori A, Ito M, Hyodo S, Itami S: Reduction of conspicuous facial pores by topical fullerene: Possible role in the suppression of PGE2 production in the skin. *J Nanobiotechnology.* 2014;12(1):6.
4. **Inui S** (cofirst author), Hayashi R, Farooq M, Ito M, Shimomura Y: Expression studies for a novel splice site mutation in the LIPH gene, which was identified in a Japanese patient with autosomal recessive woolly hair. *J Dermatol.* 2014;41(10):890-4.
5. **Inui S**, Itami S, Murakami M, Nishimoto N: Dermoscopy of discoid lupus erythematosus: Report of two cases. *J Dermatol.* 2014;41(8):756-7.
6. Nakamura T, Hamuro J, Takaishi M, Simmons S, Maruyama K, Zaffalon A, Bentley AJ, Kawasaki S, Nagata-Takaoka M, Fullwood NJ, **Itami S**, Sano S, Ishii M, Barrandon Y, Kinoshita S: LRIG1 inhibits STAT3-dependent inflammation to maintain corneal homeostasis. *J Clin Invest.* 2014;124(1):385-97.
7. **Noguchi F**, Nakajima T, Inui S, Reddy JK, Itami S: Alteration of skin wound healing in keratinocyte-specific mediator complex subunit 1 null mice. *PLoS One.* 2014;9(8):e102271.

2014年 総説

[英文総説]

1. **Inui S**, Itami S: A newly discovered linkage between proteoglycans and hair biology: Decorin acts as an anagen inducer. *Exp Dermatol*. 2014;23(8):547-8.

[和文総説]

1. 板見 智：外来診療のワンポイントアドバイスー男性型脱毛症. 診断と治療社 2014;102(8):1243-6.
2. 板見 智：特集にあたって，毛髪のサイエンス，板見智 山田秀和編. 抗加齢医学会雑誌 2014;10(4):019.
3. 乾 重樹：特集 クイズ！接触皮膚炎 鼻カニューレに沿った線条の紅斑. *J Visual Dermatol* 2014;13(1):25-6.
4. 乾 重樹：増大号 初歩から学べる皮膚科検査の実際 トリコスコピー. *MB Derma* 2014;216:185-9.
5. 乾 重樹：男性型脱毛症の発症メカニズム. *アンチ・エイジング医学* 2014;10(4):519-24.
6. 乾 重樹：特集 皮膚科の質を向上する Quality Indicator (QI) Rev.1 トリコスコピーによる円形脱毛症の診断と患者満足度. *J Visual Dermatol* 2014;13(10):1162-3.
7. 乾 重樹：脱毛症の診断：トリコスコピー. *皮膚と美容* 2014;46:96-9.
8. 乾 重樹：増大号 理路整然 体系化ダーモスコピー 毛のみかた（トリコスコピー） 2014;223:118-22.
9. 乾 重樹：特集／脱毛をきたした患者のトータルケア 脱毛をきたした患者におけるウィッグの社会心理的効果とそのエビデンス. *MB Derma* 2014;225:64-9.
10. 乾 重樹：脱毛症診断技術総説. *日皮会誌* 2014;124:2859-61.
11. 乾 重樹：皮脂と頭皮についてのこれまでの研究レビュー：正しいヘアケアを考えるために. *皮膚と美容* 2014;46:155-8.

2014年 編集・著書

[編集]

1. 乾 重樹 編集企画：脱毛をきたした患者のトータルケア. No. 225 MB Derma.

[著書]

1. 板見 智（宮地良樹編）：男性型脱毛症の治療の決め手—合理的な治療による解決法は？苦手な外来皮膚疾患解決法. メディカルレビュー社 2014, pp.148-9.
2. 乾 重樹（宮地良樹編）：本当に円形脱毛症なのか？診断の決め手：(2) トリコスコピーで解決する. 苦手な外来皮膚疾患 100 の解決法～そのとき達人はどのように苦手皮膚疾患を克服したか？～ メディカルレビュー社 2014, pp.140-1.

2014年 特別講演

[特別講演・教育講演]

1. 板見 智：男性型脱毛症の新たな知見. ランチョンセミナー 第57回形成外科学会総会・学術集会 長崎 (2014.04.11)
2. 板見 智：男性型脱毛症の病態と治療. ランチョンセミナー 第4回細胞再生医療研究会 神戸 (2014.07.27)
3. 板見 智：男性型脱毛症の病態と治療. 教育講演 第14回日本 Men's Health 医学会 大阪 (2014.09.28)
4. 乾 重樹：リウマチ性疾患における皮膚病変のみかた・考え方. 第1回大阪・奈良・和歌山地区日本リウマチ財団登録医・ケアナース研修会 大阪 (2014.01.25)
5. 乾 重樹：男性型脱毛症. 日本皮膚科学会東京支部専門医講習会 東京 (2014.02.14)
6. 乾 重樹：赤色 LED を用いた育毛の基礎と可能性. 第5回 LED Next Stage 2014 東京 (2014.03.04-07)
7. 乾 重樹：(ハンズオンセミナー) AGA と QOL ～かつらとフィナステリドは患者の QOL を向上するか?～. 第111回日本内科学会 東京 (2014.04.11-13)
8. 乾 重樹：教育講演 脱毛症診断技術総説. 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
9. 乾 重樹：正しいヘアケアのアドバイスをするために～毛髪と頭皮のみかた・考え方. 第64回日本毛髪科学協会全国セミナー 東京 (2014.06.16)
10. 乾 重樹：特別講演 トリコスコピー (スカルプダーモスコピー) のみかた・考え方. 第369回日本皮膚科学会福岡地方会 福岡 (2014.07.06)
11. 乾 重樹：特別講演 男性型脱毛症と毛周期研究の諸相：基礎から臨床まで. 第138回毛髪科学技術者協会学術大会 静岡 (2014.10.17)
12. 乾 重樹：円形脱毛症に対する局所免疫療法のコツと技. シンポジウム 4「脱毛症のマエストロが語る！免疫学との接点」 第44回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会 宮城 (2014.11.22)
13. 乾 重樹：フラーレンが拓く皮膚と毛髪の新しいナノ医学治療. 第19回日本臨床毛髪学会学術集会アフタヌーンセミナー 岡山 (2014.11.23)
14. 乾 重樹：脱毛症の診断と治療. 第285回医療技術セミナー スキルアップ 東京 (2014.12.14)
15. 乾 重樹：リウマチ性疾患における脱毛の鑑別. 第26回中之島リウマチセミナー 大阪 (2014.12.21)

2014年 座長

[国際学会]

1. 乾 重樹：Pre-congress Course 4: Dermoscopy and phototrichogram, The 8th World Congress for Hair Research, Jeju, Korea (2014.05.14-17)

[国内学会]

1. 乾 重樹：ポスターセッション 3, 第 32 回日本美容皮膚科学会総会・学術大会 千葉 (2014.07.12-13)
2. 乾 重樹：ワークショップ 1 褥瘡の Biology, 第 16 回日本褥瘡学会学術集会 名古屋 (2014.08.29)
3. 乾 重樹：シンポジウム 4「脱毛症のマエストロが語る！免疫学との接点」 第 44 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会 宮城 (2014.11.22)

2014年 学会発表

[国際学会]

1. Inui S: Differential diagnosis of androgenetic alopecia. Pre-congress Course 4: Dermoscopy and phototrichogram, The 8th World Congress for Hair Research, Jeju, Korea (2014.05.14-17)
2. Inui S: Differential diagnosis of alopecia areata. Pre-congress Course 4: Dermoscopy and phototrichogram. The 8th World Congress for Hair Research, Jeju, Korea (2014.05.14-17)
3. Inui S: Evidence for wig effect on quality of life of hair loss patients. Aderans Science Symposium, The 8th World Congress for Hair Research, Jeju, Korea (2014.05.14-17)

[国内学会・研究会]

1. 乾 重樹, 澄川靖之, 中島武之, 板見 智: プレナリーセッション: 毛周期における成長期誘導因子としてのレプチンの機能とその解析. 第14回日本抗加齢医学会総会 大阪 (2014.06.06-08)
2. 乾 重樹, 板見 智: 局所免疫療法抵抗性およびステロイド外用薬反応性を示した円形脱毛症の5例. 第443回日本皮膚科学会大阪地方会 和歌山 (2014.05.24)
3. 乾 重樹: 局所免疫療法抵抗性およびステロイド外用薬反応性を示した全頭型円形脱毛症の5例. 第15回大阪皮膚疾患談話会 大阪 (2014.06.28)
4. 乾 重樹, 板見 智: Centrifugal lipodystrophy of the scalp: トリコスコピー所見とミノキシジルローションによる治療経験. 第22回毛髪科学研究会 東京 (2014.11.29)
5. Noguchi F, Inui S, Itami S: Extracellular pH in the microenvironment affects the anti-tumor activity of inhibitors of mitochondrial respiration against melanoma. 日本研究皮膚科学会第39回年次学術大会・総会 大阪 (2014.12.12-14)

2014年 受賞

[受賞]

1. Inui S: Trichoscopy for common hair loss diseases: Algorithmic method for diagnosis. J Dermatol 38:71-75,2011. Journal of Dermatology, Most downloaded paper Award in 2013
2. 乾 重樹, 澄川靖之, 中島武之, 板見 智: プレナリーセッション: 毛周期における成長期誘導因子としてのレプチンの機能とその解析. 第14回日本抗加齢医学会総会 プレナリー賞 大阪 (2014.06.06-08)

教室員紹介

大阪大学大学院医学系研究科 再生誘導医学寄附講座

氏 名
職 名
専 門 医 資 格
省 庁 研 究 費

玉井 克人
寄附講座教授
皮膚科専門医

文部科学省基盤 B（間葉系幹細胞動員因子 HMGB1 の皮膚恒常性維持機構解明と皮膚難病治療への応用）、挑戦的萌芽（骨髄間葉系幹細胞動員因子を利用した皮膚機能向上医療開発）、厚生労働省科学研究費補助金：再生医療実用化研究事業（表皮水疱症に対する間葉系幹細胞移植再生医療の実用化研究）、厚労省科学研究委託費：難治性疾患等実用化研究事業（表皮水疱症に対する新たな医薬品の実用化に関する研究）

受 賞 等
学会関係役員
大学、病院の運営委員
医 局 内 委 員
外 来 関 係
受け持ち入院患者
手 術 数
学 生 講 義
業 績

大阪大学総長顕彰
研究皮膚学会理事
阪大医療組織工学フォーラム実行委員

特殊外来担当医

医学部講義 5 コマ、学外非常勤講師：皮膚科学 6 回、組織学 1 回
学会発表：海外 1 件 国内 2 件
論文発表：英文 2 件 和文 0 件

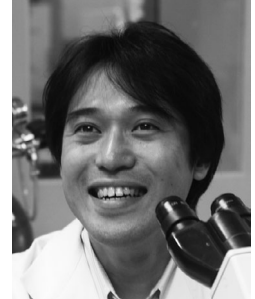
論 文 査 読
研 究 テ ー マ

JID 1 件, JD 2 件

表皮水疱症の治療法開発, 損傷皮膚組織と骨髄間葉系幹細胞のクロストークメカニズムを利用した新しい皮膚疾患治療薬開発

一 言

表皮水疱症に対する骨髄間葉系幹細胞移植の有効性が明らかになりつつあります。



2014年 業績

[英文原著]

1. Furumoto T, Ozawa N, Inami Y, Toyoshima M, Fujita K, Zaiki K, Sahara S, Akita M, Kitamura K, Nakaoji K, Hamada K, **Tamai K**, Kaneda Y, Maeda A: Mallotus philippinensis bark extracts promote preferential migration of mesenchymal stem cells and improve wound healing in mice. *Phytomedicine*. 2014;21(3):247-53.
2. Moritsugu R, **Tamai K**, Nakano H, Aizu T, Nakajima K, Yamazaki T, Sawamura D: Functional analysis of the nuclear localization signal of the POU transcription factor Skn 1a in epidermal keratinocytes. *Int J Mol Med*. 2014;34(2):539-44.

[国際学会]

1. Tamai K: Update on EB Clinical Trial: (Mini-Symposium) on Epidermolysis Bullosa, Sponsored by DEBRA America, Albuquerque Convention Center, Albuquerque, USA (2014.05.03)

[国内学会・研究会]

1. 玉井克人：表皮水疱症の患者さんから学んだ皮膚ところの再生メカニズム：皮膚は地球を救う．日本創傷・オストミー・失禁管理学会 大宮 （2014.05.16）
2. 玉井克人：表皮水疱症 update: 基礎と臨床，教育講演 1：皮膚難病への挑戦～厚労省皮膚難病研究班からの報告を含めて．第 113 回日本皮膚科学会総会・学術大会 京都 （2014.05.30）

関連病院

一般財団法人 住友病院	66
NTT 西日本大阪病院	67
独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院	68
大阪みなと中央病院	69
大阪府立急性期・総合医療センター	70
大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	71
岸和田徳洲会病院	73
公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院	73
公立学校共済組合 近畿中央病院	75
国家公務員共済組合連合会 大手前病院	76
(一財) 大阪府警察協会 大阪警察病院	76
市立池田病院	77
市立吹田市民病院	78
市立豊中病院	79
地方独立行政法人 市立堺病院	80
独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター	81
独立行政法人 国立病院機構 南和歌山医療センター	83
独立行政法人 労働者健康福祉機構 大阪労災病院	83
独立行政法人 労働者健康福祉機構 関西ろうさい病院	84
東大阪市立総合病院	85
箕面市立病院	86
八尾市立病院	87

関連病院

一般財団法人 住友病院

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3-20 電話番号 06-6443-1261

皮膚科代表者名	庄田 裕紀子	特 殊 設 備	
病院総病床数	499床	SPP測定器, Narrow Band UVB・UVA全身照射機, Broad Band UVB・UVA部分照射器, ダーモスコピー, 超音波検査機, 液体窒素噴霧器, ハイフリケーター	
皮膚科病床数	7床		
皮膚科年間総外来患者数	15,998人		
皮膚科年間総新患者数	1,882人		
皮膚科年間入院総手術数	35件		
皮膚科年間外来総手術数	179件	発 表 論 文 数	1
皮膚科年間生検数	180件	発 表 演 題 数	4



氏 名	庄田 裕紀子
役 職	診療部長
専門医資格	日本皮膚科学会専門医
学会関係役員	大阪地方会運営委員
病院の運営委員	手術場委員会委員, 患者満足度委員会委員, 褥瘡予防委員会委員, 薬事委員会委員
外来(専門外来・回数)	週4日
平均病棟受け持ち患者数	適宜
学 生 講 義	
一言(施設の特徴など)	住友病院は生活保護以外の全ての患者の診療が可能です。地域の患者さんも多く受診されます。病院の特徴は他科間の連携が非常にしやすいこと。皮膚悪性リンパ腫では血液内科にて臍帯血や骨髄移植にて加療することや、閉塞性動脈硬化症患者に対しては皮膚科入院で放射線科によって経皮血管内治療を施行するなど、連携でこそ加療できる疾患も多数扱っています。また、市中病院では珍しく感染制御専属医がいて、重症感染症の治療ではアドバイスを得ながら加療できます。

氏 名	竹原 友貴
役 職	診療副部長
専門医資格	日本皮膚科学会専門医
外来(専門外来・回数)	週に3回
平均病棟受け持ち患者数	4, 5人

氏 名	角田 佳純(旧姓豊田)
役 職	後期研修医
専門医資格	なし
外来(専門外来・回数)	週2回
平均病棟受け持ち患者数	5, 6人

NTT 西日本大阪病院

〒 543-8922 大阪市天王寺区烏ヶ辻 2-6-40 電話番号 06-6773-7360

皮膚科代表者名 調 裕次
 病院総病床数 347床
 皮膚科病床数 8床
 皮膚科年間総外来患者数 14,920人
 皮膚科年間総新患者数 706人
 皮膚科年間入院総手術数 111件
 皮膚科年間外来総手術数 181件
 皮膚科年間生検数 328件

特 殊 設 備

Qスイッチ、ノーマルルビーレーザー、ロングパルスアレキサンドライトレーザー、炭酸ガスレーザー、近赤外線レーザー、ビデオカメラ接続ダーモスコピー、超音波エコー診断装置、赤外線サーモグラフィ、UVA(全身型)・UVB 紫外線照射装置、



発 表 論 文 数 5
 発 表 演 題 数 学会 8, 講演その他 4

氏 名 調 裕次
 役 職 部長
 専門医資格 日本皮膚科学会 皮膚科専門医
 学会関係役員 日本皮膚科学会大阪地方会運営委員, 日本皮膚科学会中部支部代議員, 日本脊椎関節炎学会代議員
 病院の運営委員 褥瘡対策委員会委員長, ICT 委員長, 院内感染対策委員会, 臨床検査運営委員会, 放射線部門運営委員会, 病床運用委員会, 医療機器選定委員会, 手術室運営委員会, 糖尿病療養指導センター運営委員会, リウマチ膠原病センター運営委員会, 医療情報委員会, 医療安全管理委員会, 臨床等研修管理委員会, 診療情報等提供委員会, 化学療法レジメン審査委員会
 外 来 午前診: 週 3 回 午後診: 週 1 回
 平均病棟受け持ち患者数
 学 生 講 義 年 1 回「全身疾患と皮膚(血管炎, 代謝異常含む)」

氏 名 坂井 浩志
 役 職 医長
 専門医資格 日本皮膚科学会 皮膚科専門医
 外 来 週 3 回 午後診: 週 1 回(火曜午後: 下肢静脈瘤専門外来)
 平均病棟受け持ち患者数 約 3~5 人

氏 名 外村 香子
 役 職 常勤嘱託
 専門医資格
 外 来 週 2 回 午後診: 週 1 回
 平均病棟受け持ち患者数 約 3~5 人

氏 名 鎌田 千恵(4/1~)
 役 職 常勤嘱託
 専門医資格
 外 来 週 2 回 午後診: 週 1 回
 平均病棟受け持ち患者数 約 3~5 人

氏 名 前田 麻衣子(~7/25)
 役 職 研修医(通修)
 専門医資格 日本皮膚科学会 皮膚科専門医

外 来 週 2 回 午後診：週 1 回
平均病棟受け持ち患者数

独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院

〒 553-0003 大阪市福島区福島 4 丁目 2 番 78 号 電話番号 06-6441-5451

皮膚科代表者名	池上 隆太	特 殊 設 備
病 院 総 病 床 数	565 床	エキシマランプ紫外線治療器, 全身型 UVA/
皮 膚 科 病 床 数	12 床	NB-UVB 照射装置, 超音波診断装置 (エラス
皮膚科年間総外来患者数	14,494 人	トグラフィー付), 皮膚灌流圧測定器, サー
皮膚科年間総新患者数	889 人	モグラフィー, 全身低温温浴ルーム, 高周波
皮膚科年間入院総手術数	102 件	ラジオ波メス, グラインダー
皮膚科年間外来総手術数	217 件	
皮膚科年間生検数	314 件	発 表 論 文 数 6
		発 表 演 題 数 17



氏 名	池上 隆太
役 職	診療部長
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会認定専門医
学 会 関 係 役 員	日本皮膚科学会 中部支部代議員, 日本皮膚科学会 創傷・熱傷ガイドライン改訂委員
病 院 の 運 営 委 員	褥瘡対策委員長, 外来治療センター運営委員, 手術室運営委員, 病床管理運営委員
外来 (専門外来・回数)	一般外来：週 3 回, フットケア外来：週 2 回, 光線外来：週 1 回
平均病棟受け持ち患者数	指導医として受け持ち
学 生 講 義	大阪病院附属看護専門学校：年 4 回, 大阪保健医療大学：年 2 回, 大阪リハビリテーション専門学校：年 1 回
一 言	2014 年 4 月, 大阪厚生年金病院から独立行政法人 地域医療機能推進機構大阪病院, 通称 JCHO (ジェイコー) 大阪病院に名称変更しました. 2015 年 5 月には新病院に移転し, 新たな歴史を刻むことになります.

氏 名	松本 考平 (～3 月末)
役 職	医長
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会認定専門医
外来 (専門外来・回数)	一般外来：週 2 回, 光線外来：月 2 回
平均病棟受け持ち患者数	2～3 人, 指導医として 4～7 人

氏 名	清原 恵理子 (4 月～)
役 職	医長 (育児支援による時短勤務)
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会認定専門医
外来 (専門外来・回数)	一般外来：週 3 回
平均病棟受け持ち患者数	

氏 名	花房 崇明 (9 月～)
役 職	医長 (育児支援による時短勤務)
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会認定専門医
外来 (専門外来・回数)	一般外来：週 2 回, 光線外来：月 2 回
平均病棟受け持ち患者数	2～3 人, 指導医として 4～7 人

氏 名 坂本 幸子 (8月～産休)
 役 職 医員
 専門医資格 日本形成外科学会専門医
 外来 (専門外来・回数) 一般外来：週2回
 平均病棟受け持ち患者数 3～6人

氏 名 溝口 奈穂 (～3月末)
 役 職 医員
 専門医資格
 外来 (専門外来・回数) 一般外来：週2回，光線外来：月2～3回
 平均病棟受け持ち患者数 3～6人

氏 名 西本 (井上) 知子
 役 職 フェロー
 専門医資格
 外来 (専門外来・回数) 一般外来：週2回，光線外来：月2～3回
 平均病棟受け持ち患者数 3～6人

氏 名 廣畑 彩希 (4月～)
 役 職 フェロー
 専門医資格
 外来 (専門外来・回数) 一般外来：週1回
 平均病棟受け持ち患者数 3～6人

大阪みなと中央病院

〒552-0021 大阪市港区築港1-8-30 電話番号 06-6572-5721

皮膚科代表者名	西井 芳夫	特 殊 設 備
病院総病床数	275床	エキシマレーザー，スーパーライザー，ナ
皮膚科病床数	6床	ローバンド他
皮膚科年間総外来患者数	13,251人	
皮膚科年間総新患者数	799人	発 表 論 文 数 0
皮膚科年間入院総手術数	31件	発 表 演 題 数 0
皮膚科年間外来総手術数	488件	
皮膚科年間生検数		



氏 名 西井 芳夫
 役 職 医長
 専門医資格 日皮会認定専門医，日本東洋学会専門医，認定産業医
 学会関係役員
 病院の運営委員 薬剤審議会，感染委員会 他
 外来 (専門外来・回数) 一般5回
 平均病棟受け持ち患者数 5～6人
 学 生 講 義

大阪府立急性期・総合医療センター

〒558-8558 大阪市住吉区万代東3丁目1番56号 電話番号 06-6692-1201

皮膚科代表者名	中島 武之	特 殊 設 備	
病院総病床数	768床	発 表 論 文 数	1
皮膚科病床数	2床	発 表 演 題 数	3
皮膚科年間総外来患者数	8,468人		
皮膚科年間総新患者数	1,752人		
皮膚科年間入院総手術数	16件		
皮膚科年間外来総手術数	52件		
皮膚科年間生検数	241件		



氏 名	中島 武之
役 職	部長
専 門 医 資 格	皮膚科専門医
学 会 関 係 役 員	
病院の運営委員	治験・臨床研究審査委員 カルテ開示審査委員 診療管理委員 医事保険・DPC 委員 医療情報部運営委員 クリニカルパス推進委員
外来（専門外来・回数）	週4回
平均病棟受け持ち患者数	
論 文 査 読	journal of dermatology 2
学 生 講 義	

氏 名	西野 洋輔
役 職	診療主任
専 門 医 資 格	
外来（専門外来・回数）	週4回
平均病棟受け持ち患者数	2

氏 名	藤原 碧（4月より）
役 職	医員
専 門 医 資 格	
外来（専門外来・回数）	週3回
平均病棟受け持ち患者数	2

大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター

〒 583-8588 大阪府羽曳野市はびきの 3-7-1 電話番号 072-957-2121

皮膚科代表者名	片岡 葉子	特 殊 設 備	
病院総病床数	結核病床 200 床, 一般病床 440, 計 640 床	ターゲット型エキシマライト, 紫外線全身 照射装置 (UVB+UVA, Narrow Band それ ぞれ 1 台ずつ), 手足紫外線照射装置, サ ーモグラフィー, 赤外線ビデオカメラ撮影 装置, 大気中ホルマリン測定器, 歯科金属 電流測定器, DermaScan (皮膚専用超音波 画像装置)	
皮膚科病床数	20 床		
皮膚科年間総外来患者数	30,271 人		
皮膚科年間総新患者数	1,688 人		
皮膚科年間入院総手術数	8 件		
皮膚科年間外来総手術数	6 件		
皮膚科年間生検数	162 件	発 表 論 文 数	8
		発 表 演 題 数	23



氏 名	片岡 葉子
役 職	皮膚科主任部長・アトピーアレルギーセンター長
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医・指導医 日本心身医学会専門医
学 会 関 係 役 員	日本皮膚科学会 中部支部代議員 日本皮膚科学会大阪地方会 運営委員 (編集委員) 日本アレルギー学会 代議員 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 理事 アトピー性皮膚炎治療研究会 事務局長, 世話人 皮膚心身医学会 理事 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌 編集委員 “皮膚の科学” 編集委員 大阪府医師会 学校医部会 アレルギー対策委員 女性医師支援 WG 第 5 ブロック委員 関西臨床アレルギー研究会 運営委員
病 院 の 運 営 委 員	栄養委員長, 褥瘡対策委員長, 薬事委員, 保険委員
外 来 (専 門 外 来 ・ 回 数)	週 4 回
平 均 病 棟 受 け 持 ち 患 者 数	
学 生 講 義	阪大医学部非常勤講師学生講義 1 回
一 言 (施 設 の 特 徴 な ど)	アレルギー疾患に特化し, 重症アトピー性皮膚炎患者を数多く診療している全国で 有数の施設. 乳児から成人まで全年齢の患者を診療. 多職種のチーム医療で患者教 育システムを確立し, 重症患者の早期寛解, 維持の治療実績を上げている. 地域の一般皮膚科診療の後方支援施設としてアトピー性皮膚炎以外の症例も多い. 2013 年 11 月から初診患者は紹介患者のみとなった.

氏 名	岸田 寛子
役 職	診療主任
専 門 医 資 格	皮膚科学会専門医
外 来 (専 門 外 来 ・ 回 数)	週 3 + 1 回
平 均 病 棟 受 け 持 ち 患 者 数	7 人 / 月

氏 名	原田 潤 (～2014.8 月で異動)
役 職	診療主任

専門医資格

外来（専門外来・回数） 週 3 + 1 回
 平均病棟受け持ち患者数 5 人 / 月

氏 名 吉岡 詠理子（～2014.3 月, 2014.10 月～）
 役 職 3 月まで常勤医員, 10 月から非常勤パート勤務医
 専門医資格
 外来（専門外来・回数） 週回（木）
 平均病棟受け持ち患者数 7 人 / 月（3 月まで）

氏 名 別所 優（～2014.12 月で異動）
 役 職 レジデント
 専門医資格
 外来（専門外来・回数） 週 2 回
 平均病棟受け持ち患者数 5 人 / 月

氏 名 猿丸 朋久
 役 職 非常勤パート勤務医
 専門医資格
 外来（専門外来・回数） 週 2 回（月・水）
 平均病棟受け持ち患者数

氏 名 奥田 英右（2014.4 月～）
 役 職 レジデント
 専門医資格
 外来（専門外来・回数）
 平均病棟受け持ち患者数 7 人 / 月

氏 名 清水 裕希（2014.3 月～）
 役 職 非常勤パート勤務医
 専門医資格 皮膚科学会専門医
 外来（専門外来・回数） 週 2 回（火・金）
 平均病棟受け持ち患者数

氏 名 松井 佐起（2014.9 月～）
 役 職 診療主任
 専門医資格 皮膚科学会専門医
 外来（専門外来・回数） 週 4 + 1 回
 平均病棟受け持ち患者数 6 人 / 月

岸和田徳洲会病院

〒596-8522 大阪府岸和田市加守町 4-27-1 電話番号 072-445-1195

皮膚科代表者名	駒村 公美	特 殊 設 備	
病 院 総 病 床 数	341 床	発 表 論 文 数	0
皮 膚 科 病 床 数		発 表 演 題 数	0
皮膚科年間総外来患者数	9,604 人		
皮膚科年間総新患数	161 人		
皮膚科年間入院総手術数			
皮膚科年間外来総手術数	56 件		
皮膚科年間生検数	72 件		



氏 名	駒村 公美
役 職	皮膚科部長
専 門 医 資 格	あり
学 会 関 係 役 員	日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会評議員
病 院 の 運 営 委 員	褥瘡委員会
外来（専門外来・回数）	週 5 回
平均病棟受け持ち患者数	
学 生 講 義	
一 言	屋上にヘリポートが設置されました

氏 名	石黒 真理子
役 職	医員
専 門 医 資 格	あり
外来（専門外来・回数）	週 5 回
平均病棟受け持ち患者数	

氏 名	尾花 俊作
役 職	パート医師
専 門 医 資 格	あり
外来（専門外来・回数）	第 2, 4 金曜日夕診（週 0.5 回）
平均病棟受け持ち患者数	

公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院

〒550-0012 大阪市西区立売堀 6 丁目 3-8 電話番号 06-6543-3581

皮膚科代表者名	東山 真里		
病 院 総 病 床 数	350 床		
皮 膚 科 病 床 数	定床は不定. 空床があれば入院可能. 平均 12 床		
皮膚科年間総外来患者数	26,117 人	特 殊 設 備	
皮膚科年間総新患数	1,911 人	外来に浴室・全身型ナロー UVB/UVA・エ	
皮膚科年間入院総手術数	86 件	キシマライト・エコー	
皮膚科年間外来総手術数	269 件		
皮膚科年間生検数	300 件	発 表 論 文 数	0
		発 表 演 題 数	
		学会発表	10
		講演会	11



氏名	東山 真里
役職	部長
専門医資格	あり
学会関係役員	日本皮膚科学会（中部支部 代議員）・日本皮膚科学会大阪地方会運営委員・大阪皮膚科医会（理事）
病院の運営委員	褥瘡委員会委員長・治験管理委員会委員長
外来（専門外来・回数）	初診外来 2 回・再診外来 1 回・乾癬外来 2 回
平均病棟受け持ち患者数	
学生講義	大阪大学医学部学生講義年 1 回「炎症性角化症」
一言（設備の特徴など）	乾癬治療について光線療法・生物製剤までトータルケアを学べる。乾癬以外の症例も豊富であり、院内研修医のローテーションも多い。楽しく仕事をするをモットーにやる気があれば皮膚科医として必要な研修を積む環境は整っている
氏名	大川 たをり
役職	副部長
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	一般外来週 3 回 専門外来 1
平均病棟受け持ち患者数	3～4 名年間 93 名
氏名	高橋 玲子
役職	医長
専門医資格	あり
外来（専門外来・回数）	一般外来週 2 回 専門外来 1.5 回
平均病棟受け持ち患者数	3～4 名 年間 78 名（8～12 月産休）
氏名	岡田 みどり
役職	専攻医
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	一般外来週 2 回 専門外来 1
平均病棟受け持ち患者数	3～4 名 18 名（1～3 月）
氏名	溝口 奈穂
役職	常勤嘱託医
専門医資格	あり
外来（専門外来・回数）	一般外来週 3 回 専門外来 1 回
平均病棟受け持ち患者数	3～4 名 年間 64 名（4 月～11 月）

公立学校共済組合 近畿中央病院

〒 664-8533 兵庫県伊丹市車塚 3 丁目 1 番地 電話番号 072-781-3712

皮膚科代表者名	樽谷 勝仁	特 殊 設 備	
病 院 総 病 床 数	445 床	デルマレイ 200, 超音波エコー診断装置	
皮 膚 科 病 床 数	8 床		
皮膚科年間総外来患者数	9,565 人	発 表 論 文 数	3
皮膚科年間総新患者数	588 人	発 表 演 題 数	5
皮膚科年間入院総手術数	37 件		
皮膚科年間外来総手術数	105 件		
皮膚科年間生検数	176 件		



氏 名	樽谷 勝仁
役 職	皮膚科部長
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医, 日本がん治療認定医機構認定・がん治療認定医
学 会 関 係 役 員	日本皮膚科学会 評議員, 日本研究皮膚科学会 評議員, 兵庫県皮膚科医会 幹事
病 院 の 運 営 委 員	褥瘡委員会 委員長, 学術委員会 委員長, 倫理委員会 委員長, 院内がん登録委員会委員, 化学療法委員会委員, 院内研修委員会委員, 診療情報委員会委員, 手術室運営委員会委員
外来 (専門外来・回数)	一般外来 週 3 回, 乾癬外来 週 1 回
平均病棟受け持ち患者数	
学 生 講 義	阪大医学部 年 1 回 先天性角化症
一言 (施設の特徴など)	乾癬に力を入れています。

氏 名	北場 俊
役 職	皮膚科医長 (2014 年 9 月退職)
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
外来 (専門外来・回数)	週 3 回
平均病棟受け持ち患者数	2~3 人

氏 名	阿部 綾乃
役 職	レジデント (2014 年 3 月退職)
専 門 医 資 格	
外来 (専門外来・回数)	週 3 回
平均病棟受け持ち患者数	

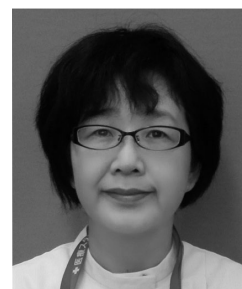
氏 名	岡田 みどり
役 職	レジデント (2014 年 4 月より)
専 門 医 資 格	
外来 (専門外来・回数)	週 3 回
平均病棟受け持ち患者数	2~4 人

氏 名	中川 幸延
役 職	医長 (2014 年 10 月より)
専 門 医 資 格	
外来 (専門外来・回数)	週 3 回
平均病棟受け持ち患者数	2~4 人

国家公務員共済組合連合会 大手前病院

〒540-0008 大阪府中央区大手前 1-5-34 電話番号 06-6941-0484

皮膚科代表者名	園田 早苗	特 殊 設 備	
病院総病床数	401床	アレキサンドライトロングパルスレーザー、ルビーレーザー、Narrow B Band 照射機、サージトロン	
皮膚科病床数	5床		
皮膚科年間総外来患者数	8,849人		
皮膚科年間総新患者数	1,869人		
皮膚科年間入院総手術数	21件	発 表 論 文 数	0
皮膚科年間外来総手術数	191件	発 表 演 題 数	3
皮膚科年間生検数	234件		



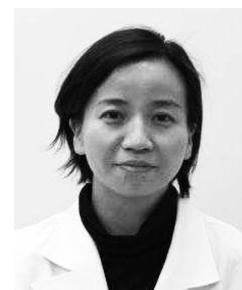
氏 名	園田 早苗
役 職	皮膚科部長
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医・指導医、日本抗加齢医学会専門医・指導医
学 会 関 係 役 員	
病院の運営委員	臨床研究管理委員、褥創対策委員、中央手術部運営委員
外来（専門外来・回数）	週3回、その他に、スキンケア外来、顔アレルギー・アトピー性皮膚炎外来の専門外来担当
平均病棟受け持ち患者数	オーブン担当です
学 生 講 義	阪大学医学部4年生学生講義1回

氏 名	高橋 祐史
役 職	医員
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会専門医
外来（専門外来・回数）	3回/週 その他にスキンケア外来担当
平均病棟受け持ち患者数	約2～4人

（一財）大阪府警察協会 大阪警察病院

〒543-0035 大阪府天王寺区北山町 10-31 電話番号 06-6771-6051

皮膚科代表者名	八幡 陽子	特 殊 設 備	
病院総病床数	580床	UVA/NB-UVB 照射装置、ダーモスコピー、炭酸ガスレーザー	
皮膚科病床数	4床（上限なし）		
皮膚科年間総外来患者数	13,183人		
皮膚科年間総新患者数	736人	発 表 論 文 数	2
皮膚科年間入院総手術数		発 表 演 題 数	5
皮膚科年間外来総手術数	91件		
皮膚科年間生検数	127件		



氏 名	八幡 陽子
役 職	皮膚科部長
専 門 医 資 格	日本皮膚科学会認定専門医
学 会 関 係 役 員	
病院の運営委員	臨床研修委員
外来（専門外来・回数）	週3回

平均病棟受け持ち患者数 全病棟患者を管理
 学 生 講 義 大阪警察病院看護学校 5 回 / 年, 阪大学生講義 1 回 / 年

氏 名 安藤 (白山) 純実
 役 職 副医長
 専 門 医 資 格
 外来 (専門外来・回数) 週 2~3 回
 平均病棟受け持ち患者数 平均 3~5 人

氏 名 須磨 朱里
 役 職 レジデント (常勤)
 専 門 医 資 格
 外来 (専門外来・回数) 週 2~3 回
 平均病棟受け持ち患者数 平均 4~6 人

市立池田病院

〒 563-8510 大阪府池田市城南 3-1-18 電話番号 072-751-2881

皮膚科代表者名 吉良 正浩 特 殊 設 備
 病院総病床数 364 床 narrow-band UVB 照射装置, UVA/UVB 照
 皮膚科病床数 12 床 射装置, 近赤外線照射装置
 皮膚科年間総外来患者数 13,505 人
 皮膚科年間総新患者数 2,142 人 発 表 論 文 数 2
 皮膚科年間入院総手術数 23 件 発 表 演 題 数 4
 皮膚科年間外来総手術数 147 件
 皮膚科年間生検数 285 件



氏 名 吉良 正浩
 役 職 部長
 専 門 医 資 格 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
 学会関係役員 日本皮膚科学会大阪地方会運営委員, 日本皮膚科学会中部支部代議員, 日本研究皮膚科学会評議員
 病院の運営委員 褥瘡対策委員長, 女性医師支援ワーキンググループ委員, 薬事委員, 診療情報管理委員, 保険診療委員, 臨床研修管理委員, 放射線運営委員
 外来 (専門外来・回数) 一般診察: 週 2 回, 皮膚科回診: 週 1 回
 平均病棟受け持ち患者数
 学 生 講 義 年 1 回 (医学部)
 一言 (施設の特徴など) 保育所, 病児保育あります

氏 名 水野 麻衣
 役 職 主任医員
 専 門 医 資 格
 外来 (専門外来・回数) 外来 週 2 回, 処置外来 週 3 回, 褥瘡回診 週 1 回
 平均病棟受け持ち患者数 3~6 人

氏 名 丸山 彩乃
 役 職 常勤嘱託医
 専 門 医 資 格

外来（専門外来・回数） 補助診察 週4回， 処置外来 週4回， 形成手術 週1回
平均病棟受け持ち患者数 3～6人

氏 名 亀井 利沙
役 職 常勤嘱託医

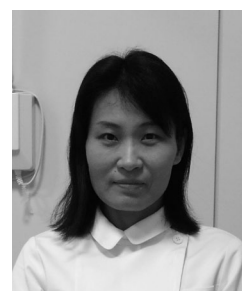
専門医資格

外来（専門外来・回数） 外来 週1回， 処置外来 週4回， 形成手術 週1回
平均病棟受け持ち患者数 3～6人

市立吹田市民病院

〒564-0082 大阪府吹田市片山町 2-13-20 電話番号 06-6387-3311

皮膚科代表者名 滝尻 珍重（1～3月），岸岡 亜紀子（4～12月）
病院総病床数 431床 特殊設備
皮膚科病床数 0床 発表論文数 0
皮膚科年間総外来患者数 14,105人 発表演題数 0
皮膚科年間総新患数 1,401人
皮膚科年間入院総手術数
皮膚科年間外来総手術数 272件
皮膚科年間生検数 106件



氏 名 滝尻 珍重（1～3月），岸岡 亜紀子（4～12月）
役 職 皮膚科部長
専門医資格 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
学会関係役員
病院の運営委員 褥瘡対策委員長，NST委員，IT委員
外来（専門外来・回数） 週5回
平均病棟受け持ち患者数 1人／月（内科の先生に主観になってもらっている）
学 生 講 義
一言（施設の特徴など）

氏 名 宮崎 明子（4～12月）
役 職 皮膚科医員
専門医資格
外来（専門外来・回数） 週5回
平均病棟受け持ち患者数 1人／月（内科の先生に主観になってもらっている）

氏 名 井下 哉恵（1～3月）
役 職 皮膚科非常勤医
専門医資格
外来（専門外来・回数） 週1回午前
平均病棟受け持ち患者数

氏 名 神谷 智（1～3月）
役 職 皮膚科非常勤医
専門医資格
外来（専門外来・回数） 週1回午前
平均病棟受け持ち患者数

氏 名 小野 かおる (1~2 月)
 役 職 皮膚科非常勤医
 専 門 医 資 格
 外来 (専門外来・回数) 週 1 回午前
 平均病棟受け持ち患者数

氏 名 田原 真知子 (1~3 月)
 役 職 皮膚科非常勤医
 専 門 医 資 格
 外来 (専門外来・回数) 週 1 回午前
 平均病棟受け持ち患者数

氏 名 藤原 貴史
 役 職 形成外科非常勤医
 専 門 医 資 格
 外来 (専門外来・回数) 月 2~3 回午後
 平均病棟受け持ち患者数

氏 名 三浦 智恵
 役 職 形成外科非常勤医
 専 門 医 資 格
 外来 (専門外来・回数) 月 2 回午後
 平均病棟受け持ち患者数

氏 名 勝野 昌代
 役 職 形成外科非常勤医
 専 門 医 資 格
 外来 (専門外来・回数) 週 1 回午後
 平均病棟受け持ち患者数

市立豊中病院

〒 560-8565 豊中市柴原町 4 丁目 14 番 1 号 電話番号 06-6843-0101

皮膚科代表者名	横見 明典	特 殊 設 備
病院総病床数	613 床	NB-UVB, エコー, CO2 レーザー,
皮膚科病床数	年平均 7.8 床 (定床 6)	PDE カメラ, SPP
皮膚科年間総外来患者数	12,734 人	発 表 論 文 数 0
皮膚科年間総新患者数	2,126 人	発 表 演 題 数 5
皮膚科年間入院総手術数	46 件 (全身麻酔件数)	
皮膚科年間外来総手術数	368 件 (手術場での手術総件数)	
皮膚科年間生検数		



氏 名 横見 明典
 役 職 部長
 専 門 医 資 格 皮膚科専門医
 学 会 関 係 役 員

病院の運営委員	手術部運営委員，褥瘡対策委員長，外来化学療法委員等々
外来（専門外来・回数）	5回
平均病棟受け持ち患者数	8人
学生講義	看護学生
一言（施設の特徴など）	皮膚悪性腫瘍，尋常乾癬，急性疾患に力を入れています．

氏名	藤盛 裕梨
役職	専攻医
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	2回
平均病棟受け持ち患者数	4人

氏名	亀井 理沙
役職	専攻医
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	1回
平均病棟受け持ち患者数	4人

地方独立行政法人 市立堺病院

〒590-0064 堺市堺区南安井町 1-1-1 電話番号 072-221-1700

皮膚科代表者名	三浦 宏之	特 殊 設 備
病院総病床数	493床	超音波（Xario200：エラストグラフィー付），Dermlite3，surgitronEMC
皮膚科病床数	5床	
皮膚科年間総外来患者数	7,626人	
皮膚科年間総新患者数	171人	発 表 論 文 数 1
皮膚科年間入院総手術数	39件	発 表 演 題 数 学会 2，研究会 15，講演 2
皮膚科年間外来総手術数	137件	
皮膚科年間生検数	155件	



氏名	三浦 宏之
役職	部長
専門医資格	皮膚科専門医・医学博士・兵庫医大形成外科非常勤講師・Editorial Board Member of Sarcoma Research - International

学会関係役員	
病院の運営委員	皮膚疾患センター準備担当
外来（専門外来・回数）	5回
平均病棟受け持ち患者数	
学生講義	血管外漏出 2回，化学療法による皮膚障害 2回，看護学校皮膚悪性腫瘍 1回
一言	27年7月に移転し堺市立総合医療センターに変わります．血管肉腫などに力を入れています，その他の症例も豊富です．

氏名	白井 洋彦
役職	副医長
専門医資格	
外来（専門外来・回数）	5回
平均病棟受け持ち患者数	

氏 名 則岡 有佳
 役 職 非常勤医師
 専門医資格 皮膚科専門医
 外来（専門外来・回数） 1 回
 平均病棟受け持ち患者数

氏 名 進藤 翔子
 役 職 非常勤医師
 専門医資格
 外来（専門外来・回数） 1 回
 平均病棟受け持ち患者数

氏 名 西平 守明
 役 職 前期研修医
 専門医資格
 外来（専門外来・回数）
 平均病棟受け持ち患者数

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター

〒540-0006 大阪府中央区法円坂 2-1-14 電話番号 06-6942-1331

皮膚科代表者名 為政 大幾 特 殊 設 備
 病院総病床数 694 床 下肢静脈瘤治療用 ELVeS レーザー，ドップラーエコー，ダーモスコピー，
 皮膚科病床数 11 床
 皮膚科年間総外来患者数 9,327 人
 皮膚科年間総新患者数 1,350 人 発 表 論 文 数 1
 皮膚科年間入院総手術数 228 件 発 表 演 題 数 7
 皮膚科年間外来総手術数 141 件
 皮膚科年間生検数 117 件



氏 名 為政 大幾
 役 職 皮膚科科長
 専門医資格 日本皮膚科学会 皮膚科専門医，皮膚悪性腫瘍指導専門医，日本がん治療認定医機構 暫定教育医
 学会関係役員 日本皮膚悪性腫瘍学会 評議員，日本臨床皮膚外科学会 理事，日本皮膚外科学会 評議員，日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）皮膚腫瘍グループ代表委員
 病 院 の 運 営 委 員 褥瘡対策委員会委員長
 外来（専門外来・回数） 週 2 回
 平均病棟受け持ち患者数 0 人（全入院患者を管理）
 学 生 講 義 未定
 一言（施設の特徴など） 皮膚悪性腫瘍に対して世界水準の診療を行っています

氏 名 小澤 健太郎
 役 職 皮膚科医長
 専門医資格 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
 外来（専門外来・回数） 週 2～4 回
 平均病棟受け持ち患者数 0 人（全入院患者を管理）

氏 名 東 祥子
 役 職 皮膚科医員（短時間勤務）
 専門医資格
 外来（専門外来・回数） 週 4 回
 平均病棟受け持ち患者数

氏 名 藤井 麻美
 役 職 皮膚科後期研修医
 専門医資格
 外来（専門外来・回数） 週 2 回
 平均病棟受け持ち患者数 3 人

氏 名 東郷 さやか
 役 職 皮膚科後期研修医
 専門医資格
 外来（専門外来・回数） 週 2 回
 平均病棟受け持ち患者数 3 人

氏 名 田中 佑佳
 役 職 皮膚科後期研修医
 専門医資格
 外来（専門外来・回数） 週 2 回
 平均病棟受け持ち患者数 3 人

氏 名 池田 彩
 役 職 皮膚科非常勤医師
 専門医資格 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
 外来（専門外来・回数） 週 2 回
 平均病棟受け持ち患者数

氏 名 磯ノ上 正明
 役 職 皮膚科非常勤医師（静脈瘤担当）
 専門医資格 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医，下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術実施基準における指導医
 外来（専門外来・回数） 月 2 回
 平均病棟受け持ち患者数

氏 名 戸田 直歩
 役 職 皮膚科非常勤医師（静脈瘤担当）
 専門医資格 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術実施基準における実施医
 外来（専門外来・回数） 月 2～3 回
 平均病棟受け持ち患者数

独立行政法人 国立病院機構 南和歌山医療センター

〒646-8558 和歌山県田辺市たきない町27番1号 電話番号 0739-26-7050

皮膚科代表者名	南 宏典	特 殊 設 備	PUVA
病院総病床数	316床	発 表 論 文 数	0
皮膚科病床数	1床	発 表 演 題 数	0
皮膚科年間総外来患者数	9,222人		
皮膚科年間総新患者数	696人		
皮膚科年間入院総手術数			
皮膚科年間外来総手術数	1件		
皮膚科年間生検数	4件		



氏 名 南 宏典
 役 職 皮膚科医長
 専門医資格 皮膚科専門医

学会関係役員
 病院の運営委員 医療安全管理室長, 医療安全推進部会部会長, 図書委員会委員長, 褥瘡管理小委員会委員長

外来(専門外来・回数) 一般10回, 専門0回

平均病棟受け持ち患者数 1人

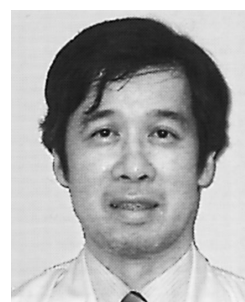
学 生 講 義 紀南看護専門学校10時間, 熊野高等学校看護科4時間

一言(施設の特徴など) 広い窓から南紀白浜の海が見えるリゾートホテルのような病院です。

独立行政法人 労働者健康福祉機構 大阪労災病院

〒591-8025 大阪府堺市北区長曾根町1179-3 電話番号 072-252-3561

皮膚科代表者名	土居 敏明	特 殊 設 備	
病院総病床数	678床	光線治療器(部分照射型, UVA, UVB)	
皮膚科病床数	5床		
皮膚科年間総外来患者数	12,524人	発 表 論 文 数	1件
皮膚科年間総新患者数	1,368人	発 表 演 題 数	座長1件
皮膚科年間入院総手術数			
皮膚科年間外来総手術数	10件		
皮膚科年間生検数	48件		



氏 名 土居 敏明
 役 職 皮膚科部長
 専門医資格 日本皮膚科学会認定専門医
 学会関係役員 日本皮膚科学会 代議員
 日本皮膚科学会 渉外・広報委員
 日本皮膚科学会中部支部 渉外・広報委員長
 日本皮膚科学会大阪地方会 運営委員
 日本臨床皮膚科医会 会則検討委員
 日本臨床皮膚科医会近畿ブロック 理事

病院の運営委員 褥瘡対策委員長

健保関連委員

外来(専門外来・回数) 週4回(月, 水, 木, 金)

平均病棟受け持ち患者数
学 生 講 義

大阪大学医学部学生への皮膚科学講義（紅斑症関連）

氏 名 朝倉 麻紀子（2014.6.30 で退職）
役 職 皮膚科医長
専 門 医 資 格 あり
外来（専門外来・回数） 週 3 回（月，水，金）
平均病棟受け持ち患者数 1～4 人の間で変動

氏 名 城村 拓也
役 職 皮膚科医員
専 門 医 資 格
外来（専門外来・回数） 週 3 回（月，火，木）
平均病棟受け持ち患者数 1～4 人の間で変動

氏 名 今中 愛子
役 職 非常勤嘱託
専 門 医 資 格 あり
外来（専門外来・回数） 週 2 回（火，水）
平均病棟受け持ち患者数
(2014.4.1 より)

氏 名 山本 笑
役 職 非常勤嘱託
専 門 医 資 格
外来（専門外来・回数） 週 1 回（金）
平均病棟受け持ち患者数
(2014.7.1 より)

独立行政法人 労働者健康福祉機構 関西ろうさい病院

〒 660-8511 兵庫県尼崎市稲葉荘 3-1-69 電話番号 06-6416-1221

皮膚科代表者名	福山 國太郎	特 殊 設 備	
病院総病床数	642 床	UVA／UVB 照射装置，スーパーライザー，	
皮膚科病床数	4 床	ダーモスコピー	
皮膚科年間総外来患者数	12,140 人		
皮膚科年間総新患者数	2,009 人	発 表 論 文 数	0
皮膚科年間入院総手術数	47 件	発 表 演 題 数	0
皮膚科年間外来総手術数	155 件		
皮膚科年間生検数	151 件		



氏 名 福山 國太郎
役 職 部長
専 門 医 資 格 皮膚科専門医，皮膚悪性腫瘍指導専門医
学 会 関 係 役 員
病院の運営委員 運営委員，救急当直委員，臨床研修委員，手術委員
外来（専門外来・回数） 週 4 回
平均病棟受け持ち患者数

学 生 講 義 関西労災病院附属看護学校「皮膚科学」、阪大医学部「皮膚外科」
一言（施設の特徴など） 地域の基幹病院として入院を必要とするような救急疾患、皮膚悪性腫瘍を主な診療内容としています。

氏 名 原田 潤
役 職 スタッフ
専 門 医 資 格
外来（専門外来・回数） 週3回
平均病棟受け持ち患者数

氏 名 西野 洋輔
役 職 レジデント
専 門 医 資 格
外来（専門外来・回数） 週3回
平均病棟受け持ち患者数

東大阪市立総合病院

〒578-8588 東大阪市西岩田3-4-5 電話番号 06-6781-5101

皮膚科代表者名	猿喰 浩子	特 殊 設 備	
病院総病床数	504床	全身紫外線照射装置（UVA、NBVB切り替えタイプ）、半導体レーザー（メディレーザーソフト）、体表エコー	
皮膚科病床数	8床		
皮膚科年間総外来患者数	12,990人		
皮膚科年間総新患者数	1,721人		
皮膚科年間入院総手術数		発 表 論 文 数	1
皮膚科年間外来総手術数	159件	発 表 演 題 数	2
皮膚科年間生検数	201件		



氏 名 猿喰 浩子
役 職 主任部長
専 門 医 資 格 日本皮膚科学会専門医
学 会 関 係 役 員 日本皮膚科学会中部支部代議員
病 院 の 運 営 委 員 薬事審議委員会委員 外来運営委員会委員 褥瘡対策委員会委員長
外来（専門外来・回数） 月（予約） 火（初診） 木（初診）
平均病棟受け持ち患者数

学 生 講 義 一言 地域の拠点である市立病院ですので、乳幼児や妊娠婦から高齢者までの多種多様な疾患の患者さんが来られます。

氏 名 渡邊 愛子
役 職 部長
専 門 医 資 格 日本皮膚科学会専門医
外来（専門外来・回数） 火（予約） 木（予約；交代） 金（初診）
平均病棟受け持ち患者数 4～6人

氏 名 園山 悦子
役 職 医長
専 門 医 資 格 日本皮膚科学会専門医

外来（専門外来・回数） 月（初診） 水（予約） 木（予約；交代）
 平均病棟受け持ち患者数 4～6 人

氏 名 早石 佳奈
 役 職 非常勤
 専門医資格
 外来（専門外来・回数） 水（初診） 金（予約）
 平均病棟受け持ち患者数

箕面市立病院

〒 562-0014 大阪府箕面市萱野 5-7-1 電話番号 072-728-2001

皮膚科代表者名 松本 千穂 特 殊 設 備
 病院総病床数 317 床 UVA, UVB, ナローバンド UVB, エコー,
 皮膚科病床数 6～10 床 PET-CT, デーモスコピー, 炭酸ガスレ
 皮膚科年間総外来患者数 10,621 人 ーザー

発 表 論 文 数 0
 発 表 演 題 数 3

皮膚科年間総新患数 189 人
 皮膚科年間入院総手術数 2 件（大多数は形成外科入院，皮膚科共観となる）
 皮膚科年間外来総手術数 7 件（形成外科外来手術は 381 件，皮膚科症例は共に行う）
 皮膚科年間生検数 177 件



氏 名 松本 千穂
 役 職 皮膚科主任部長
 専門医資格 日本皮膚科学会認定専門医
 学会関係役員
 病院の運営委員 褥瘡予防対策委員会委員長，パス医員，糖尿病支援チーム医員
 外来（専門外来・回数） 週 3 回
 平均病棟受け持ち患者数 1～2 人
 学 生 講 義

氏 名 崎元 和子（2014.1～3 月）
 役 職 医員
 専門医資格 日本皮膚科学会認定専門医
 外来（専門外来・回数） 3 回
 平均病棟受け持ち患者数 3～5 人

氏 名 角村 由紀子（2014.1～3 月）
 役 職 医員
 専門医資格
 外来（専門外来・回数） 2 回
 平均病棟受け持ち患者数 3～5 人

氏 名 吉岡 華子（2014.4～12 月）
 役 職 医員
 専門医資格

外来（専門外来・回数）	3 回
平均病棟受け持ち患者数	3～5 人

氏 名	東 典子（2014.4～12 月）
役 職	レジデント
専 門 医 資 格	
外来（専門外来・回数）	2 回
平均病棟受け持ち患者数	3～5 人

八尾市立病院

〒 581-0069 大阪府八尾市龍華町 1-3-1 電話番号 072-922-0881

皮膚科代表者名	高木 圭一	特 殊 設 備	
病 院 総 病 床 数	380 床	炭酸ガスレーザー，紫外線照射装置	
皮 膚 科 病 床 数	2 床		
皮膚科年間総外来患者数	4,270 人	発 表 論 文 数	0
皮膚科年間総新患者数	816 人	発 表 演 題 数	0
皮膚科年間入院総手術数	0 件		
皮膚科年間外来総手術数	20 件		
皮膚科年間生検数	50 件		

氏 名	高木 圭一
役 職	皮膚科部長
専 門 医 資 格	皮膚科学会専門医
学 会 関 係 役 員	
病 院 の 運 営 委 員	褥瘡委員会副委員長，診療報酬委員会委員，倫理委員会委員，薬事委員会委員
外来（専門外来・回数）	週 5 回診察
平均病棟受け持ち患者数	2 人
学 生 講 義	

関連病院業績集

一般財団法人 住友病院	90
NTT 西日本大阪病院	90
独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院	91
大阪みなと中央病院	92
大阪府立急性期・総合医療センター	93
大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	93
岸和田徳洲会病院	96
公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院	96
公立学校共済組合 近畿中央病院	97
国家公務員共済組合連合会 大手前病院	98
(一財) 大阪府警察協会 大阪警察病院	99
市立池田病院	99
市立吹田市民病院	100
市立豊中病院	100
地方独立行政法人 市立堺病院	100
独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター	101
独立行政法人 国立病院機構 南和歌山医療センター	102
独立行政法人 労働者健康福祉機構 大阪労災病院	102
独立行政法人 労働者健康福祉機構 関西ろうさい病院	103
東大阪市立総合病院	103
箕面市立病院	104
八尾市立病院	104

一般財団法人 住友病院

[論文著書]

和文論文

1. 角田佳純, 竹原友貴, 庄田裕紀子: 1歳児の臀部に認めた結合織母斑. 皮膚病診療 皮膚病診療 2014;36(11):1017-20.

[学会発表]

1. 角田佳純, 竹原友貴, 庄田裕紀子: 良好な経過を辿ったカルシフィラキシスの1例. 第446回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.12.06)
2. 竹原友貴, 角田佳純, 庄田裕紀子: 右滑車神経不全麻痺を生じた帯状疱疹の1例. 第443回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.05.24)
3. 竹原友貴, 角田佳純, 庄田裕紀子: 血管炎を疑った片側下肢の再発性 HSV2 感染症の1例. 第65回日本皮膚科学会中部支部学術大会 大阪 (2014.10.26)
4. 豊田(角田)佳純, 竹原友貴, 庄田裕紀子: 結合織母斑の一例. 第113回日本皮膚科学会総会学術大会 京都 (2014.05.30-06.01)

[講演・その他]

1. 竹原友貴, 角田佳純, 庄田裕紀子: 血管炎を疑った片側下肢の再発性単純ヘルペスウイルス-2型感染症の1例. 第10回大阪大学皮膚科臨床検討会 大阪 (2014.03.08)
2. 竹原友貴, 角田佳純, 庄田裕紀子: 骨髓異形成症候群との関連が疑われる紅皮症の1例. 第209回大阪皮膚科症例検討会 大阪 (2014.06.26)

[受賞] 0

NTT 西日本大阪病院

[論文著書]

英文論文

1. Hinogami H, Sakai H, Shirabe H: Case of semicircular lipoatrophy: Relation between its characteristic distribution and anatomical muscle structure. J Dermatol. 2014;41:749-51.
2. Sakai H, Tnomomura K, Shirabe H, Tnanaka M: A dermoscope allowing the use of surgical light as illumination. Dermatol Pract Concept. 2014;4(3):87-8.
3. Sakai H, Tnomomura K, Shirabe H, Tnanaka M: Assessment of the colors of melanin pigment in acral compound nevus by using a novel dermoscopy technique with surgical light illumination and saturation analysis. Dermatol Pract Concept. 2014;4(4):51-6.

和文論文

1. 外村香子, 日野上はるな, 坂井浩志, 調 裕次, 竹内英二: 皮下腫瘍を疑った上腕二頭筋長頭腱断裂の1例. 皮膚の科学 2014;13(3):180-4.
2. 水野麻衣, 清水裕希, 坂井浩志, 調 裕次: 関節リウマチにてトシリズマブ投与中に発症した Pasteurella 症. 皮膚病診療 2014;36(5):453-6.

[学会発表]

1. 鎌田千恵, 外村香子, 坂井浩志, 調 裕次: SLE の加療中にパルボ B19 ウイルス感染を合併した 1 例. 第 443 回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.05.24)
2. 鎌田千恵, 外村香子, 坂井浩志, 調 裕次: 皮膚軟部腫瘍との鑑別を要した髄膜腫. 第 446 回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.12.06)
3. 坂井浩志, 鎌田千恵, 外村香子, 調 裕次, 田中 勝 (東京女子医科大学東医療センター): 彩度分析における色素性病変の深度解析. 第 41 回皮膚かたち研究学会学術大会 (日本電顕皮膚生物学会) 大阪 (2014.07.26)
4. 坂井浩志, 外村香子, 鎌田千恵, 調 裕次: 皮膚における「青色」の検討. 第 65 回日本皮膚科学会中部支部学術大会 大阪 (2014.10.26)
5. 外村香子, 坂井浩志, 調 裕次: 成人スチル病の皮疹について. 第 23 回なにわりウマチフォーラム 大阪 (2014.01.18)
6. 外村香子, 日野上はるな, 坂井浩志, 調 裕次: 皮下腫瘍と鑑別を要した肋骨骨折後背部血腫. 第 113 回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.31)
7. 外村香子, 鎌田千恵, 前田麻衣子, 坂井浩志, 調 裕次: SLE 様症状を呈した IgA 欠損症の 1 例. 第 107 回近畿皮膚科集談会 第 444 回日本皮膚科学会大阪地方会 第 436 回日本皮膚科学会京滋地方会 大阪 (2014.07.13)
8. 外村香子: 蝶形紅斑について. 第 24 回なにわりウマチフォーラム 大阪 (2014.09.13)

[講演・その他]

1. 鎌田千恵: 带状疱疹のすべて. 第 2 回感染対策セミナー (感染研究会) 大阪 (2014.07.28.30)
2. 調 裕次: 身近な昆虫・原虫などによる皮膚疾患. 鳥居薬品株式会社研修会 大阪 (2014.02.07)
3. 調 裕次: 偽の膠原病・膠原病様症候群. 平成 26 年度大阪大学皮膚科専攻医クルズス 大阪 (2014.12.20)
4. 外村香子: 肘部リウマチ結節と滑液嚢腫の合併症例. 第 2 回リウマチ・膠原病センター合同カンファレンス 大阪 (2014.10.30)

独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院

[論文著書]

和文論文

1. 池上隆太: 下肢切断の疫学. 整形外科看護 2014;19(10):74-7.
2. 木村 綾, 塚本文音, 宮本景子, 笠島綾子, 西前綾香, 樋口奈苗, 大井 香, 久保杏奈, 田渕由希子, 中内千暁, 中井千晶, 坂本幸子, 池上隆太, 西多俊幸, 春日井 務: 乳癌に対する乳房温存療法後の照射野に発生した血管肉腫の 2 例. 乳癌の臨床 2014;29(4):433-41.
3. 中井大介, 亀井利沙, 溝口奈穂, 松本考平, 池上隆太: 結節性紅斑様皮疹を伴った急性汎発性膿疱性細菌疹. 皮膚病診療 2014;36(1):47-50.
4. 松本考平, 亀井利沙, 溝口奈穂, 中井大介, 池上隆太, 岡 樹史: 集学的治療を行った難治性下腿潰瘍を伴うクリオグロブリン血症の 1 例. 臨床皮膚科 2014;68(3):223-8.
5. 溝口奈穂, 亀井利沙, 中井大介, 松本考平, 池上隆太: 頰回の局所注射によって生じた panniculitis ossificans の 1 例. 臨床皮膚科 2014;68(2):141-4.
6. 溝口奈穂, 亀井利沙, 中井大介, 松本考平, 西尾優志, 松下哲也, 池上隆太: 頭部熱傷瘢痕に有棘細胞癌が先行し悪性黒色腫を生じた 1 例. 臨床皮膚科 2014;68(6):441-6.

[学会発表]

1. 池上隆太, 井上知子, 溝口奈穂, 坂本幸子, 松本考平: 自己炎症疾患の疑診例. 第7回自己炎症疾患研究会 東京 (2014.02.01)
2. 池上隆太, 中西由香, 前田結香, 森田和美, 清水加世子, 酒井圭子, 伊藤博人, 井上知子, 酒井晋介, 中林洋平, 小林勇介, 銭林雅子, 小笠原延行, 藤井弘通, 松下哲也, 宮田 哲: 地域連携におけるフットケアの課題～アンケート調査をとおして～. 第12回日本フットケア学会 奈良 (2014.03.07-08)
3. 安部正敏, 池上隆太, 爲政大畿, 加藤裕史, 櫻井栄一, 中西健史, 松尾光馬, 山崎 修: ガイドラインを踏まえた糖尿病性潰瘍・壊疽の治療戦略. 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
4. 安部正敏, 爲政大畿, 中西健史, 山崎 修, 松尾光馬, 加藤裕史, 櫻井栄一, 池上隆太: 明日から差がつく皮膚科看護学～どこが違い, 何が求められるのか? 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
5. 井上知子, 溝口奈穂, 松本考平, 坂本幸子, 池上隆太: 肝細胞癌に対しネクサバル投与中に出現した好中球性皮膚症の1例. 第208回大阪皮膚科症例検討会 大阪 (2014.03.27)
6. 井上知子, 溝口奈穂, 松本考平, 坂本幸子, 池上隆太: 発疹性黄色腫の1例. 第442回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.03.29)
7. 井上知子, 溝口奈穂, 坂本幸子, 松本考平, 池上隆太: 爪部に皮膚症状をみとめ骨髓炎を合併した自験例のまとめ. 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
8. 坂本幸子, 廣畑彩希, 西本知子, 清原恵理子, 池上隆太: PDS IIによる接触皮膚炎の1例. 第443回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.05.24)
9. 坂本幸子, 廣畑彩希, 西本知子, 清原恵理子, 池上隆太: 抗セントロメア抗体陽性シェーグレン症候群の1例. 第107回近畿皮膚科集談会 大阪 (2014.07.13)
10. 西本知子, 清原恵理子, 廣畑彩希, 花房崇明, 池上隆太: 成人女性の肛囲に生じた Eccrine porocarcinoma の1例. 第211回大阪皮膚科症例検討会 大阪 (2014.11.27)
11. 廣畑彩希, 西本知子, 坂本幸子, 清原恵理子, 池上隆太: 右頬部環状結節の1例. 第209回大阪皮膚科症例検討会 大阪 (2014.06.26)
12. 廣畑彩希, 西本知子, 坂本幸子, 清原恵理子, 池上隆太: 左大腿外側皮下結節の1例. 第210回大阪皮膚科症例検討会 大阪 (2014.09.18)
13. 廣畑彩希, 花房崇明, 西本知子, 清原恵理子, 池上隆太, 西出真之: 多発性硬化性萎縮性苔癬の1例. 第446回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.12.06)
14. 松本考平, 井上知子, 溝口奈穂, 坂本幸子, 池上隆太: 眼窩内膿瘍の1例. 第441回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.02.15)

[講演・その他]

1. 池上隆太, 井上知子, 溝口奈穂, 坂本幸子, 松本考平: 皮膚貼付試験 (パッチテスト) と診療報酬. 第12回大阪市西・中・北部地区皮膚科症例検討会 大阪 (2014.03.01)
2. 池上隆太: チーム医療における皮膚科の役割&保険診療の注意点. 大阪大学皮膚科新人クルズス 大阪 (2014.11.14)
3. 松本考平, 井上知子, 溝口奈穂, 坂本幸子, 池上隆太: 痛風結節の1例. 第12回大阪市西・中・北部地区皮膚科症例検討会 大阪 (2014.03.01)

大阪みなと中央病院

[論文著書] 0

[学会発表] 0

[講演・その他] 0

大阪府立急性期・総合医療センター

[論文著書]

和文論文

1. 中島武之：円形脱毛症に対するステロイドパルス療法. 美容と皮膚 2014;46(2):8-12.

[学会発表]

1. 中島武之：急速に進行する円形脱毛症の治療. 第19回日本臨床毛髪学会 岡山 (2014.11.23)
2. 西野洋輔, 藤原 碧, 中島武之：鼻尖部皮膚転移を初発症状とした食道癌の1例. 第445回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.10.04)
3. 西野洋輔, 藤原 碧, 中島武之：C型慢性肝炎に対するペグインターフェロン α 2bとリバビリン併用療法により膿疱化した尋常性乾癬の1例. 第446回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.12.06)

[講演・その他]

1. 中島武之, 西野洋輔：Pyogenic granuloma-like Kaposi's sarcomaの1例. 第208回大阪皮膚科症例検討会 大阪 (2014.03.27)
2. 中島武之：Pyogenic granuloma-like Kaposi's sarcomaの1例. 第3回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.04.24)
3. 中島武之：全身性エリテマトーデスと皮膚筋炎 - 臨床・病理所見の対比. 第4回阪堺皮膚科勉強会 大阪市 (2014.06.27)
4. 中島武之：ほくろのように見えるガン. 平成26年度第2回府民公開講座 大阪 (2014.09.13)
5. 中島武之：Reactive perforating collagenosisの1例. 第5回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.11.20)
6. 西野洋輔：FDG-PET/CTが食道原発巣推定に有用であった転移性皮膚癌の1例. 第3回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.04.24)
7. 西野洋輔：C型慢性肝炎に対するPEG-IFN α 2b + リバビリン併用療法により膿疱化した尋常性乾癬の1例. 第4回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.06.27)
8. 西野洋輔：タクロリムス軟膏が奏功した形質細胞性龟头炎の1例. 第5回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.11.20)
9. 藤原 碧：ST合剤によりtoxic epidermal necrolysisをきたした1例. 第3回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.04.24)
10. 藤原 碧, 西野洋輔, 中島武之, 島津弘樹, 伏見博彰：Epithelioid hemangioendotheliomaを疑った1例. 第209回大阪皮膚科症例検討会 大阪 (2014.06.26)
11. 藤原 碧：Epithelioid hemangioendotheliomaとの鑑別を要したDermatofibromaの1例. 第4回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.06.27)
12. 藤原 碧：Persistent acantholytic dermatosis (Grover病)の1例の1例. 第5回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.11.20)
13. 藤原 碧, 西野洋輔, 中島武之, 伏見博彰：Persistent acantholytic dermatosis (Grover病)の1例. 第211回大阪皮膚科症例検討会 大阪 (2014.11.27)

大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター

[論文著書]

英文論文

1. Kataoka Y: Thymus and activation-regulated chemokine as a clinical biomarker in atopic dermatitis. J Dermatol. 2014;41(3):221-9.

和文論文

1. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎のバイオマーカー．アレルギー疾患のバイオマーカー 2014;1:91-6.
2. 片岡葉子：不登校・ひきこもりを伴ったアトピー性皮膚炎．Derma 2014;5(218):1-8.
3. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎診療の質 QI を考える．J Visual Dermatol 2014;13(10):1094-7.
4. 片岡葉子：皮膚と食物アレルギー．アレルギーの臨床 2014;34(12):18-22.
5. 安江智美, 川澄浩美, 片岡葉子：全自動免疫測定装置を用いた血清 TARC 測定試薬 (HISCLRTARC) の基礎的評価．アレルギーの臨床 2014;34(10):60-5.

和文著書

1. 片岡葉子 (宮地良樹 編)：3. ひきこもりアトピー性皮膚炎患者と心が通う治療の決め手－皮膚科医に欠けているスキルは何か？その解決法は？．苦手な外来皮膚疾患 100 の解決法～そのとき達人はどのように苦手皮膚疾患を克服したか？ メディカルレビュー社 2014, pp.42-3.
2. 片岡葉子 (加藤則人 編)：アトピー性皮膚炎の治療 Q21 アトピー性皮膚炎の治療の目標とゴールを教えてください．エキスパートが答える！アトピー性皮膚炎 Q&A55 診断と治療社 2014, pp.52-4.

[学会発表]

国際学会

1. Kataoka Y: Successful long-term control of severe refractory atopic dermatitis by accurate proactive therapy combined with monitoring of serum biomarker, thymus and activation-regulated chemokine (TARC) levels. ISAD 2014 8th Georg Rajka Symposium on Atopic Dermatitis, Nottingham, UK (2014.05.21-23)
2. Tanaka Y, Mandai T, Yoshioka R, Matsui S, Hayashida R, Kobayashi M, Maruyama S, Adachi K, Fujita H, Kataoka Y, Sobue T: The Quality of Life in children with Atopic Dermatitis. Quality of Life Research, Berlin, Germany (2014.10.15-18)
3. Kishida H: What is the ideal proactive therapy for atopic dermatitis?. ISAD 2014 8th Georg Rajka Symposium on Atopic Dermatitis, Nottingham, UK (2014.05.21-23)

国内学会

1. 片岡葉子：ステロイド外用薬をどう使うか？．アトピー性皮膚炎第 19 回シンポジウム 広島 (2014.02.02)
2. 片岡葉子：乳幼児アトピー性皮膚炎の管理：病態を考えた治療戦略と保護者教育．第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会 京都 (2014.05.09-11)
3. 片岡葉子：食物アレルギー予防介入としての外用療法の意義と方法．第 113 回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
4. 片岡葉子：寛解をめざす成人アトピー性皮膚炎の治療－外用 tight control－の意義と要点－．第 113 回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
5. 片岡葉子：小児アトピー性皮膚炎治療のパラダイムシフト．第 203 回大阪小児科学会 大阪 (2014.09.28)
6. 岸田寛子, 奥田英右, 別所 優, 原田 潤, 片岡葉子：激しい皮膚症状を呈した小児の好酸球性膿疱性毛包炎の一例 (疑診例)．第 209 回大阪皮膚科症例検討会 大阪 (2014.06.26)
7. 岸田寛子, 吉岡詠理子, 片岡葉子：血清 TARC 値を治療指標とした厳密な proactive 療法によって略治した成人重症アトピー性皮膚炎の 22 例．第 26 回日本アレルギー学会春季臨床大会 京都 (2014.05.09-11)
8. 岸田寛子, 吉岡詠理子, 片岡葉子：血清 TARC 値を治療指標とした厳密な proactive 療法によって略治した成人重症アトピー性皮膚炎の 22 例．第 35 回近畿アトピー性皮膚炎談話会 大阪 (2014.11.15)
9. 岸田寛子, 奥田英右, 別所 優, 吉岡詠理子, 原田 潤, 片岡葉子：血清 TARC 値を治療指標とした厳密な proactive 療法によって略治した成人重症アトピー性皮膚炎の 22 例．第 44 回日本皮膚ア

- ルギー・接触皮膚炎学会 仙台 (2014.11.21-23)
10. 原田 潤, 別所 優, 吉岡詠理子, 岸田寛子, 片岡葉子: 菌状息肉症の疑診例. 第 208 回大阪皮膚科症例検討会 大阪 (2014.03.27)
 11. 原田 潤, 奥田英右, 別所 優, 岸田寛子, 片岡葉子: 第 38 病日に専門医療機関に紹介され, 救命しえなかった薬剤性過敏症症候群 (DIHS) の 1 例. 第 107 回近畿皮膚科集談会 大阪 (2014.07.13)
 12. 別所 優, 吉岡詠理子, 原田 潤, 岸田寛子, 片岡葉子: 皮膚そう痒症を契機に診断された Graves 病の 1 例. 日本皮膚科学会第 442 回大阪地方会 大阪 (2014.03.29)
 13. 別所 優, 奥田英右, 原田 潤, 岸田寛子, 片岡葉子: 血漿交換, ステロイドパルス療法を初期に行い早期に寛解した重症水疱性類天疱瘡の 1 例. 第 20 回ギンナン皮膚科談話会 大阪 (2014.06.21)
 14. 別所 優, 奥田英右, 吉岡詠理子, 松井佐起, 岸田寛子, 片岡葉子: ムコダインによる非色素沈着型固定薬疹の 1 例. 第 74 回臨床アレルギー研究会 大阪 (2014.11.29)
 15. 松井佐起, 奥田英右, 別所 優, 岸田寛子, 片岡葉子: 診断例 primary cutaneous CD30positive lymphoproliferative disorder か?. 第 211 回大阪皮膚科症例検討会 大阪 (2014.11.27)
 16. 奥田英右, 別所 優, 原田 潤, 岸田寛子, 片岡葉子: メチルエフェドリンによるアナフィラキシーの 1 例. 第 73 回臨床アレルギー研究会 大阪 (2014.07.12)
 17. 奥田英右, 別所 優, 松井佐起, 岸田寛子, 片岡葉子: 強い皮膚症状を呈するが, 全身症状を伴わない皮膚筋炎の 1 例. 第 210 回大阪皮膚科症例検討会 大阪 (2014.09.18)
 18. 奥田英右, 別所 優, 原田 潤, 岸田寛子, 片岡葉子: メチルエフェドリンによるアナフィラキシーの 1 例. 第 44 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 仙台 (2014.11.21-23)
 19. 奥田英右, 別所 優, 松井佐起, 岸田寛子, 片岡葉子: 急性に発症した肉芽腫性酒さの 1 例. 第 446 回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.12.06)

[講演・その他]

講演

1. 片岡葉子: 寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療: ステロイド外用療法を再考する. 第 77 回日本皮膚科学会東京支部学術大会 東京 (2014.02.15-16)
2. 片岡葉子: 寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療: TARC で見直す治療戦略. 第 7 回土佐スキンフォーラム 高知 (2014.03.14)
3. 片岡葉子: 小児アトピー性皮膚炎の治療～外用療法の意義とコツ～. 豊岡市医師会学術講演会 兵庫 (2014.04.12)
4. 片岡葉子: 寛解を目指すアトピー性皮膚炎の外用療法. How to “tight control” 5th D+Muscat 岡山 (2014.04.19)
5. 片岡葉子: TARC: 皮膚科専門医こそ使いこなしたいバイオマーカー. 第 30 回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会 横浜 (2014.04.26)
6. 片岡葉子: 重症アトピー性皮膚炎: ゴールを見据えた治療戦略とシクロスポリンの位置づけ. 第 113 回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
7. 片岡葉子: アトピー性皮膚炎の病態と検査・治療. アレルギー看護コースⅢ 大阪 (2014.06.06)
8. 片岡葉子: Tricky Atopic Dermatitis: 治療のゴール到達を阻む 3 つの pitfall. タリオン学術講演会 鹿児島 (2014.06.07)
9. 片岡葉子: 病院紹介およびアトピー性皮膚炎. H26 年度大阪大学皮膚科専攻医クルズス 大阪 (2014.06.21)
10. 片岡葉子: アトピー性皮膚炎 外用療法を再考する. 第 51 回奈良県医師会皮膚科部会学術講演会 奈良 (2014.07.05)
11. 片岡葉子: 寛解を目指すアトピー性皮膚炎の治療 - TARC で見直す治療戦略 -. 徳島臨床皮膚科医会定例会 徳島 (2014.07.31)
12. 片岡葉子: TARC の登場とアトピー性皮膚炎治療のブレイクスルー. シスメックスセミナー 広島 (2014.08.09)
13. 片岡葉子: TARC の登場とアトピー性皮膚炎治療のブレイクスルー. シスメックスセミナー 福山 (2014.08.30)

14. 片岡葉子：TARC の登場とアトピー性皮膚炎治療のブレイクスルー. シスメックスセミナー 岡山 (2014.09.06)
15. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎 痒疹 蕁麻疹. 大阪大学学生講義 大阪 (2014.09.12)
16. 片岡葉子：TARC の登場とアトピー性皮膚炎治療のブレイクスルー. シスメックスセミナー 松山 (2014.09.13)
17. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎：治療のゴール到達を阻む 3 つの pitfall. 第 10 回神奈川皮膚免疫アレルギー疾患研究会 神奈川 (2014.10.11)
18. 片岡葉子：小児アトピー性皮膚炎：治療のゴール到達を阻む pitfall. 第 30 回兵庫医大小児科臨床カンファレンス 兵庫 (2014.10.23)
19. 片岡葉子：アトピー性皮膚炎 治療戦略としての患者教育. 第 44 回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 仙台 (2014.11.21-23)

その他

1. 研究企画：第 35 回近畿アトピー性皮膚炎談話会“ステロイド本音トーク”を当番世話人として企画 (2014.11.15)

岸和田徳洲会病院

[論文著書] 0

[学会発表] 0

[講演・その他] 0

公益財団法人 日本生命済生会付属 日生病院

[論文著書] 0

[国内学会]

1. 大川たをり, 岡田みどり, 高橋玲子, 東山真里：ケロイドとして加療されていた神経莖腫の 1 例. 第 441 回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.02.15)
2. 大川たをり, 岡田みどり, 高橋玲子, 東山真里：主に露光部に皮疹が出現する Hailey-Hailey 病. 第 113 回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
3. 岡田みどり, 大川たをり, 高橋玲子, 東山真里：炎症性腸炎と皮膚疾患. 第 30 回日本臨床皮膚科医会 横浜 (2014.04.26-27)
4. 岡田みどり, 大川たをり, 高橋玲子, 東山真里：当科で経験した海洋生物による皮膚障害. 第 443 回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.05.24)
5. 高橋玲子, 大川たをり, 岡田みどり, 東山真里：小児の蕁麻疹様血管炎の女児の 1 例. 第 443 回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.05.24)
6. 東山真里・岡田みどり・高橋玲子・大川たをり・辻 成佳 (星ヶ丘厚生年金病院整形外科)：アダリムマブにて治療した乾癬および関節症性乾癬の長期治療成績. 第 113 回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
7. 東山真里・溝口奈穂・高橋玲子・大川たをり, 辻 成佳 (星ヶ丘厚生年金病院整形外科)：アダリムマブにて治療した関節症性乾の長期治療成績. 第 29 回日本乾癬学会 高知 (2014.09.19-20)

8. 東山真里：乾癬の併存疾患を考える．第 78 回日本皮膚科学会東部支部学術大会スイーツセミナー2 青森（2014.10.04-05）
9. 東山真里：ターゲット型エキシマランプによる皮膚疾患の治療．第 65 回日本皮膚科学会中部支部学術大会イブニングセミナー3 大阪（2014.10.25）
10. 山元麻生，大川たをり，岡田みどり，高橋玲子，東山真里：健常人の癬よりに発症した probable toxic shock syndrome．第 442 日本皮膚科学会大阪地方会 大阪（2014.03.29）

[講演会・その他]

1. 東山真里：分子標的薬剤と皮膚障害．第 6 回薬剤師セミナー 神戸（2014.01.18）
2. 東山真里：EGF-TKI の Rash Management 皮膚障害の予防と治療—皮膚科医の立場より．中外 e セミナー on Lung Cancer 2014 大阪（2014.03.20）
3. 東山真里：乾癬と乾癬性関節炎について—関節は痛みませんか？ 難病医療相談会（2014.03.23）
4. 東山真里：外用療法は乾癬治療の第一歩 —なれどトータルケアも重要．2014 乾癬学術フォーラム in 大阪 大阪（2014.07.19）
5. 東山真里：乾癬治療の Key —乾癬治療ネットワークと患者会の役割．第 3 回鹿児島ひふ BIO 研究会 鹿児島（2014.07.12）
6. 東山真里：関節症性乾癬を見逃さないためのポイント—関節は痛みませんか？ 第 7 回新しい乾癬治療を考える会 神戸（2014.11.13）
7. 東山真里：乾癬治療の Key —より良い病診連携構築のために．OA 会 大阪（2014.11.15）
8. 東山真里：乾癬とはどんな病気—治療に大切なことは？ 市民公開講座—乾癬の治療 岐阜（2014.11.30）
9. 東山真里：乾癬におけるネオオラル療法による B 型肝炎の再活性化—投与前スクリーニングと治療．ネオオラルの適正使用と副作用マネジメントを考える会 大阪（2014.12.18）

公立学校共済組合 近畿中央病院

[論文著書]

英文論文

1. Okino T, Fujioka A, Nakajima H, Tarutani M, Shuin T, Sano S: Effective treatment of metastatic renal cell carcinoma with topical imiquimod therapy. J Dtsch Dermatol Ges. 2014;12(2):155-7.
2. Kitagawa C, Nakajima K, Aoyama Y, Fujioka A, Nakajima H, Tarutani M, Tsuruta D, Hashimoto T, Sano S: A typical case of paraneoplastic pemphigus without detection of malignancy: effectiveness of plasma exchange. Acta Derm Venereol. 2014;94(3):359-61.

和文論文

1. 山本真有子，佐野栄紀，樽谷勝仁，田口崇文：Cushing 症候群に伴った色素性痒疹．皮膚病診療 2014;36(9):841-4.

[学会発表]

1. 岡田みどり，北場 俊，樽谷勝仁：尋常性乾癬の皮疹部を避けて出現した汎発性膿疱性乾癬の 1 例．第 29 回日本乾癬学会 高知（2014.09.19）
2. 岡田みどり，北場 俊，樽谷勝仁（近畿中央病院），妻野知子（同形成外科），梅田晋嗣（伊丹市）：有茎性を呈した基底細胞癌の 1 例．第 65 回日本皮膚科学会中部支部学術大会 大阪（2014.10.25）
3. 樽谷勝仁，阿部綾乃，北場 俊（近畿中央病院），河合健一郎（同形成外科），上原満，本多正人（同泌尿器科）：KID 症候群に合併したフルニエ壊疽の 1 例．第 63 回日本皮膚科学会高知地方会 高知（2014.02.01）

4. 樽谷勝仁, 北場 俊, 岡田みどり (近畿中央), 伊原啓雄 (同消化器内科) 日浦祐一郎, 日浦結衣 (伊丹市), 安武弘子 (尼崎市): アナフィラクトイド紫斑の2例. 第64回日本皮膚科学会高知地方会 高知 (2014.07.26)
5. 若嶋千恵 (高知大), 樽谷勝仁, 佐野栄紀 (高知大): 喉頭蓋病変により窒息に至った木村病の1例. 第65回日本皮膚科学会中部支部学術大会 大阪 (2014.10.25)

[講演・その他]

1. 岡田みどり: ウイルス性発疹症か?. 第72回尼崎伊丹病院診療所皮膚科医研究会 伊丹 (2014.06.19)
2. 岡田みどり: 黒色調を呈した皮膚線維腫の1例. 第73回尼崎伊丹病院診療所皮膚科医研究会 伊丹 (2014.10.16)
3. 北場 俊: 瘢痕性類天疱瘡の1例. 第71回尼崎伊丹病院診療所皮膚科医研究会 伊丹 (2014.02.20)
4. 樽谷勝仁: 高知で経験した興味深い症例. 平成26年兵庫県皮膚科医会幹事会新年講演会 神戸 (2014.01.25)
5. 樽谷勝仁: 紹介患者その後 最近の皮膚科を巡る話題. 第75回尼崎臨床皮膚科勉強会 尼崎 (2014.02.13)
6. 樽谷勝仁: 少量のステロイド内服により改善した皮膚筋炎の1例. 第71回尼崎伊丹病院診療所皮膚科医研究会 伊丹 (2014.02.20)
7. 樽谷勝仁: 高知での診療と近畿中央病院での1年間を振り返って. 第23回伊丹市皮膚科医会講演会 伊丹 (2014.05.17)
8. 樽谷勝仁: 限局性類天疱瘡と考えられた1例. 第72回尼崎伊丹病院診療所皮膚科医研究会 伊丹 (2014.06.19)
9. 樽谷勝仁: バザン硬結性紅斑か?. 第72回尼崎伊丹病院診療所皮膚科医研究会 伊丹 (2014.06.19)
10. 樽谷勝仁: 乾癬治療における病診連携について. 第7回阪神地区皮膚科セミナー 尼崎 (2014.07.17)
11. 樽谷勝仁, 岡田みどり, 北場 俊: 炎症を伴った汗孔角化症の2例. 第29回角化症研究会 東京 (2014.08.02)
12. 樽谷勝仁: 角化症 大阪大学皮膚科新人クルズス. 第6回センターリサーチセミナー 大阪 (2014.08.23)
13. 樽谷勝仁: 乾癬治療における外用療法の位置づけ. Dovobet 発売記念講演会 大阪 (2014.10.11)
14. 樽谷勝仁: 限局性強皮症の1例. 第73回尼崎伊丹病院診療所皮膚科医研究会 伊丹 (2014.10.16)

国家公務員共済組合連合会 大手前病院

[論文著書] 0

[学会発表]

1. 園田早苗: 毎日の診療に役立つ皮膚科豆知識と薬剤療法. 大手前病院病診連携症例検討会 大阪 (2014.03.20)
2. 高橋祐史, 園田早苗: 水疱様外観を呈した基底細胞癌. 日本皮膚科学会第442回大阪地方会 大阪 (2014.03.29)
3. 園田早苗, 高橋祐史, 小豆澤宏明: 低補体血症性蕁麻疹様血管炎と考えた1例. 第211回大阪皮膚科症例検討会 大阪 (2014.11.27)

[講演・その他] 0

(一財) 大阪府警察協会 大阪警察病院

[論文著書]

和文論文

1. 辻 洋美, 城光寺 龍, 辻本正彦, 玉井皓己, 安藤純実, 八幡陽子, 堀 由美子, 森井英一: 回腸原発明細胞肉腫の1例. 診断病理 2014;31(1)42-6.
2. 須磨朱里, 安藤純実, 八幡陽子: 乳頭部色素性 Paget 病の1例. 臨床皮膚科 2014;68(8)626-30.

[学会発表]

1. 安藤純実, 須磨朱里, 八幡陽子: 若年性側頭動脈炎の1例. 第65回日本皮膚科学会中部支部学術大会 大阪 (2014.10.26)
2. 須磨朱里, 安藤純実, 八幡陽子: 掌蹠膿疱症を合併したクローン病患者に生じたアダリムマブによる paradoxical reaction の1例. 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30)
3. 須磨朱里, 安藤純実, 八幡陽子: milia en plaque と考えられた Infundibulocystic Squamous cell carcinoma の1例. 第30回日本皮膚悪性腫瘍学会 東京 (2014.07.04)
4. 須磨朱里, 安藤純実, 八幡陽子: 巨大尖圭コンジローマ. 第65回日本皮膚科学会中部支部学術大会 大阪 (2014.10.26)
5. 八幡陽子, 須磨朱里, 安藤純実: 若年性側頭動脈炎の1例. 第73回臨床アレルギー研究会 (関西) 大阪 (2014.07.12)

市立池田病院

[論文著書]

和文論文

1. 丸山彩乃, 早石佳奈, 水野麻衣, 吉良正浩: リンパ腫の既往がある成人に発症し遷延した水痘の1例. 皮膚の科学 2014;13(2):89-92.
2. 丸山彩乃, 早石佳奈, 水野麻衣, 吉良正浩, 福田健児, 大橋寛嗣: 帝王切開の手術瘢痕部に生じた異所性子宮内膜症の1例. 臨床皮膚科 2014;68(12):971-3.

[学会発表]

1. 亀井利沙, 丸山彩乃, 水野麻衣, 吉良正浩: 光線治療歴のない乾癬に合併した汗孔角化症はデルマトームなのか?. 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
2. 丸山彩乃, 亀井利沙, 水野麻衣, 吉良正浩: 酢酸リユープロレリンの皮下注射により生じた皮膚潰瘍の1例. 第441回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.02.15)
3. 丸山彩乃, 亀井利沙, 水野麻衣, 吉良正浩: 皮膚潰瘍を形成した原発性皮膚クリプトコッカス症の1例. 第443回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.05.24)
4. 丸山彩乃, 亀井利沙, 水野麻衣, 吉良正浩: エソメプラゾールによる多形紅斑型薬疹の1例. 第65回中部支部学術大会 大阪 (2014.10.25-26)

[講演・その他]

1. 吉良正浩: 皮膚がんの話ー恐れるなかれ, されども侮ることなかれー 平成26年度市立池田病院市民公開講座 池田 (2014.09.11)

市立吹田市民病院

[論文著書] 0

[学会発表] 0

[講演・その他] 0

市立豊中病院

[論文著書] 0

[学会発表]

1. 亀井理沙, 横見明典, 藤盛祐梨: ガス壊疽の3例. 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
2. 亀井理沙, 横見明典, 藤盛祐梨: 本態性血小板症に伴った下腿難治性潰瘍の1例. 第65回中部支部学術大会 大阪 (2014.10.25-26)
3. 藤盛祐梨, 亀井理沙, 横見明典: 免疫グロブリン大量静注療法が奏功した中毒性表皮壊死症の1例. 第44回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 仙台 (2014.11.21-23)
4. 横見明典, 亀井理沙, 藤盛祐梨: 踵部表皮嚢腫, 慢性膿皮症より発生した有棘細胞癌の1例. 第30回皮膚悪性学会学術大会 東京 (2014.07.04-05)

[講演・その他] 0

地方独立行政法人 市立堺病院

[論文著書]

英文論文

1. Miura H, Shirai H: Low-dose administration of oral pazopanib for the treatment of recurrent angiosarcoma. Clin Exp Dermatol. in press.

和文論文

2. 種村 篤, 小紫雄貴, 田中 文, 片山一朗, 三浦宏之: 血管肉腫を外科的切除する際に行った止血の一工夫. 日本皮膚外科学会誌 2014;18(2):116-9.

[学会発表]

国際学会

1. Miura H, Nshihira M, Shindo S, Norioka Y, Shirai H: Low-dose administration of pazopanib for the treatment of recurrent angiosarcoma. 3rd Eastern Asia Dermatology congress, Jeju Korea (2014.09.24-26)

国内学会

1. 三浦宏之, 西平守明, 進藤翔子, 則岡有佳, 白井洋彦: 低用量パゾパニブ内服が奏効した頭部血管肉腫の2例. 第30回日本皮膚悪性腫瘍学会 東京 (2014.07.04-05)

[講演・その他]

1. 白井洋彦: 爪甲様の外見を呈した血管拡張性肉芽腫の1例. 3回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.04.24)
2. 白井洋彦: Steatocystoma multiplex の1例. 4回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.06.27)
3. 白井洋彦: 複雑な経過を経た悪性黒色腫の3例. 5回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.11.20)
4. 進藤翔子: 高齢者に生じた陰部 Paget 病の1例. 4回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.06.27)
5. 西平守明: Melanoma in situ の1例. 3回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.04.24)
6. 西平守明: 落葉状天疱瘡の1例. 4回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.06.27)
7. 三浦宏之: 転移性皮膚癌の1例. 第30回堺市皮膚科医会カンファレンス 堺 (2014.01.25)
8. 三浦宏之: 替わる堺病院, 変わる皮膚科, かわらぬ。。。 堺市医師会皮膚科医会定例会 堺 (2014.03.15)
9. 三浦宏之: 低用量ヴォトリエントによる血管肉腫の治療. 3回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.04.24)
10. 三浦宏之: 男子中学生に発症した光線性爪甲剥離症. 第31回堺市皮膚科医会カンファレンス 堺 (2014.06.07)
11. 三浦宏之: メールで画像のやりとりを行った病病連携の小児症例. 4回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.06.27)
12. 三浦宏之: Paget 病に対するイミキモド療法について. 4回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.06.27)
13. 三浦宏之: 分子標的薬による頭部血管肉腫の治療について. 第3回南大阪皮膚科診療研究会 堺 (2014.07.17)
14. 三浦宏之: ダーモスコピーで黄色に見えた2病変について. 第32回堺市皮膚科医会カンファレンス 堺 (2014.10.11)
15. 三浦宏之: 皮膚科医としての診療と趣味, 血管肉腫. 大阪大学皮膚科新人クルズ 大阪 (2014.11.14)
16. 三浦宏之: 色素失調症, 母子の症状比較. 5回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.11.20)
17. 三浦宏之: リンパ浮腫が関連した3症例, Stewart-Treves 症候群など. 5回阪堺皮膚科勉強会 大阪 (2014.11.20)

独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター

[論文著書]

和文論文

1. 爲政大幾, 高橋麻由子, 藤井弓子, 岡本祐之: 痕跡的多指症. 皮膚病診療 2014;36(11):1041-4.

[学会発表]

1. 池田 彩, 藤井麻美, 永松麻紀, 宮崎明子, 小澤健太郎, 田所丈嗣: 左下腿に生じた *Mycobacterium chelonae* 皮膚感染症の1例. 第107回近畿皮膚科集談会 大阪 (2014.07.13)
2. 爲政大幾: Phacomatosis pigmentokeratolica. 第29回日本皮膚外科学会総会・学術大会 和歌山 (2014.09.13-14)
3. 永松麻紀, 池田 彩, 野口史人, 宮崎明子, 今中愛子, 小澤健太郎, 田所丈嗣, 土居敏明, 種村 篤: 鼠径リンパ節および原発巣の自然消退を認めた足底の悪性黒色腫の1例. 第441回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.02.15)

4. 永松麻紀, 藤井麻美, 池田 彩, 宮崎明子, 小澤健太郎, 田所丈嗣, 稲宮知美: CD34 positive plaque-like dermal fibroma の1例. 第443回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.05.24)
5. 藤井麻美, 永松麻紀, 池田 彩, 宮崎明子, 小澤健太郎, 田所丈嗣, 芝田孝一: Follicular squamous carcinoma と診断した1例. 第65回日本皮膚科学会中部支部学術大会 (2014.10.25-26)
6. 藤井麻美, 永松麻紀, 東祥子, 池田 彩, 宮崎明子, 小澤健太郎, 田所丈嗣, 爲政大幾: 上口唇に発生した pseudolymphoma の1例. 第446回日本皮膚科学会大阪地方会 大阪 (2014.12.06)
7. 宮本麻美, 永松麻紀, 池田 彩, 宮崎明子, 小澤健太郎, 田所丈嗣: セファゾリンナトリウムによるアナフィラキシーショックの2例. 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)

[講演・その他]

1. 爲政大幾: 皮膚悪性腫瘍の治療 最新のトピックス. 第210回大阪皮膚科症例検討会 大阪 (2014.09.18)
2. 爲政大幾: ICG 蛍光法の基礎と臨床～: 皮膚癌. 第7回 蛍光 Navigation Surgery 研究会 京都 (2014.10.18)
3. 爲政大幾: 糖尿病性皮膚潰瘍. 第9回熊本創傷治療セミナー 熊本 (2014.11.06)
4. 爲政大幾: 糖尿病性皮膚潰瘍の診療におけるポイント. 第21回ギンナン皮膚科談話会 大阪 (2014.12.20)
5. 小澤健太郎: HIV 感染症と帯状疱疹. 第619回湾岸勉強会 神戸 (2014.06.21)
6. 小澤健太郎: 関連疾患のご紹介患者さんの経過報告. 大阪中央皮膚疾患フォーラム 大阪 (2014.10.23)

独立行政法人 国立病院機構 南和歌山医療センター

[論文著書] 0

[学会発表] 0

[講演・その他] 0

独立行政法人 労働者健康福祉機構 大阪労災病院

[論文著書]

和文論文

1. 土居敏明, 辻村 剛, 城村拓也, 朝倉麻衣子: ヨコヅナサシガメの幼虫による刺症. 皮膚の科学 2013;12(5):329-30. (注記: 掲載号が発行されたのは, 2014 年)

[学会発表] 0

[講演・その他]

座長

1. 平尾文香 (近畿大学): 近大皮膚科における女性外来 (美容皮膚科) について. 南大阪皮膚疾患フォーラム 堺市 (2014.07.10)

独立行政法人 労働者健康福祉機構 関西ろうさい病院

[論文著書]

和文論文

1. 石川貴裕, 佐藤仁美, 西澤 綾, 福山國太郎, 高山かおる, 井川 健, 横関博雄: 骨髄露出療法で治療した難治性糖尿病性潰瘍. 皮膚病診療 2014;36(9):837-40.
2. 古屋亜衣子, 福山國太郎, 高山かおる, 佐藤貴浩, 横関博雄: 開封後のお好み焼き粉に繁殖したダニの経口摂取によるアナフィラキシーの1例. 臨床皮膚科 2014;68(2):113-7.

[学会発表]

1. 西野洋輔, 藤原 碧, 中島武之: 鼻尖部皮膚転移を初発症状とした食道癌の1例. 第445回大阪地方会 大阪 (2014.10.4)
2. 西野洋輔, 藤原 碧, 中島武之: C型慢性肝炎に対するペグインターフェロンα2bとトリバタリン併用療法により膿疱化した尋常性乾癬の1例. 第446回大阪地方会 大阪 (2014.12.06)
3. 原田 潤, 奥田英佑, 別所 優, 岸田寛子, 片岡葉子: 肺膿瘍を合併した難治性口腔扁平苔癬の一例. 第65回日本皮膚科学会中部支部学術大会 大阪 (2014.10.25-26)

[講演・その他]

1. 福山國太郎: 部位と色から考える皮膚癌スクリーニング. 伊丹市医師会学術講演会 伊丹 (2014.02.05)
2. 福山國太郎: 紹介患者報告. 尼崎臨床皮膚科医会 尼崎 (2014.02.13)
3. 福山國太郎: 皮膚真菌症の診断ーコツとピットフォール. 日本皮膚科学会総会イブニングセミナー 京都 (2014.05.31)

東大阪市立総合病院

[論文著書]

和文論文

1. 園山悦子, 渡邊愛子, 猿喰浩子: Bowen病に合併し急速に多発転移したMerkel細胞癌の1例. 臨床皮膚科 2014;68(4):323-7.

[学会発表]

1. 園山悦子, 渡邊愛子, 猿喰浩子: 合併した直腸癌の治療により軽快したLangerhans Cell Histiocytomaの1例. 第113回日本皮膚科学会総会 京都 (2014.05.30-06.01)
2. 渡邊愛子, 園山悦子, 猿喰浩子: 特異な皮疹を呈したアナフィラクトイド紫斑の1例. 第65回日本皮膚科学会中部支部学術大会 大阪 (2014.10.25-26)

[講演・その他] 0

箕面市立病院

〔論文著書〕 0

〔学会発表〕

1. 東 典子, 崎元和子, 松本千穂, 高群美和, 曾我文久, 井端 剛: ヒト免疫グロブリン大量静注療法が奏功した皮膚筋炎の一例. 第 65 回日本皮膚科学会中部支部学術大会 大阪 (2014.10.25-26)
2. 東 典子, 松本千穂: BCG 副反応の 2 例. 第 137 回豊中市医師会皮膚科会 豊中 (2014.11.08)

〔講演・その他〕

1. 松本千穂: 抗がん剤治療における手足症候群 (Hand-Foot syndrome). がん化学療法学習会 箕面 (2014.06.03)

八尾市立病院

〔論文著書〕 0

〔学会発表〕 0

〔講演・その他〕 0

大阪大学皮膚科学教室年報

2014

発 行：大阪大学医学部皮膚科学教室

印 刷：山 代 印 刷 株 式 会 社

表 紙：「ユカタン半島のセノーテ」

メキシコ，ユカタン半島には地下水が長い年月をかけ，石灰層の土壌を浸蝕して，出来た数千キロに及ぶセノーテと呼ばれる地底湖が広がっている。その巨大な地底湖から光を求めて多くの植物がしっかり根を伸ばし，若葉を広げる姿は神々しい。

平成27年 9 月